手順編

1.給水・排水部 ▶28

2.手洗器キャビネット・カウンター ▶46

3.幕板 ▶58

4.手洗給水・排水部 ▶59

5.アクセントパネル（選択商品） ▶63

6.手洗器・水栓金具 ▶68

7.フレキホース・コントローラ・電気温水器 ▶73

8.大便器 ▶80

9.ウォシュレット ▶84

10.確認・仕上げ ▶85

11.シリコーン系シール剤 ▶90

マーク表示について

寒冷地仕様の場合を示します。

水平器で水平・垂直確認してください。

カットしてください。

下穴をあけてください。（例:φ3の場合）

脱脂用アルコールで脱脂してください。

シールテープを巻いてください。

塩ビ用接着剤を塗布してください。（例:塗布の場合）

電動ドライバー使用禁止です。手締めしてください。

けがきをしてください。

両面テープを使用してください。

1. 給水・排水部

使用部材 ※包装内に一部使用しない部材（■）がある場合のみ表記しています。

◆排水ソケットセット

【AS/RSタイプ 床排水200mm/リモデル200mm】

- トラスタッピンねじ 5×40(2本)
- 前固定片(1個)
- 接着ブロック(1個)
- トラスタッピンねじ 5×50(6本)
- 六角ボルト(2本)
- 止め金具(2個)
- ナット(2個)
- 座金(2個)

【AS/RSタイプ 床排水リモデル320～540mm】

- トラスタッピンねじ 5×40(2本)
- 前固定片(1個)
- 接着ブロック(1個)
- トラスタッピンねじ 5×50(4本)
- 六角ボルト(2本)
- 止め金具(2個)
- Tボルト(2本)
- ナット(2個)
- ワッシャー(2個)
- ナット(2個)
- 座金(2個)

【LSタイプ】

- トラスタッピンねじ 5×40(2本)
- 前固定片(1個)
- 接着ブロック(1個)
- 皿木ねじ5.8×75(2本)
- トラスタッピンねじ 5×50(4本)
- 横固定片(2個)

止水栓分岐金具

※給排水タイプにより手順が異なります

AS/RSタイプ	200mmの場合	▶P.28
	リモデル200mmの場合	▶P.30
	リモデル320～540mmの場合	▶P.34
LSタイプ	200mm、リモデル200mmの場合	▶P.39
	リモデル335～540mmの場合	▶P.42

AS/RSタイプ 200mmの場合

1 止水栓の取り付け

❶ 止水栓を所定の位置に取り付ける

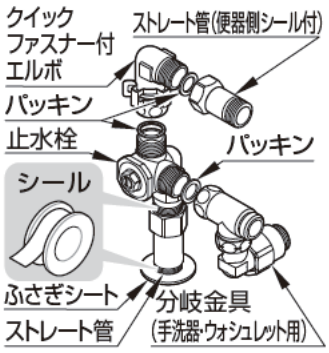
⚠注意

必ず守る

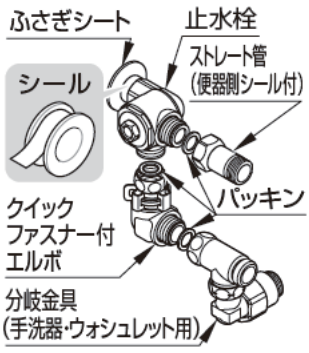
止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付ける
設置いただけない場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。

床給水ではストレート管と床にすき間がある場合、防カビ性のシリコーン系シール材（メジシール）にて充てんしてからふさぎシートを取り付ける
階下に水漏れが発生するおそれがあります。

床給水の場合



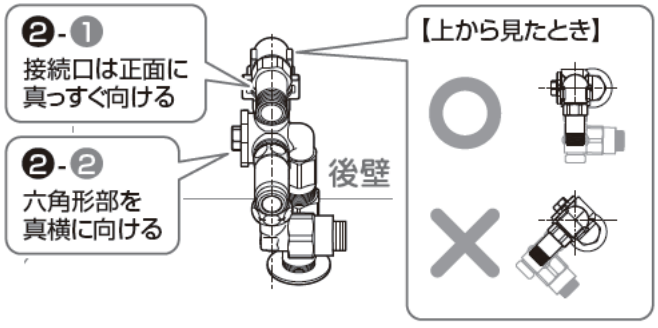
壁給水の場合



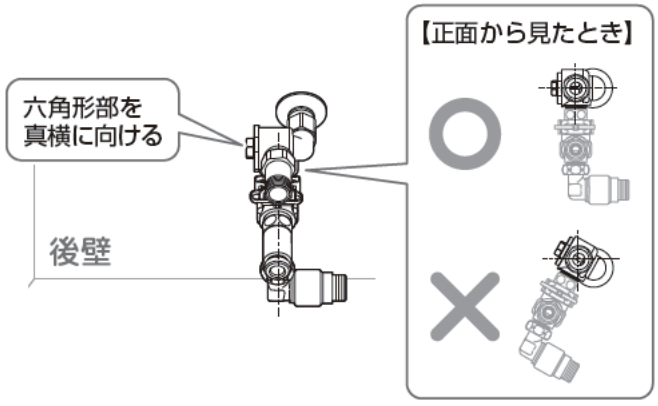
❷ 止水栓の向きをあわせる

正しい向きに取り付ける
正しい向きに取り付けないとすっきりパネルが取り付かない、または外れるおそれがあります。

床給水の場合

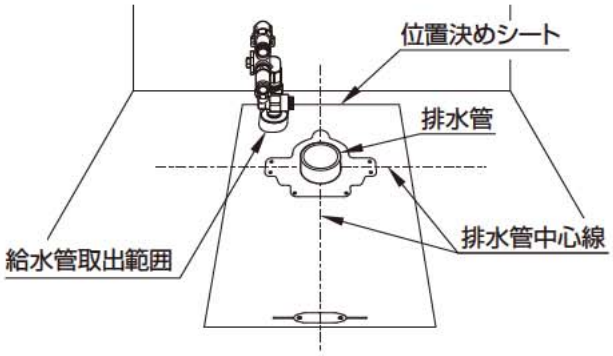


壁給水の場合



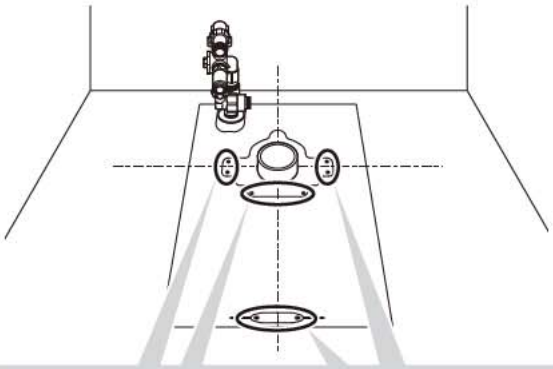
2 位置決めシートのけがき

❶ 位置決め



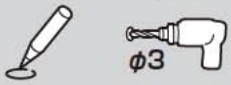
❷ 給水管取出範囲に止水栓があることを確認し、取付穴位置のけがき、下穴をあける

給水位置が適切でないと、止水栓が商品に干渉することがある



❷-❶

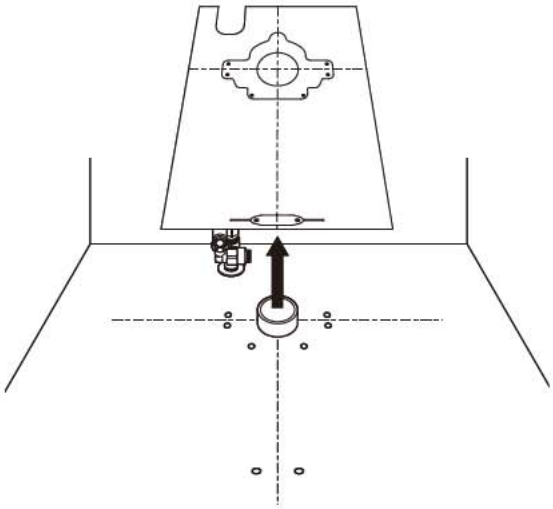
けがき → 下穴



前固定片取付穴：2カ所
排水ソケット取付穴：6カ所

※タイル・コンクリート床の場合はコンクリート用プラグ（現場手配）を打ち込んでおく

❷-❷ 取付穴位置の下穴をあけたら位置決めシートは外しておく



3 排水ソケットの接着

⚠注意

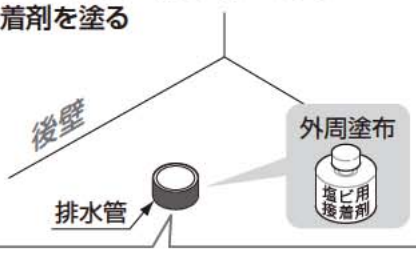
必ず守る

接着剤塗布位置を確認する
塗付位置を間違えると水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
また、臭気漏れの原因となります。

接着剤は必ず、排水ソケットと排水管の両方に塗布する
片側のみ塗布した場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
また、臭気漏れの原因となります。

排水ソケットは下面が床面に当たるまで押し込む
押し込まない場合、排水ソケットの固定時に破損するおそれがあります。

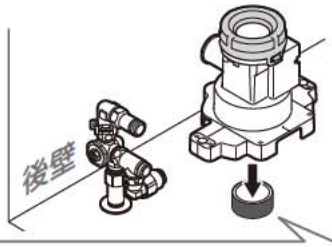
❶ 排水ソケットの内周と排水管の外周に塩ビ用接着剤を塗る



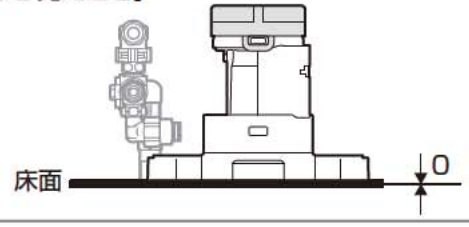
【接着材塗布位置】
※排水管の種類によって塗布位置が異なります。

❷ 穴位置を参考に排水ソケットの前後を確認し、排水ソケットが床面に当たるまで排水管に押し込む

•取り付ける際、床と排水ソケットでワイヤーを挟まない
•一度接着すると、手直しができません



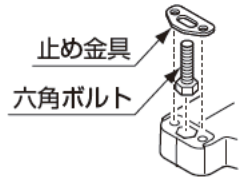
【正面から見たとき】



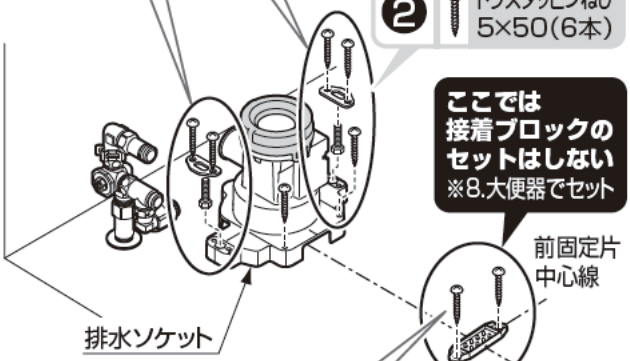
4 固定片・排水ソケットの取り付け

❶ 排水ソケット後固定部（2カ所）に六角ボルト、止め金具の順に置く

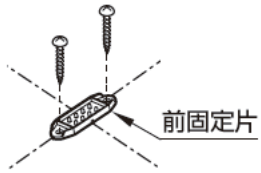
排水ソケットの六角穴に、六角ボルトの頭部を確実にはめ込む
大便器ががたつくおそれがあります。



❷ トラスタッピンねじ 5×50（6本）



❸ 前固定片を中心線にあわせて、ねじで床（2カ所）に固定する



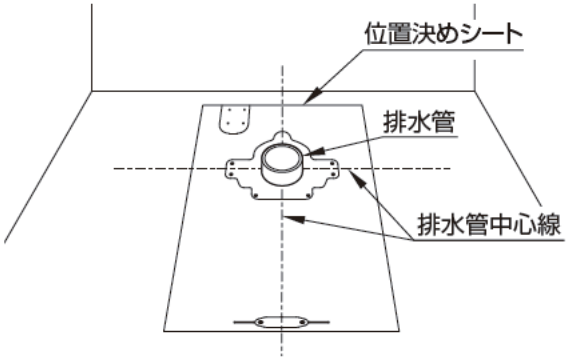
トラスタッピンねじ 5×40（2本）

MEMO

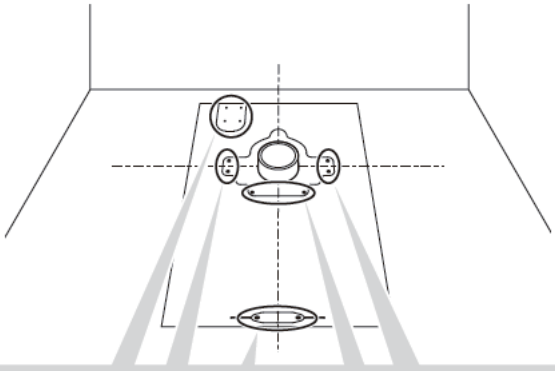
AS/RSタイプ | リモデル200mmの場合

1 位置決めシートのけがき

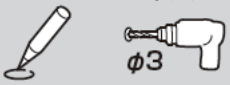
❶ 位置決め



❷ 取付穴位置のけがき、下穴をあける



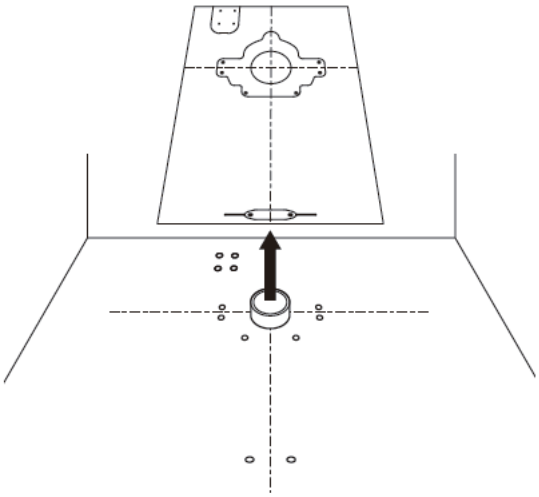
❷-❶
けがき → 下穴



前固定片取付穴：2カ所
排水ソケット取付穴：6カ所
床継手取付穴：4カ所

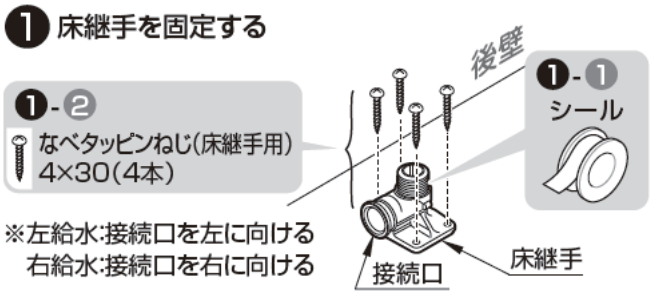
※タイル・コンクリート床の場合はコンクリート用プラグ（現場手配）を打ち込んでおく

❷-❷ 取付穴位置の下穴をあけたら位置決めシートは外しておく

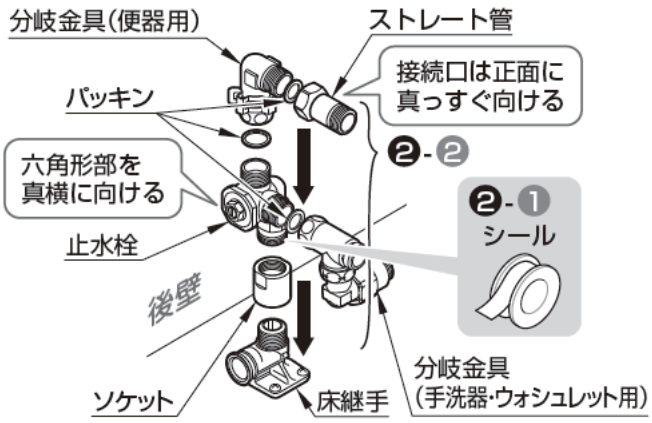


2 給水金具の取り付け

❶ 床継手を固定する

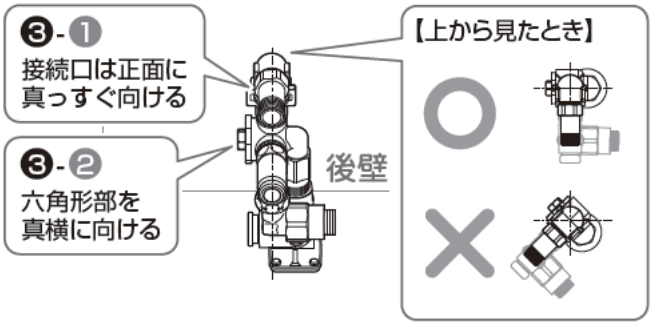


❷ 止水栓を所定の位置に取り付ける



❸ 止水栓の向きをあわせる

正しい向きに取り付ける
正しい向きに取り付けないとすっきりパネルが取り付かない、または外れるおそれがあります。



❹ 既設の給水管にストレート管またはエルボを取り付け、リモデル給水ホースを接続する

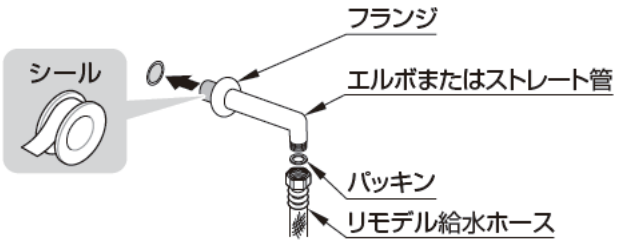
⚠注意

必ず守る

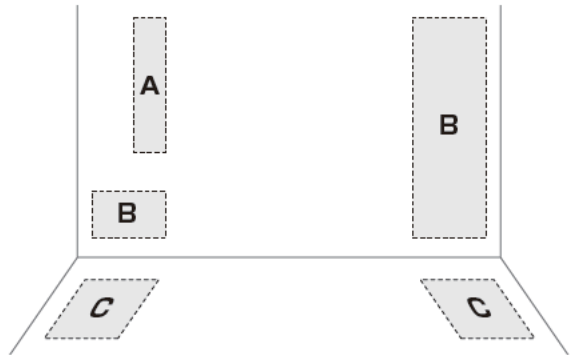
- 袋ナットの内側にパッキンが入っていることを確認する

- リモデル給水ホースの取り付けの際、ホースの折れに注意する
  水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

エルボの長さ・向きに注意し、リモデル給水ホースが折れ曲がらないようにする

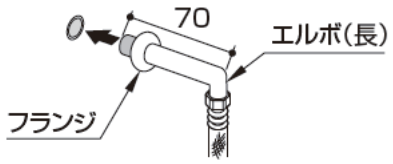


給水範囲と使用部材

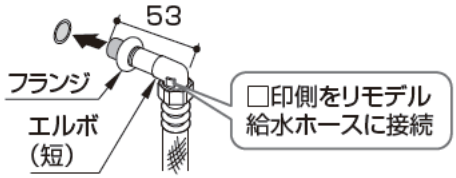


※図は左勝手。右勝手の場合、給水範囲および使用部材は左右対称になります。

A

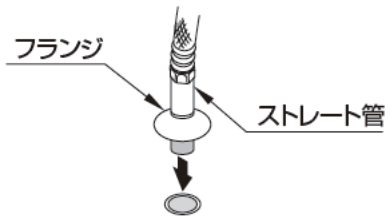


B

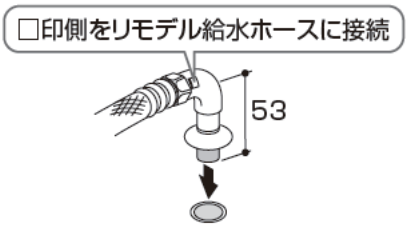


C

一般地



寒冷地



- **エルボを用いてリモデル給水ホースが上にたるまないように接続する**
  水抜き操作時にリモデル給水ホースの水が抜けません。
- **エルボの向きを間違えない**
  水漏れのおそれがあります。

参照 オプション給水ホースの接続:オプション品の施工説明書

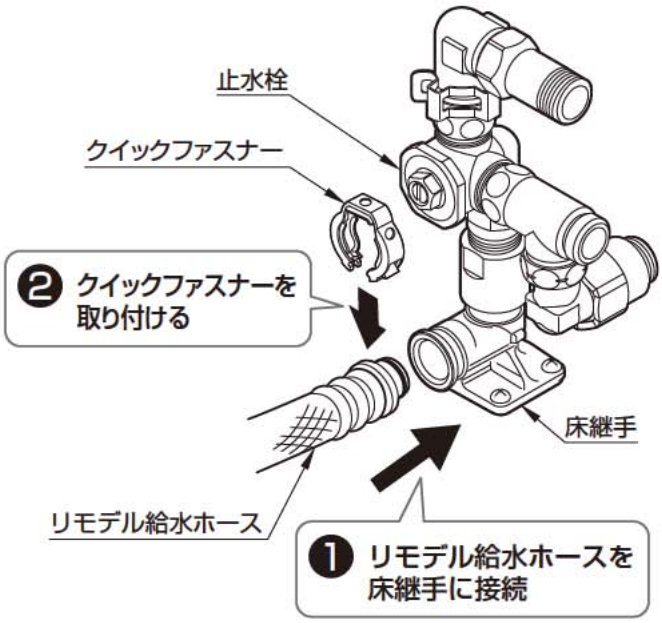
3 リモデル給水ホースの接続

⚠注意

必ず守る

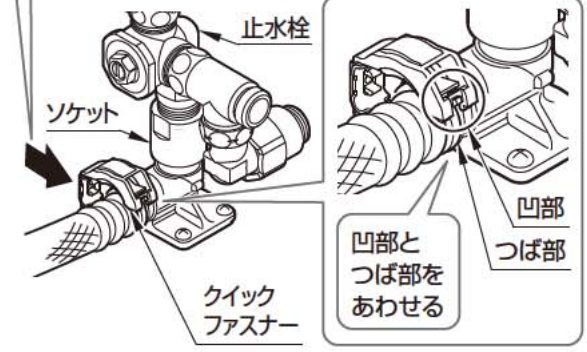
- 床継手とリモデル給水ホースはすき間ができないように確実に押し込む
- クイックファスナーは正しく取り付け、目視などで確認する
- カバーが閉まらない場合は、クイックファスナーが正しく接続されていない可能性があり、そのまま使用すると水漏れの原因になるので、必ずクイックファスナーを取り外して正しく接続し直す

取り付けが不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

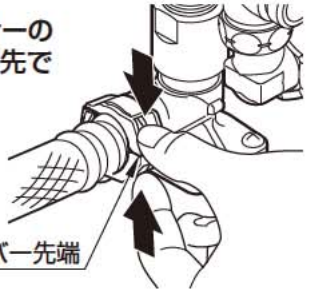


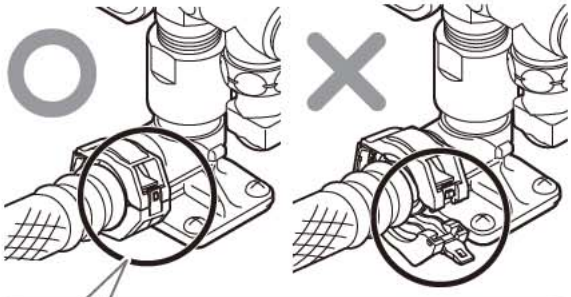
クイックファスナーの取り付けかた

❶ 真っすぐ押し込む



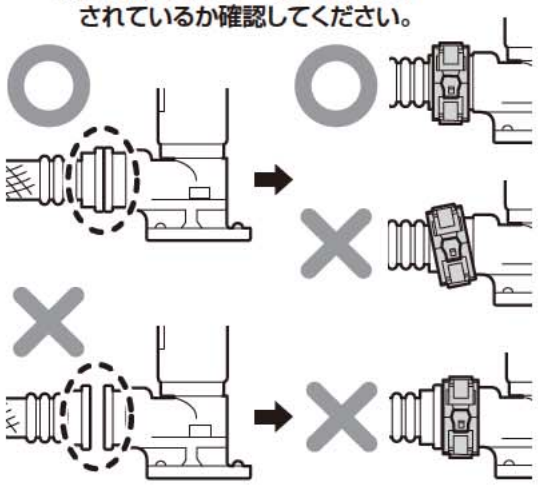
❷ クイックファスナーのカバー先端を指先で確実に閉める





❸ 確実に閉まっていることを確認

①クイックファスナーが正しくセットされているか確認してください。



②リモデル給水ホースを強く引っ張って抜けないことを確認してください。

クイックファスナーが正しくセットされていないと、リモデル給水ホースが抜けて水漏れのおそれがあります。

4 排水ソケットの接着

⚠注意

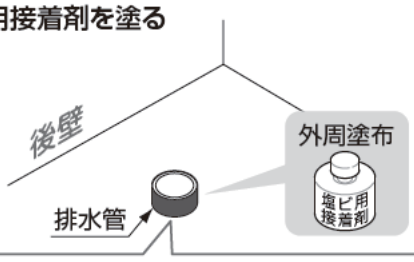
必ず守る

接着剤塗布位置を確認する
塗付位置を間違えると水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
また、臭気漏れの原因となります。

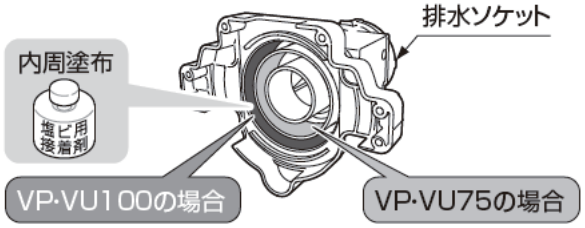
接着剤は必ず、排水ソケットと排水管の両方に塗布する
片側のみ塗布した場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
また、臭気漏れの原因となります。

排水ソケットは下面が床面に当たるまで押し込む
押し込まない場合、排水ソケットの固定時に破損するおそれがあります。

❶ 排水ソケットの内周と排水管の外周に塩ビ用接着剤を塗る

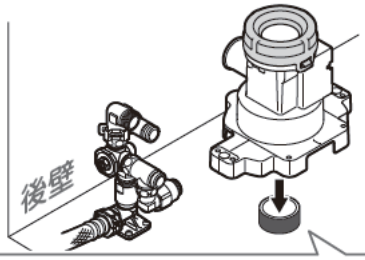


【接着材塗布位置】
※排水管の種類によって塗布位置が異なります。

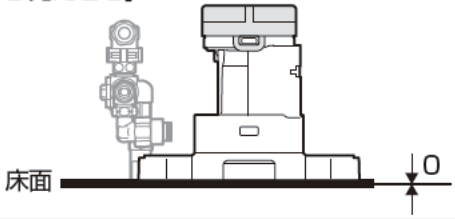


❷ 穴位置を参考に排水ソケットの前後を確認し、排水ソケットが床面に当たるまで排水管に押し込む

·取り付ける際、床と排水ソケットでワイヤーを挟まない
·一度接着すると、手直しができません



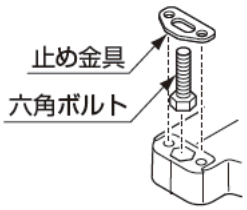
【正面から見たとき】

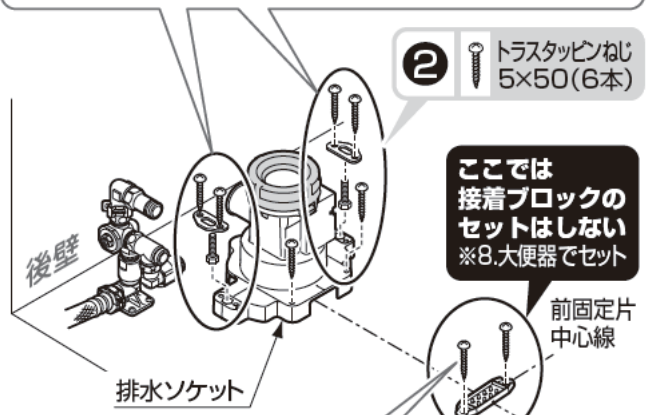


5 固定片・排水ソケットの取り付け

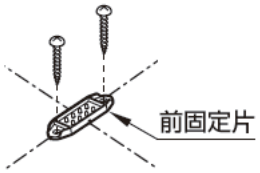
❶ 排水ソケット後固定部（2カ所）に六角ボルト、止め金具の順に置く

排水ソケットの六角穴に、六角ボルトの頭部を確実にはめ込む
大便器ががたつくおそれがあります。





❸ 前固定片を中心線にあわせて、ねじで床（2カ所）に固定する



トラスタッピンねじ 5×40（2本）

MEMO

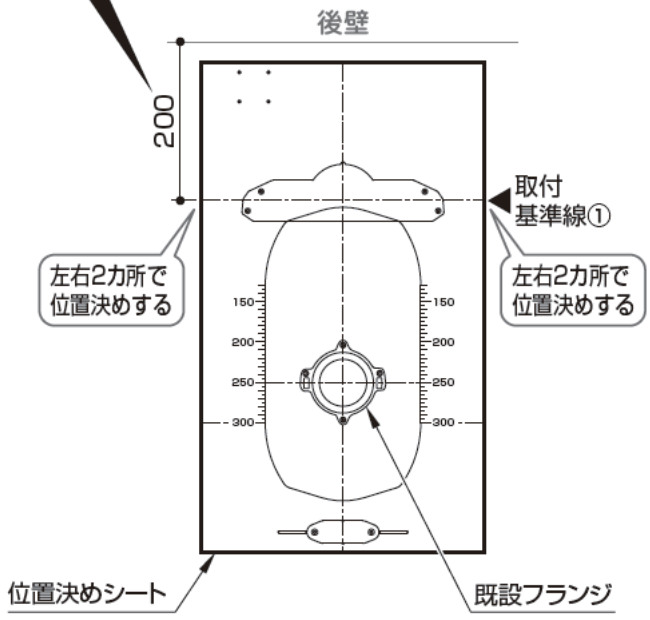
AS/RSタイプ | リモデル320～540mmの場合

1 位置決めシートの使いかた

排水心320～475mmの場合

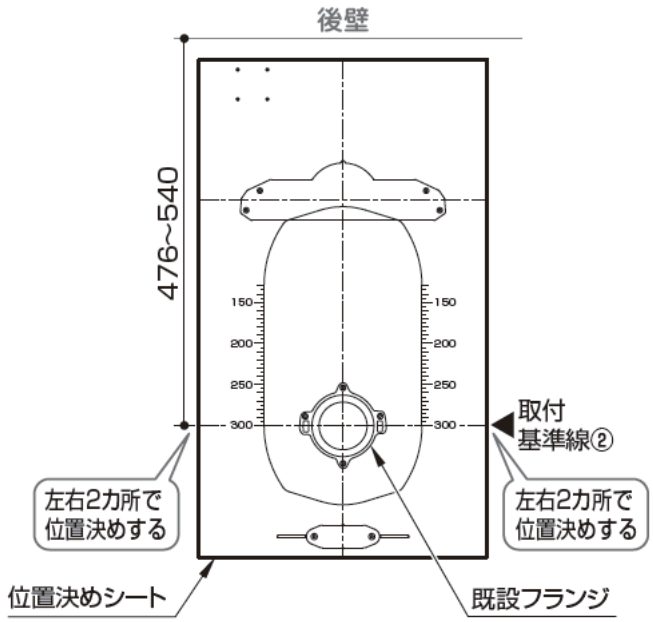
後壁から200mmの位置に位置決めシートの
取付基準線①をあわせて置く

後壁から200
幅木からではありません。



排水心476～540mmの場合

既設フランジ中心線に位置決めシートの
取付基準線②をあわせて置く



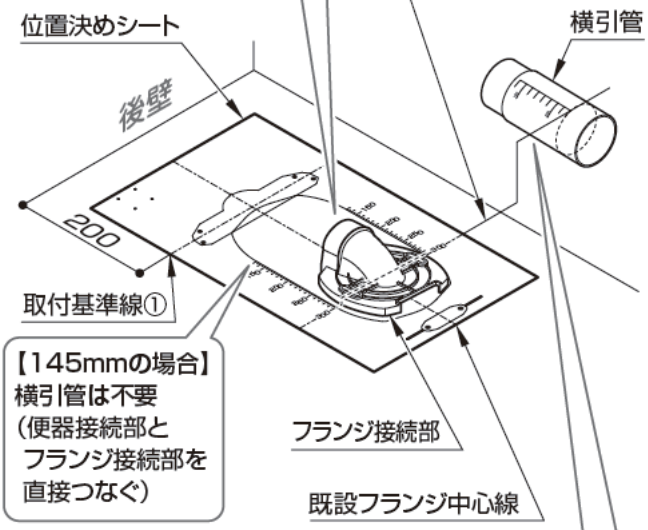
2 横引管の切断

・排水心475mmの場合でも横引管の切断が必要
・切断しないまま接着すると、大便器と床フランジが干渉する

排水心320～475mmの場合

❶ フランジ接続部を
既設フランジの上に仮置き

床フランジ中心線と
フランジ接続部
中心線をあわせる



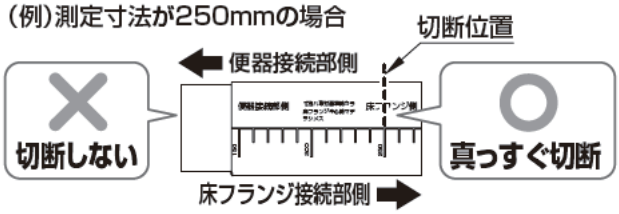
【145mmの場合】
横引管は不要
（便器接続部と
フランジ接続部を
直接つなぐ）

❷ 同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する

⚠注意

❗ 必ず守る	切断後、バリを取り除く 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

（例）測定寸法が250mmの場合



排水心476～540mmの場合

❶ 横引管を目盛り300mmの位置で切断する

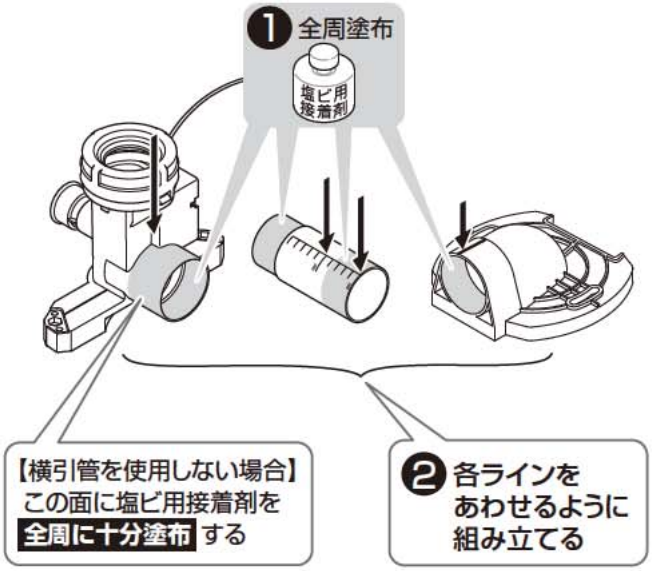
3 排水アジャスターの組み立て

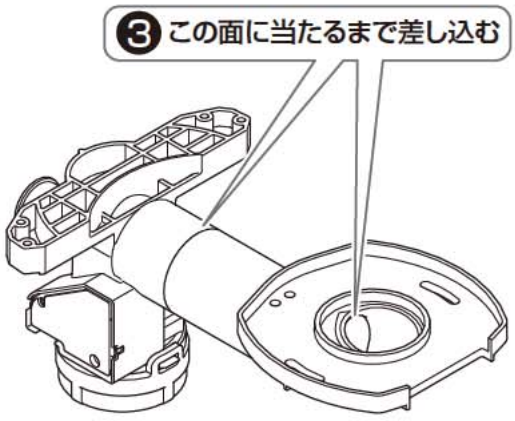
⚠注意

必ず守る

横引管は最後まで、きちんと押し込む
接着が不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

床面に対してがたつきがないように接着する
がたつきが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

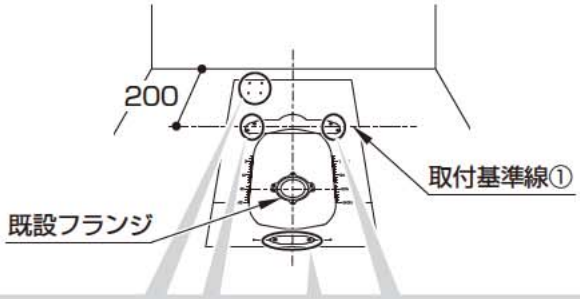


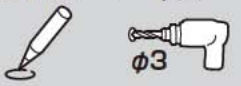


4 位置決めシートのけがき

❶ 取付穴位置のけがき、下穴をあける

排水心320～475mmの場合

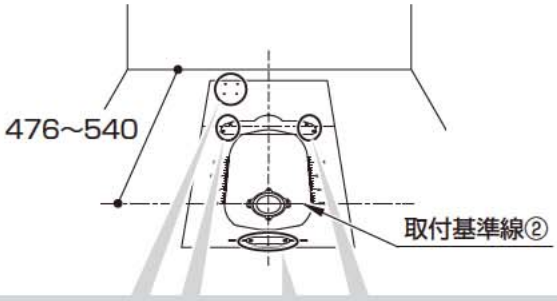


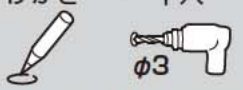


前固定片取付穴：2カ所
排水ソケット取付穴：4カ所
床継手取付穴：4カ所

※タイル・コンクリート床の場合はコンクリートプラグ（現場手配）を打ち込んでおく

排水心476～540mmの場合

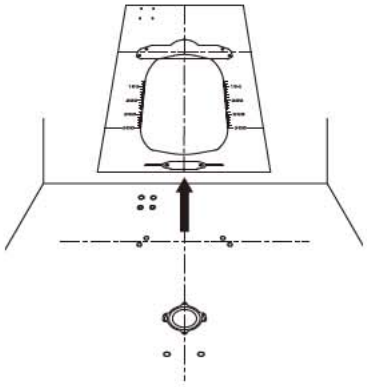




前固定片取付穴：2カ所
排水ソケット取付穴：4カ所
床継手取付穴：4カ所

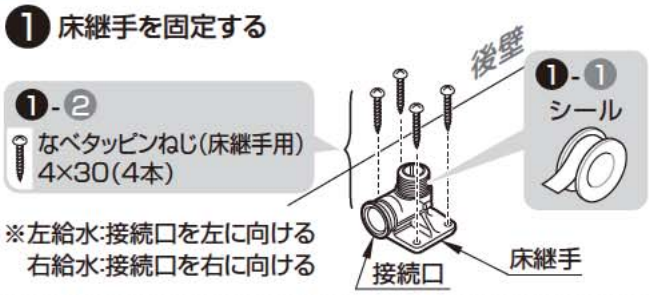
※タイル・コンクリート床の場合はコンクリートプラグ（現場手配）を打ち込んでおく

❷ 取付穴位置の下穴をあけたら位置決めシートは外しておく

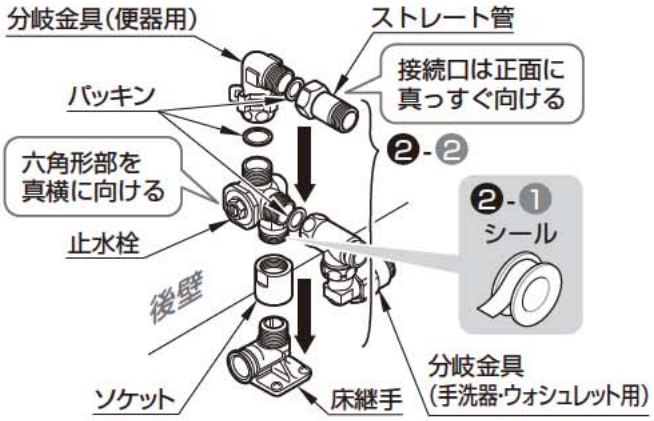


5 給水金具の取り付け

❶ 床継手を固定する

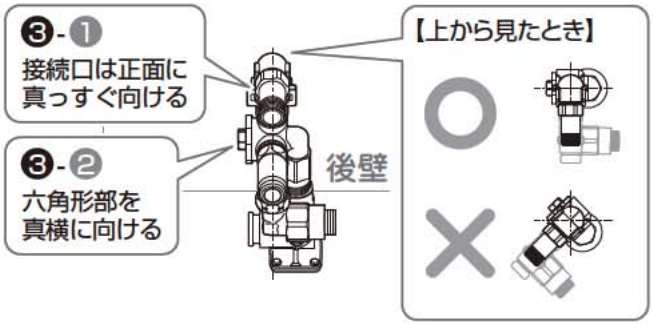


❷ 止水栓を所定の位置に取り付ける



❸ 止水栓の向きをあわせる

正しい向きに取り付ける
正しい向きに取り付けないとすっきりパネルが取り付かない、または外れるおそれがあります。



❹ 既設の給水管にストレート管またはエルボを取り付け、リモデル給水ホースを接続する

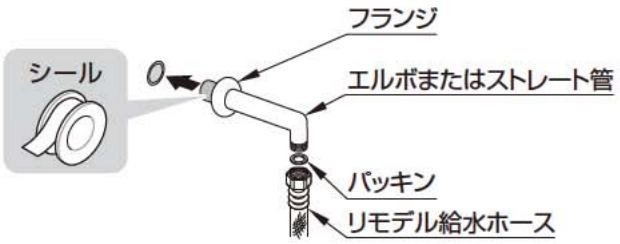
⚠注意

必ず守る

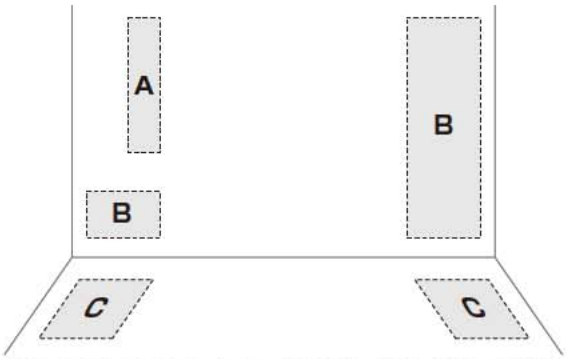
- 袋ナットの内側にパッキンが入っていることを確認する

- リモデル給水ホースの取り付けの際、ホースの折れに注意する
  水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

エルボの長さ・向きに注意し、リモデル給水ホースが折れ曲がらないようにする

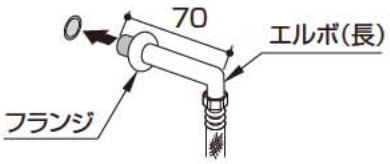


給水範囲と使用部材

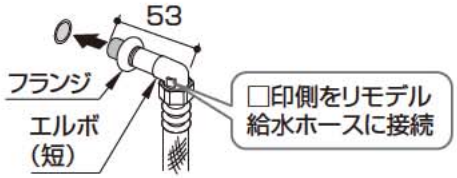


※図は左勝手。右勝手の場合、給水範囲および使用部材は左右対称になります。

A

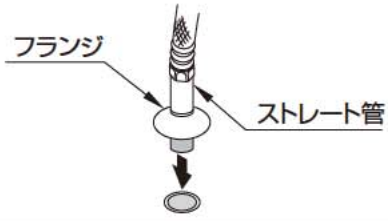


B

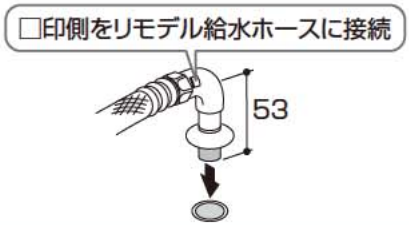


C

一般地



寒冷地



- **エルボを用いてリモデル給水ホースが上にたるまないように接続する**
  水抜き操作時にリモデル給水ホースの水が抜けません。
- **エルボの向きを間違えない**
  水漏れのおそれがあります。

参照 オプション給水ホースの接続:オプション品の施工説明書

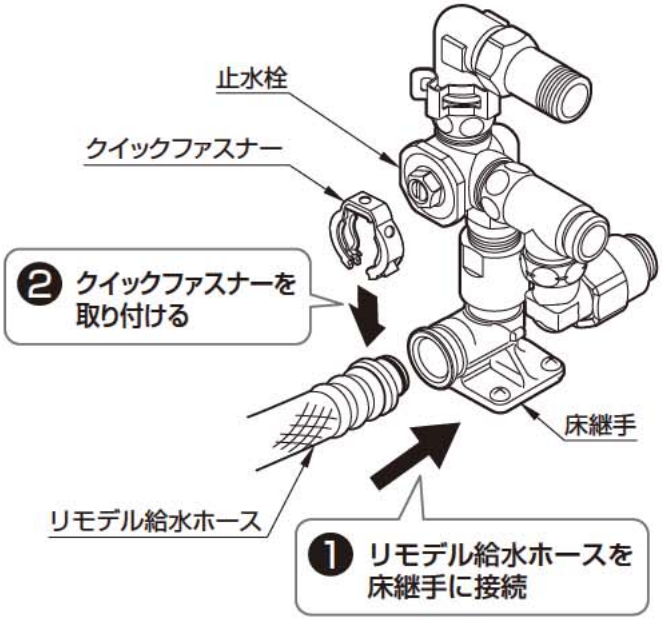
6 リモデル給水ホースの接続

⚠注意

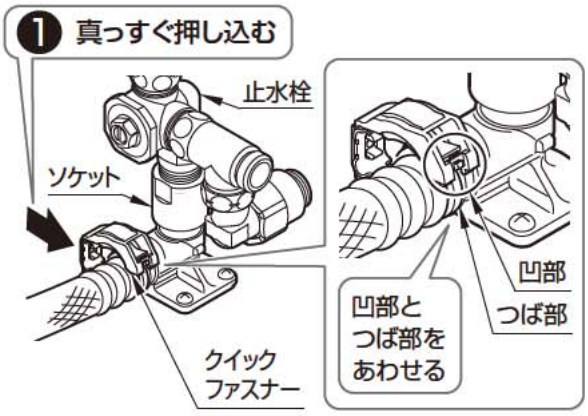
必ず守る

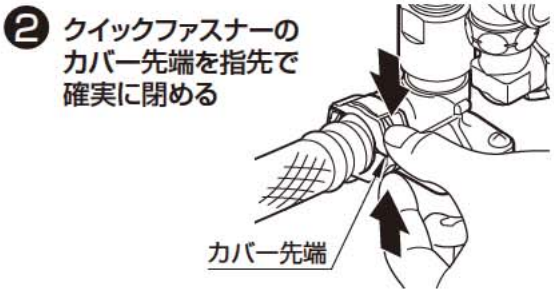
- 床継手とリモデル給水ホースはすき間ができないように確実に押し込む
- クイックファスナーは正しく取り付け、目視などで確認する
- カバーが閉まらない場合は、クイックファスナーが正しく接続されていない可能性があり、そのまま使用すると水漏れの原因になるので、必ずクイックファスナーを取り外して正しく接続し直す

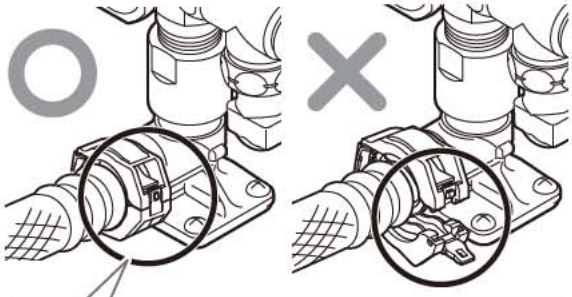
取り付けが不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



クイックファスナーの取り付けかた

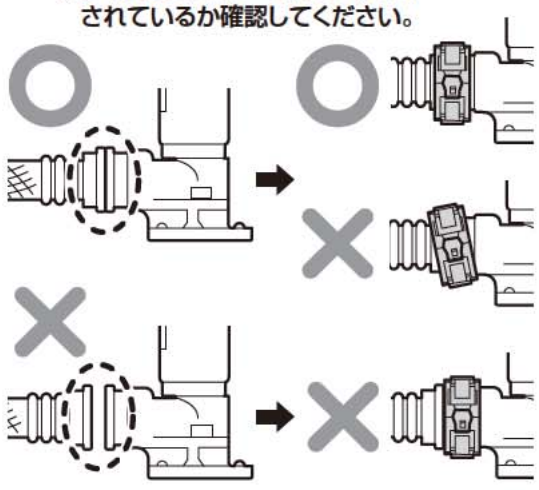






❸ 確実に閉まっていることを確認

①クイックファスナーが正しくセットされているか確認してください。



②リモデル給水ホースを強く引っ張って抜けないことを確認してください。

クイックファスナーが正しくセットされていないと、リモデル給水ホースが抜けて水漏れのおそれがあります。

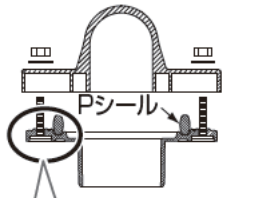
7 固定片・排水ソケットの取り付け

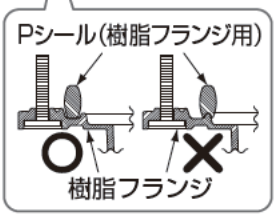
⚠注意

必ず守る

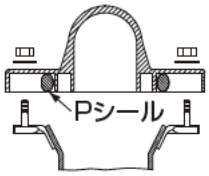
【Pシール取扱上の注意】
・既設の床フランジのタイプにあわせ、必ず同梱（再取付時は同品番）の金属フランジ用Pシール（補修品番：TH633）または、樹脂フランジ用Pシール（補修品番：TH633−3）を使用する
・既設のフランジタイプによって、Pシールのサイズと取付方法が異なるので、注意する
Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や大便器が詰まり汚水があふれたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

（樹脂フランジ用）





（金属フランジ用）



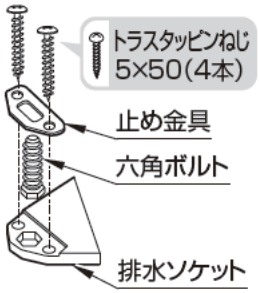
Pシールは溝にきちんと取り付けてください。

❶ セットする

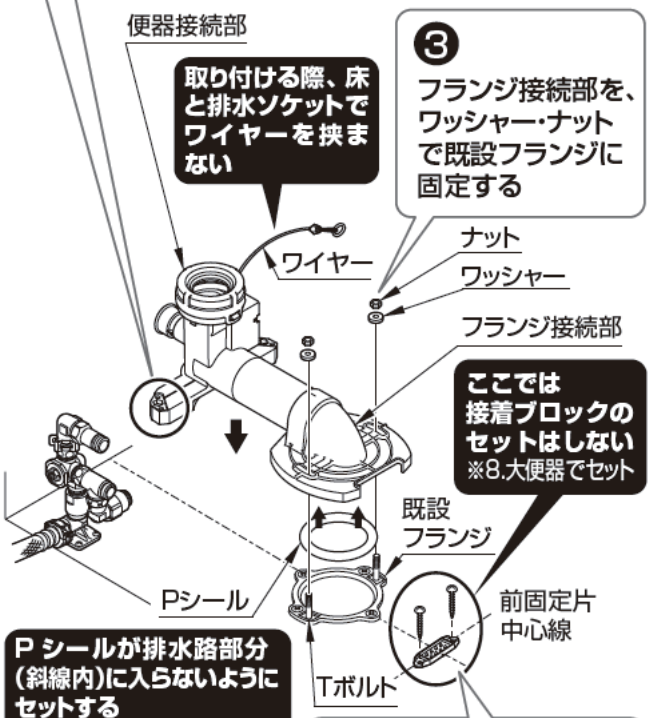
樹脂フランジの場合
Pシール（樹脂フランジ用）をフランジにセットする。

金属フランジの場合
Pシール（金属フランジ用）を排水アジャスターにセットする。

❷
排水アジャスターをフランジに押し付けてから、所定の位置に六角ボルトを立て、六角ボルトに止め金具を通したうえで、便器接続部の取付穴（4カ所）にねじを入れ、確実に締める



排水ソケットの六角穴に、六角ボルトの頭部を確実にはめ込む
確実にはめ込まれていないと大便器ががたつくおそれがあります。

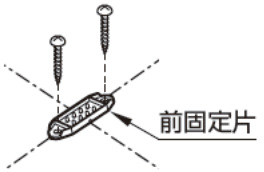


Pシールが排水路部分（斜線内）に入らないようにセットする
洗浄不良の原因になります。

※図は金属フランジの場合

（床フランジ接続部裏面）

❹ 前固定片を中心線にあわせて、ねじで床（2カ所）に固定する



トラスタッピンねじ
5×40（2本）

LSタイプ | 200mm、リモデル200mmの場合

1 止水栓の取り付け

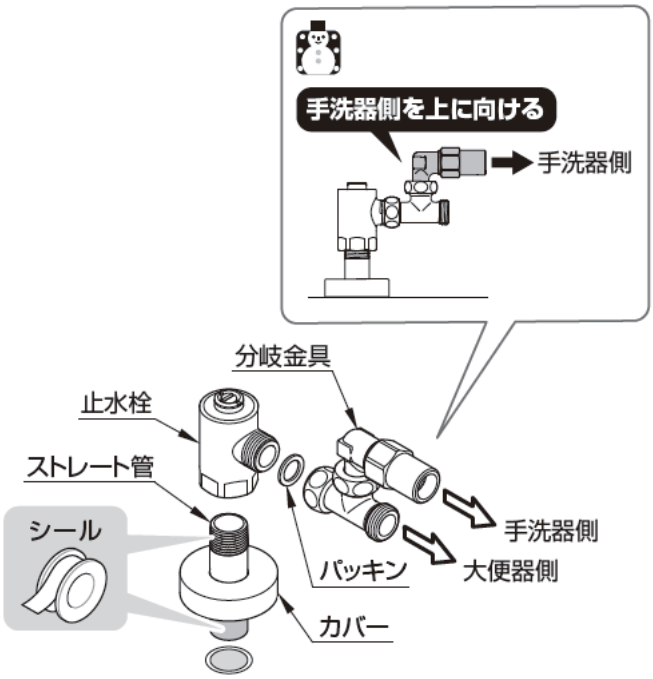
⚠注意

必ず守る

止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付ける

設置いただけない場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。

❶ 止水栓を所定の位置に取り付ける



❷ 止水栓の向きをあわせる

止水栓の給水取り出し方向を確認

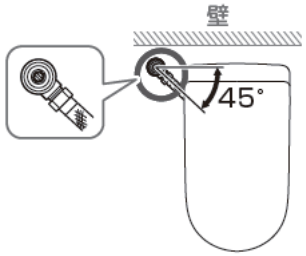
⚠注意

必ず守る

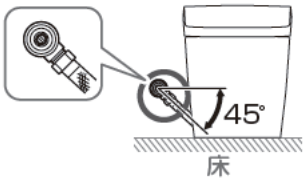
止水栓の給水取り出し方向を45°の範囲で取り付ける

誤った方向に取り付けると洗浄不良や水漏れのおそれがあります。

床給水の場合（新規給水の場合）



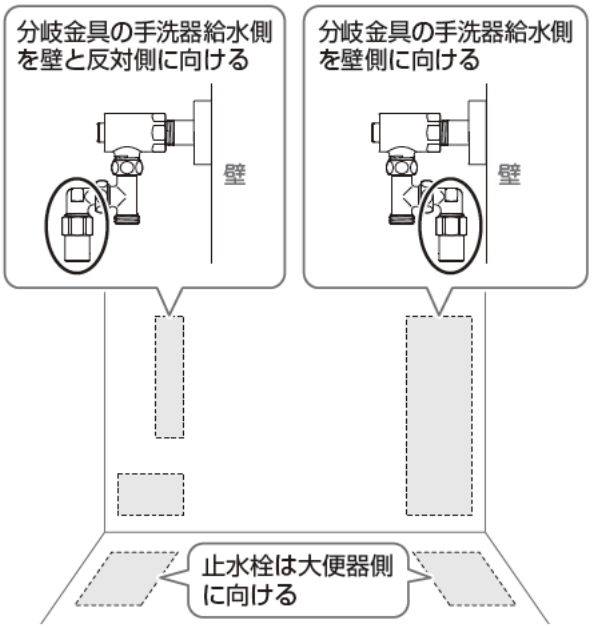
壁給水の場合（新規給水の場合）



リモデル 200mmの場合は給水ホースが折れないように角度を調整する

床排水リモデル200mmの場合

止水栓の給水取り出し方向を確認

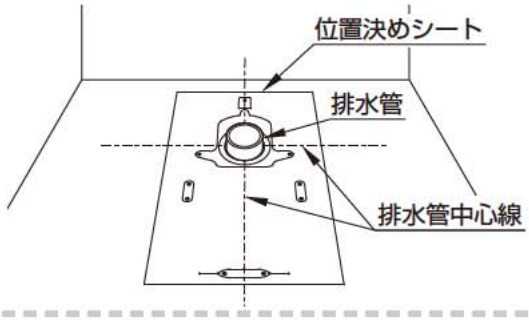


※図は左勝手。右勝手の場合は左右対称になります。

※オプション給水ホースがある場合は、分岐金具の大便器側に給水ホースを接続してください。

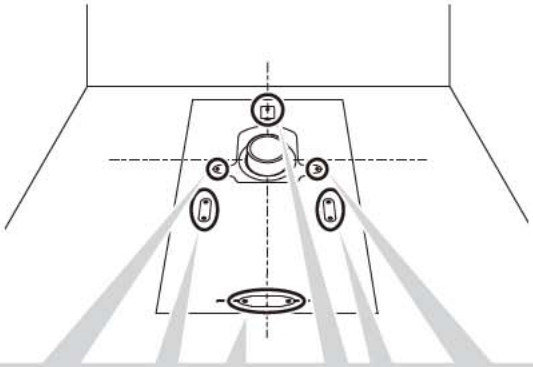
2 位置決めシートのけがき

❶ 位置決め



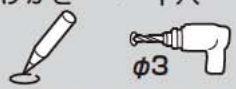
❷ 取付穴位置のけがき、下穴をあける

給水位置が適切でないと、止水栓が商品に干渉することがある



❷-❶

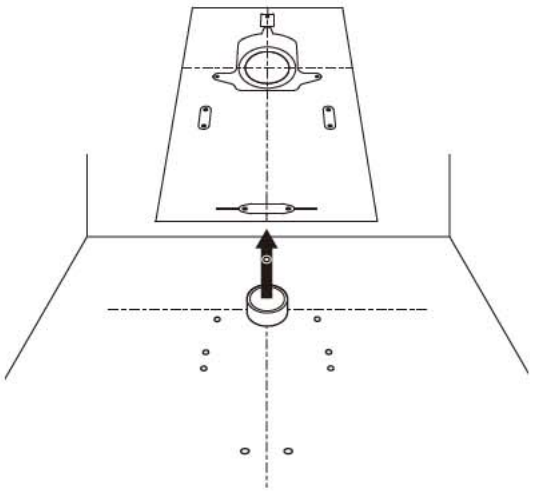
けがき → 下穴



前・横固定片取付穴：6カ所
排水ソケット取付穴：3カ所

※タイル・コンクリート床の場合はコンクリート用プラグ（現場手配）を打ち込んでおく

❷-❷ 取付穴位置の下穴をあけたら位置決めシートは外しておく



3 排水ソケットの接着

⚠注意

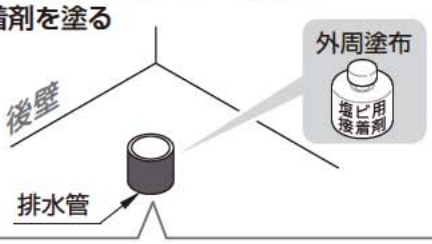
必ず守る

接着剤塗布位置を確認する
塗付位置を間違えると水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
また、臭気漏れの原因となります。

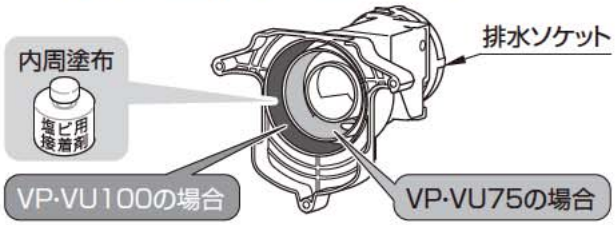
接着剤は必ず、排水ソケットと排水管の両方に塗布する
片側のみ塗布した場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
また、臭気漏れの原因となります。

排水ソケットは下面が床面に当たるまで押し込む
押し込まない場合、排水ソケットの固定時に破損するおそれがあります。

❶ 排水ソケットの内周と排水管の外周に塩ビ用接着剤を塗る

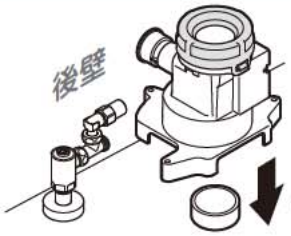


【接着材塗布位置】
※排水管の種類によって塗布位置が異なります。

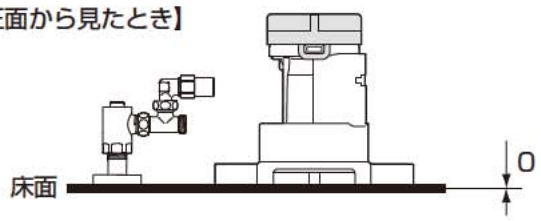


❷ 穴位置を参考に排水ソケットの前後を確認し、排水ソケットが床面に当たるまで排水管に押し込む

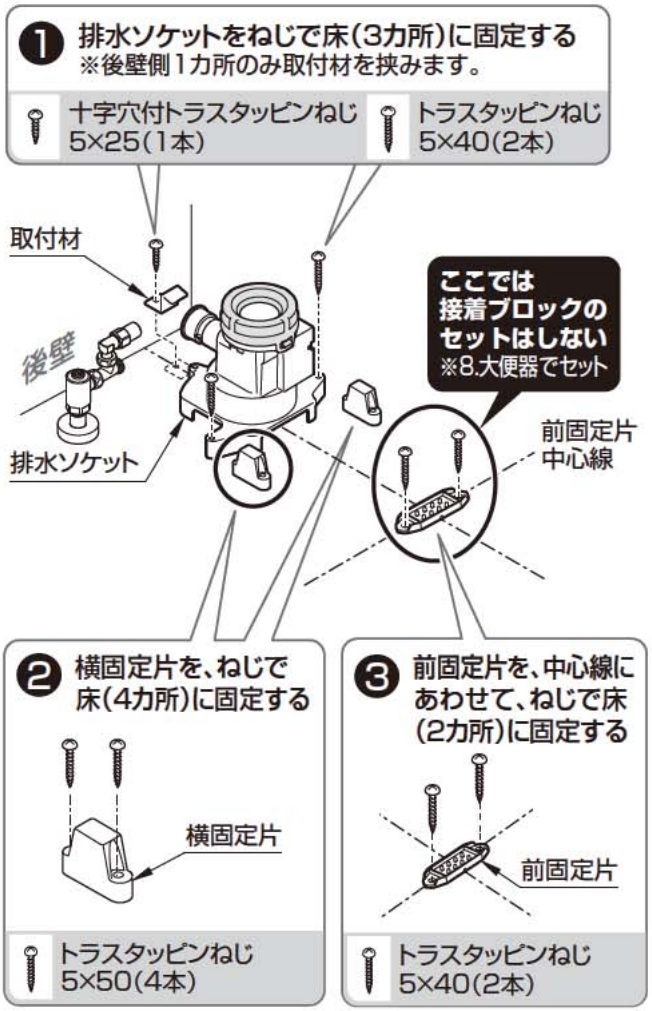
・取り付ける際、床と排水ソケットでワイヤーを挟まない
・一度接着すると、手直しができません



【正面から見たとき】



4 固定片・排水ソケットの取り付け



MEMO

LSタイプ | リモデル335～540mmの場合

1 止水栓の取り付け

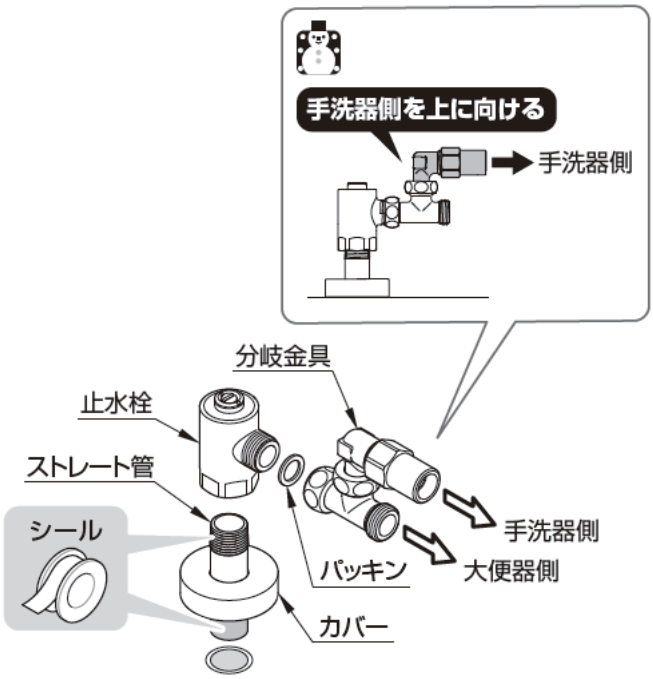
⚠注意

必ず守る

止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付ける

設置いただけない場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。

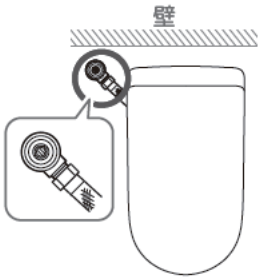
❶ 止水栓を所定の位置に取り付ける



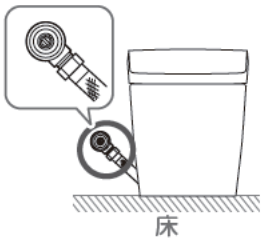
❷ 止水栓の向きをあわせる

止水栓の給水取り出し方向を確認

床給水の場合



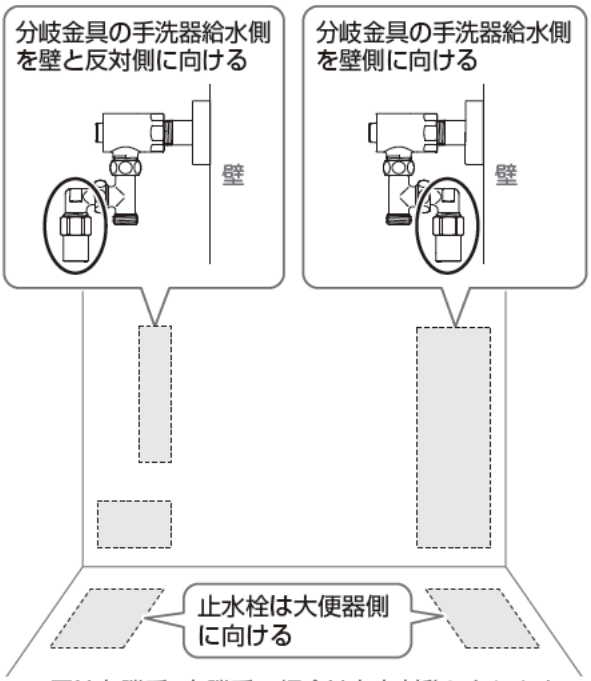
壁給水の場合



給水ホースが折れないように角度を調整する

オプション給水ホースがある場合

止水栓の給水取り出し方向を確認



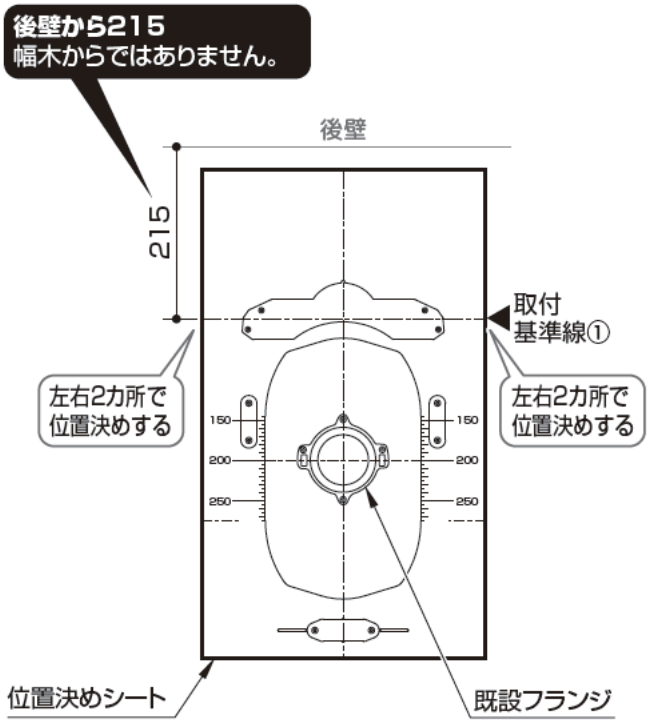
※図は左勝手。右勝手の場合は左右対称になります。

※オプション給水ホースがある場合は、分岐金具の大便器側に給水ホースを接続してください。

2 位置決めシートの使いかた

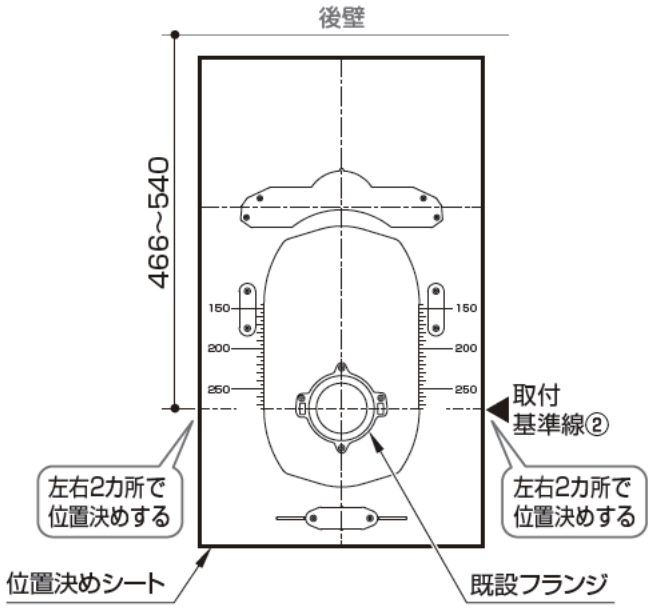
排水心335～465mmの場合

後壁面から215mmの位置に位置決めシートの取付基準線①をあわせて置く



排水心466～540mmの場合

既設フランジ中心線に位置決めシートの取付基準線②をあわせて置く



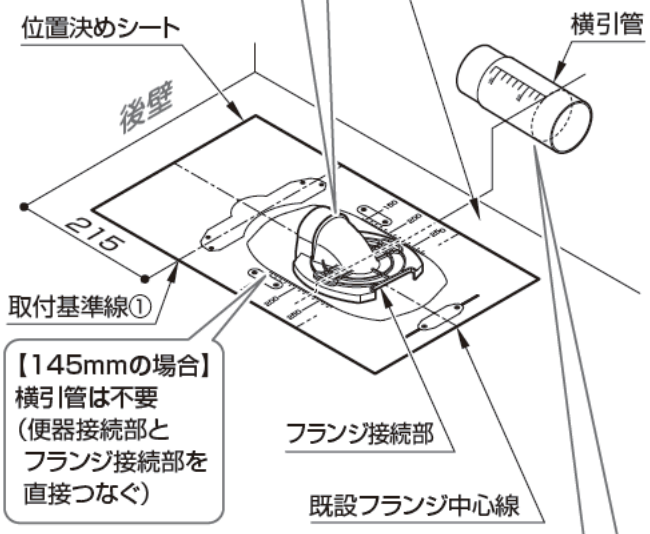
3 横引管の切断

・排水心465mmの場合でも横引管の切断が必要
・切断しないまま接着すると、大便器と床フランジが干渉する

排水心335～465mmの場合

❶ フランジ接続部を既設フランジの上に仮置き

床フランジ中心線とフランジ接続部中心線をあわせる



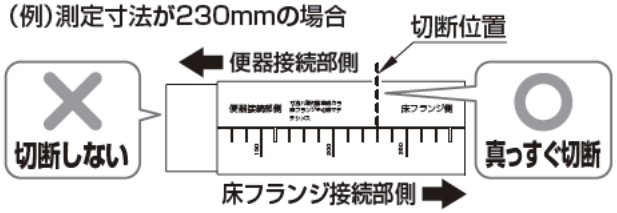
❷ 同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する

⚠注意

必ず守る

切断後、バリを取り除く
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

(例)測定寸法が230mmの場合



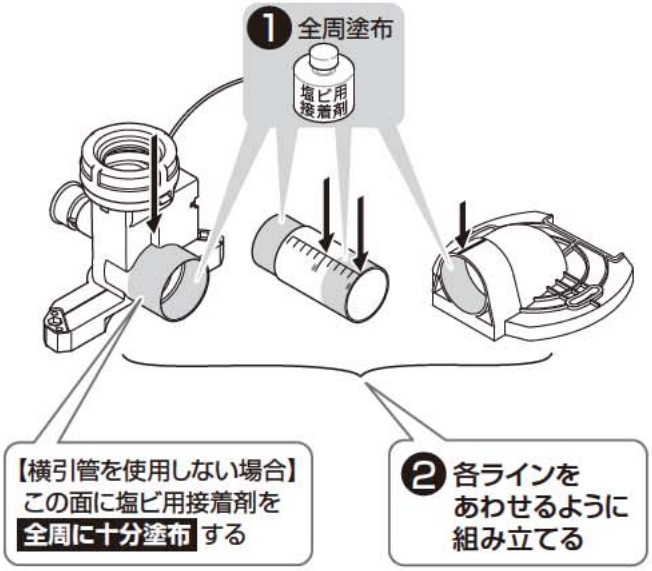
排水心466～540mmの場合

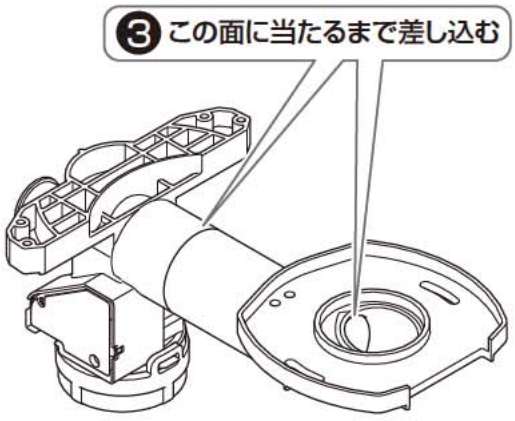
❶ 横引管を目盛り275mmの位置で切断する

4 排水アジャスターの組み立て

⚠注意

必ず守る	横引管は最後まで、きちんと押し込む 接着が不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。
	床面に対してがたつきがないように接着する がたつきが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

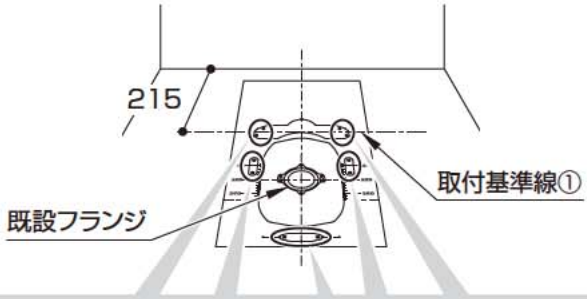


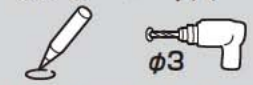


5 位置決めシートのけがき

❶ 取付穴位置のけがき、下穴をあける

排水心335～465mmの場合

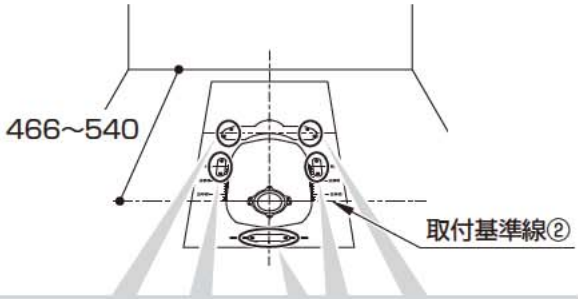




前・横固定片取付穴：6カ所
排水ソケット取付穴：4カ所

※タイル・コンクリート床の場合はコンクリート用プラグ（現場手配）を打ち込んでおく

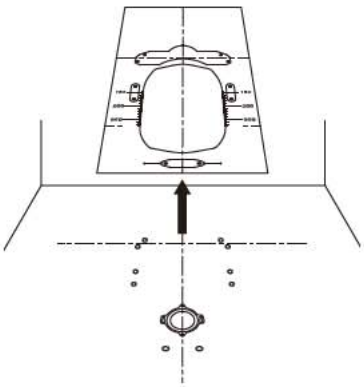
排水心466～540mmの場合



前・横固定片取付穴：6カ所
排水ソケット取付穴：4カ所

※タイル・コンクリート床の場合はコンクリート用プラグ（現場手配）を打ち込んでおく

❷ 取付穴位置の下穴をあけたら位置決めシートは外しておく



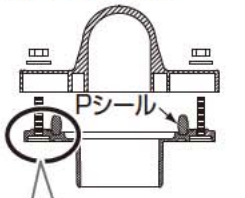
6 固定片・排水ソケットの取り付け

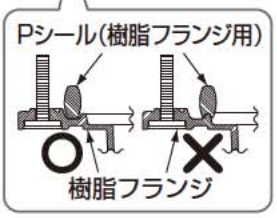
⚠注意

必ず守る

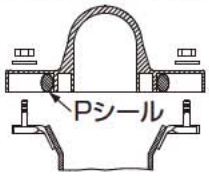
【Pシール取扱上の注意】
- 既設の床フランジのタイプにあわせ、必ず同梱(再取付時は同品番)の金属フランジ用Pシール(補修品番:TH633)または、樹脂フランジ用Pシール(補修品番:TH633−3)を使用する
- 既設のフランジタイプによって、Pシールのサイズと取付方法が異なるので、注意する
  Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や大便器が詰まり汚水があふれたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

(樹脂フランジ用)





(金属フランジ用)



Pシールは溝にきちんと取り付けてください。

❶ セットする

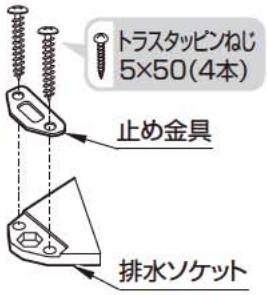
樹脂フランジの場合

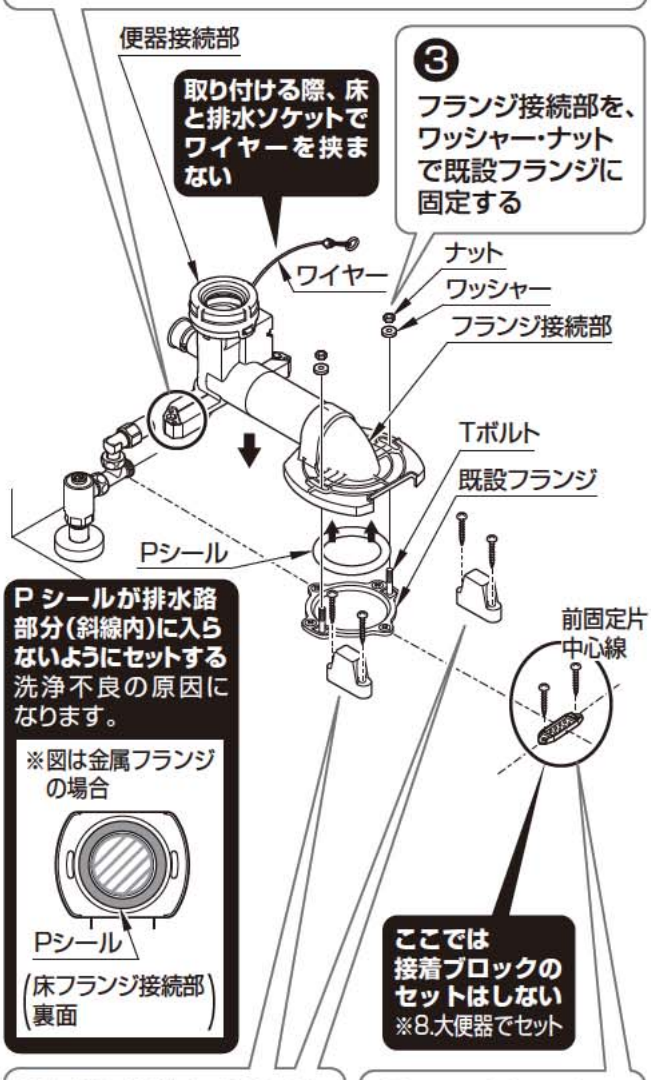
Pシール(樹脂フランジ用)をフランジにセットする。

金属フランジの場合

Pシール(金属フランジ用)を排水アジャスターにセットする。

❷ 排水アジャスターをフランジに押し付けてから、所定の位置に六角ボルトを立て、便器接続部の取付穴(4カ所)にねじを入れ、確実に締める

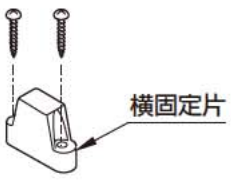




Pシールが排水路部分(斜線内)に入らないようにセットする
洗浄不良の原因になります。

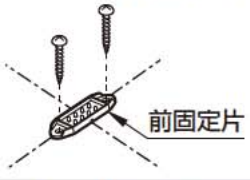
※図は金属フランジの場合

❹ 横固定片を、ねじで床(4カ所)に固定する



トラスタッピンねじ 5×50(4本)

❺ 前固定片を中心線にあわせて、ねじで床(2カ所)に固定する



トラスタッピンねじ 5×40(2本)

2. 手洗器キャビネット・カウンター

使用部材 ※包装内に一部使用しない部材（■）がある場合のみ表記しています。

手洗器キャビネット

◆紙巻器

【メタル製】

- 紙巻器本体（1個）
- なべタッピンねじ4×40（4本）

紙巻器固定材

- 紙巻器固定材（1個）
- 皿タッピンねじ 4×40（2本）
- 皿タッピンねじ 4×16（2本）

カウンターセット

カウンター
横さん
カウンター
幕板

- 幕板（1本）
- 取付材（4個）
- アングル（7個）
- 座金組込化粧ねじ 4×12（3本）
- トラスタッピンねじ 4×10（8本）

キャップセット

【上段カウンター】
- キャップ（上段カウンター）（1個）
- トラスタッピンねじ 4×10（1本）

【下段カウンター】
- キャップ（下段カウンター）（1個）
- トラスタッピンねじ 4×10（1本）

【上段横さん】
- キャップ（上段横さん）（1個）
- なべワッシャータッピンねじ 3×6（2本）

【幕板】
- キャップ（幕板）（1個）
- スペーサー t=0.5（4個）
- トラスタッピンねじ 4×10（2本）

◆付属材セット（手洗器）

【共通】
- クリップナット（2個）
- ばね座金 M6（2個）
- 寸切ボルト（2本） ベッセルタイプの場合:M6×65 ハイバックタイプの場合:M6×40
- ローレットナット M6（2個）
- 平座金 M6（4個）
- クッション材（1個）

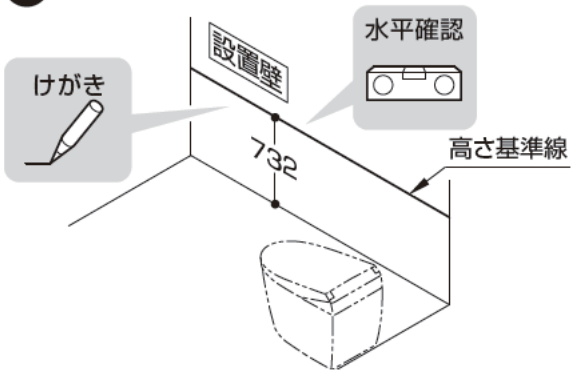
【ベッセルタイプ（丸形/角形）】
- アングル（2個）
- 十字穴付トラスタッピンねじ 4×12（4本）
- 十字穴付トラスタッピンねじ 4×50（4本）

【ハイバックタイプ】
- 取付材（2個）
- アングル（2個）
- 十字穴付トラスタッピンねじ 4×12（2本）
- 十字穴付トラスタッピンねじ 4×50（4本）

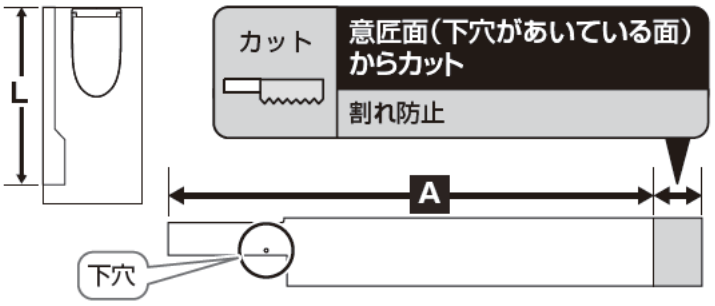
手洗器は共通

1 上段横さんのけがき

❶ 上段横さん設置位置FL～732mmをけがく



❶ 奥行寸法Lに対し、A=L−26とする
Aになるように上段横さんをカットする



奥行寸法L	−	規定寸法	=	けがき寸法A
		26		

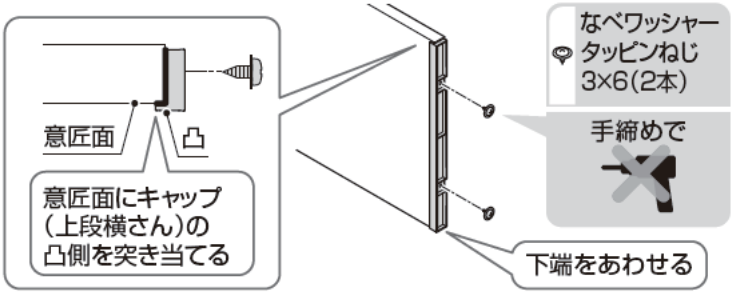
2 上段横さんの加工

※図はベッセルタイプ（丸形/角形）の場合

⚠注意

必ず守る
カット面は滑らかに仕上げる
お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

❷ 上段横さんにキャップ（上段横さん）を取り付ける



3 上段横さんの取り付け

壁裏補強ありの場合

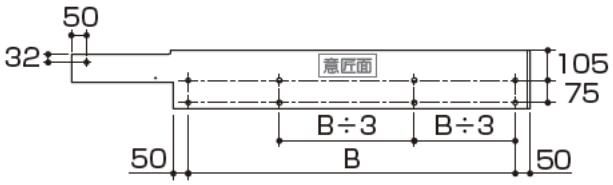
※図はベッセルタイプ(丸形/角形)の場合

❶ 上段横さんに 意匠面から 壁固定用の貫通穴(φ5)をあける

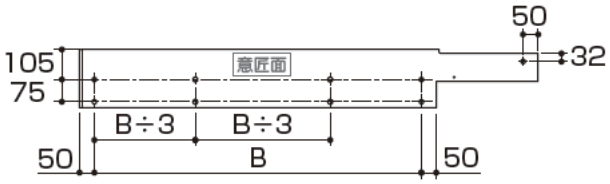
※寸法は図参照
※ハイバックタイプの場合も上端から32mmの位置となります。

貫通穴
φ5
(9カ所)

【左勝手】

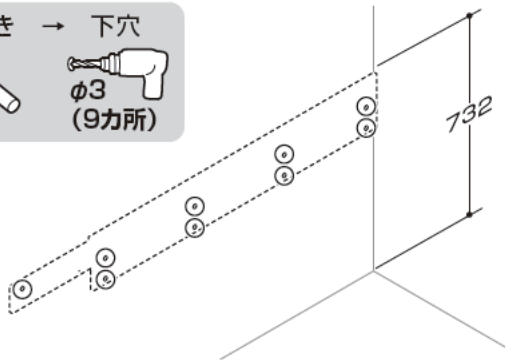


【右勝手】



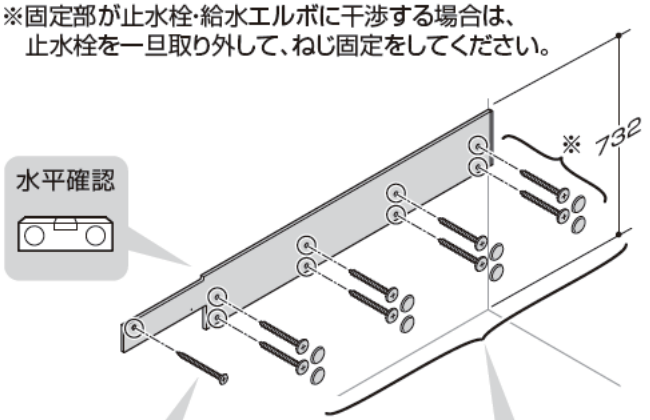
❷ けがき → 下穴

φ3
(9カ所)



❸ ねじ固定、キャップの取り付け

※固定部が止水栓・給水エルボに干渉する場合は、止水栓を一旦取り外して、ねじ固定をしてください。



皿タッピンねじ 4×40(1本)

低頭タッピンねじ 4.5×50キャップ付(8本)

壁裏補強なしの場合

※図はベッセルタイプ(丸形/角形)の場合

❶ 上段横さんに 意匠面から 壁固定用の貫通穴(φ5)をあける

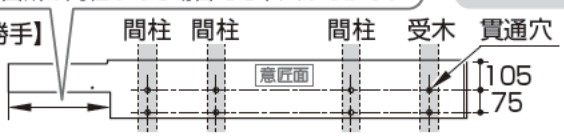
※寸法は図参照
※ハイバックタイプの場合も上端から32mmの位置となります。
※右勝手の場合、反転した寸法となります。

❶-❶ 受木・間柱にあわせて貫通穴をあける

貫通穴
φ5

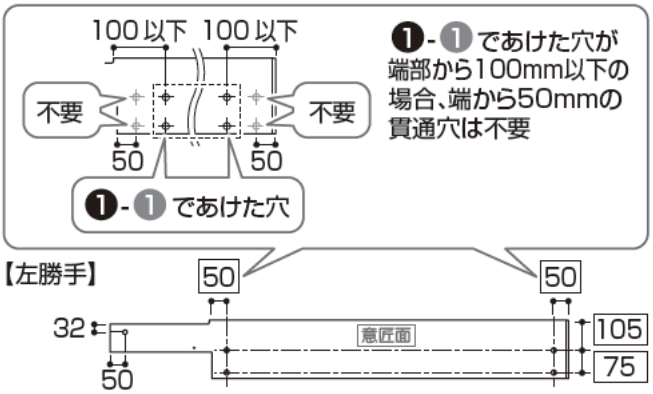
この箇所は間柱がある場合でも下穴はあけない

【左勝手】



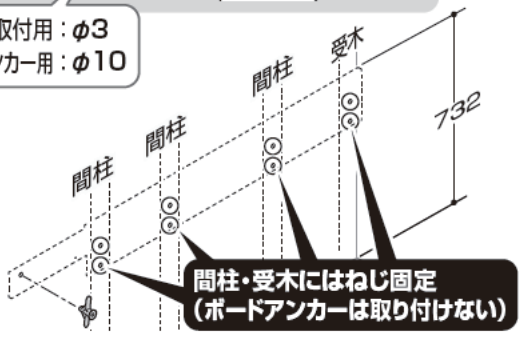
❶-❷ 下記寸法箇所に追加で貫通穴をあける

※□寸法部は不要となる場合があります。



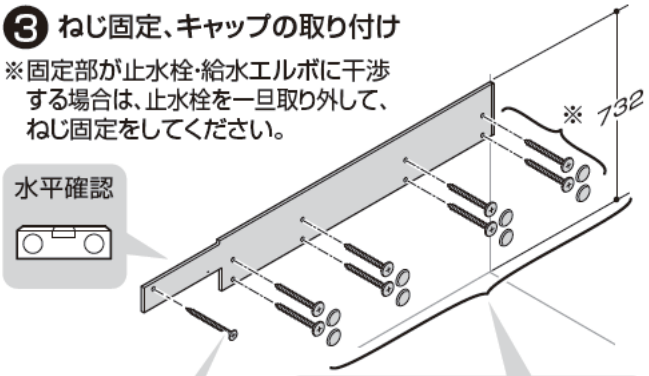
❷ けがき → 下穴 → ボードアンカー(オプション)

ねじ取付用:φ3
両端ボードアンカー用:φ10



❸ ねじ固定、キャップの取り付け

※固定部が止水栓・給水エルボに干渉する場合は、止水栓を一旦取り外して、ねじ固定をしてください。



皿タッピンねじ 4×40(1本)

低頭タッピンねじ 4.5×50キャップ付

※カウンターの長さ、間柱数によって、使用するねじの数が異なります。

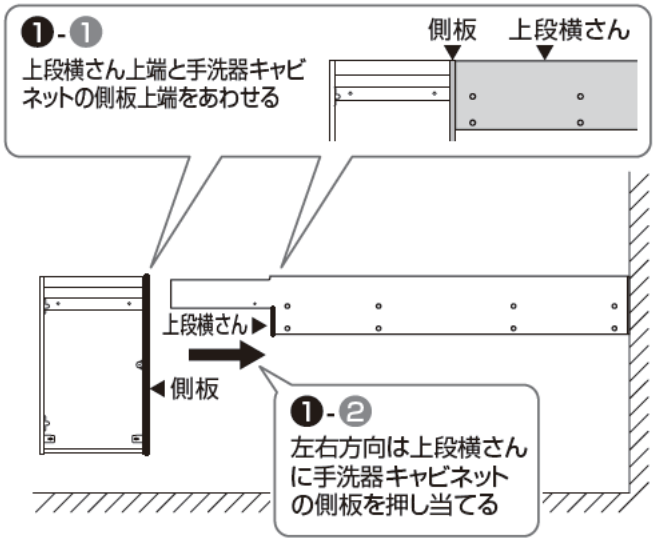
※手洗器により手順が異なります

ベッセルタイプ（丸形/角形）の場合	▶P.48
ハイバックタイプの場合	▶P.50

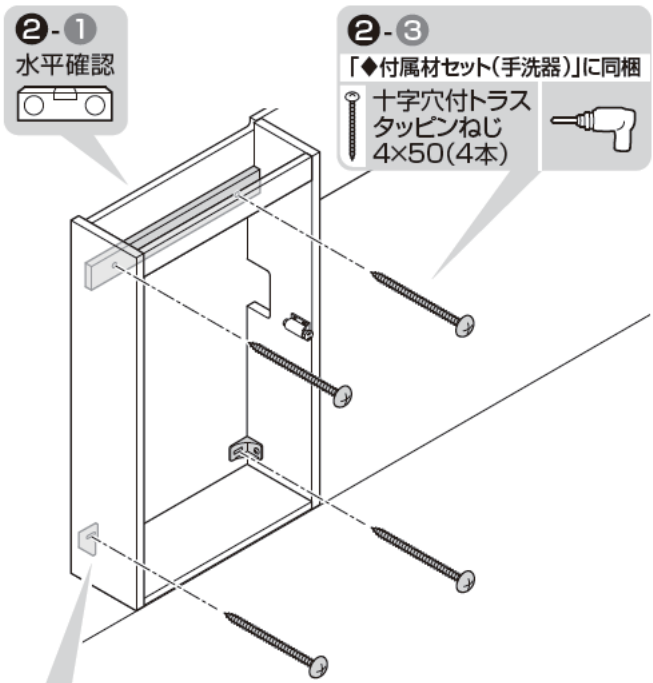
ベッセルタイプ（丸形/角形）の場合

4 手洗器キャビネットの取り付け

❶ 手洗器キャビネットを設置する



❷ 手洗器キャビネットの上下を固定する



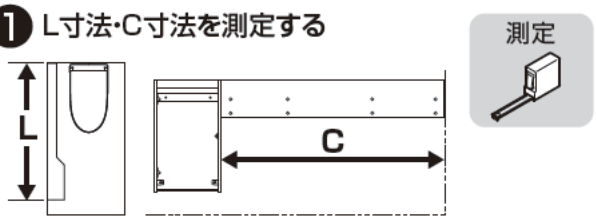
❷-❷

【壁裏補強ありの場合】
設置壁にけがき → 下穴 φ3

【壁裏補強なしの場合】
設置壁にけがき → 下穴 φ10 → ボードアンカー（オプション）

5 カウンター類のカット

❶ L寸法・C寸法を測定する



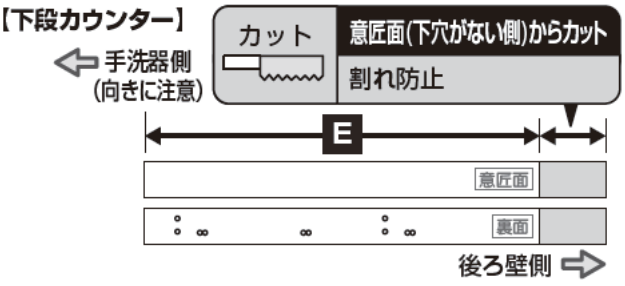
❷ 各部品の 形状を確認し カットする

⚠注意

必ず守る
カット面は滑らかに仕上げる
お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

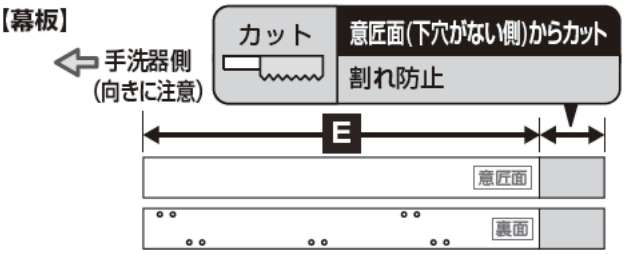
奥行寸法C	−	規定寸法	=	けがき寸法E
		4		

【下段カウンター】



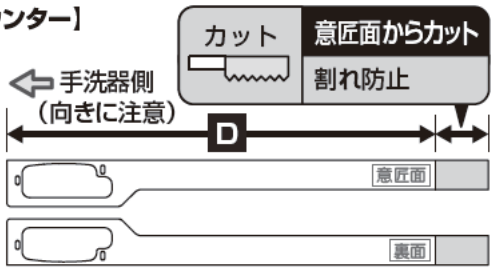
【下段横さん】

【幕板】



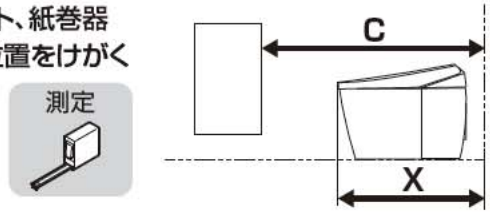
奥行寸法L	−	規定寸法	=	けがき寸法D
		4		

【上段カウンター】

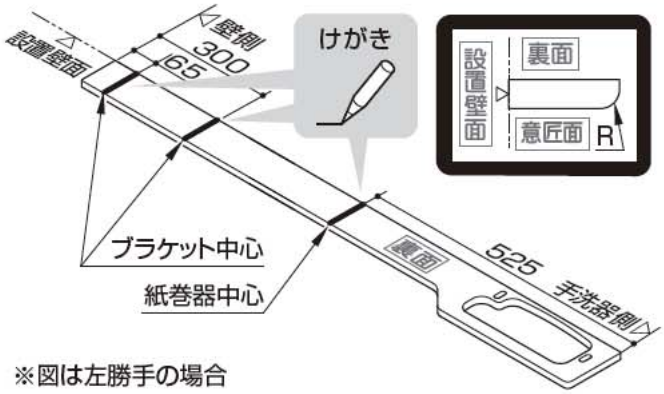


6 上段カウンター部材のけがき

❶ ブラケット、紙巻器の取付位置をけがく

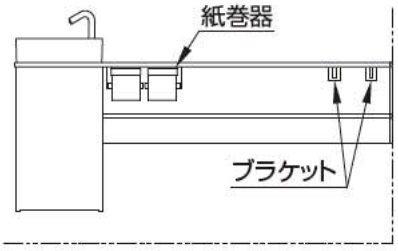


C-X寸法が260mm以下の場合

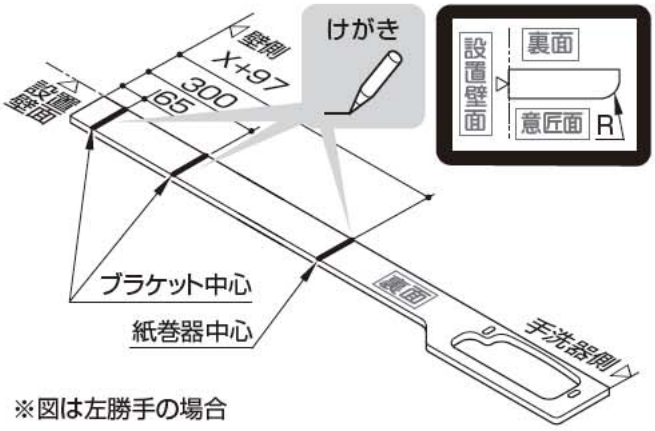


※図は左勝手の場合

取付イメージ

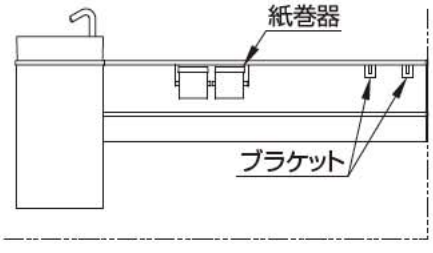


C-X寸法が260mmより大きい場合



※図は左勝手の場合

取付イメージ



紙巻器の取り付け･･･P.52 7 へ

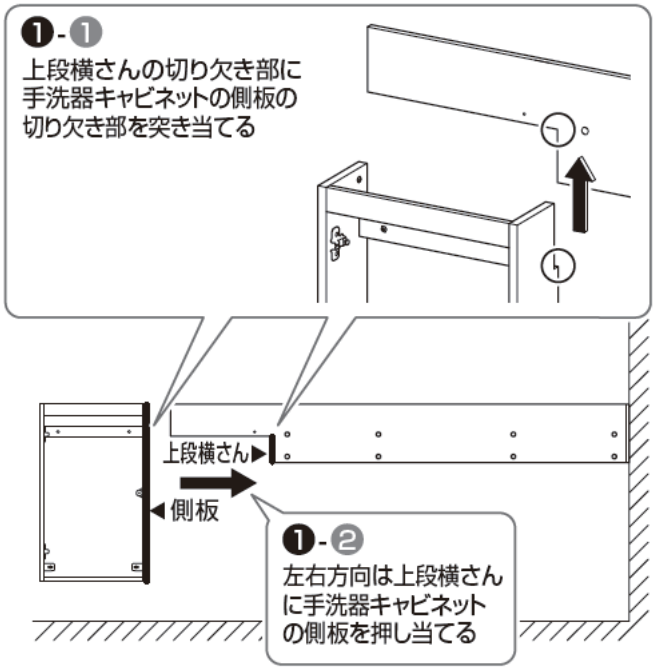
MEMO

ハイバックタイプの場合

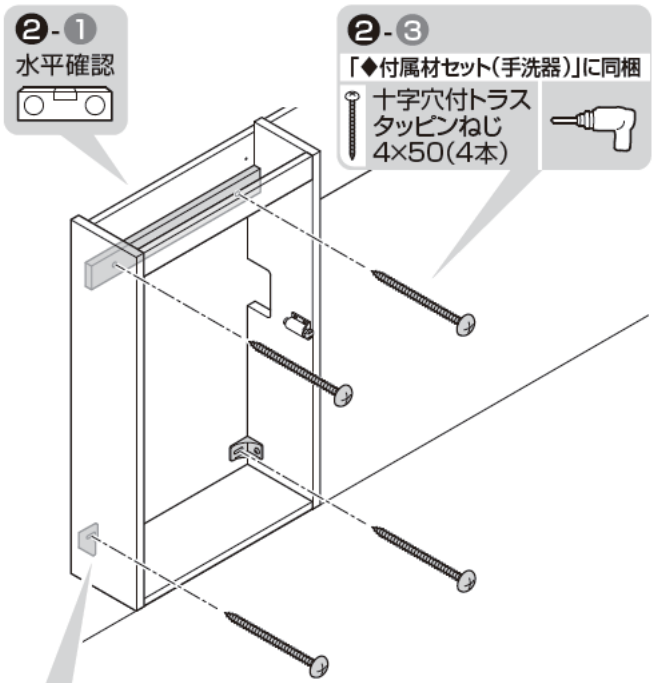
P.47 3 上段横さんの取り付け のつづき

4 手洗器キャビネットの取り付け

❶ 手洗器キャビネットを設置する

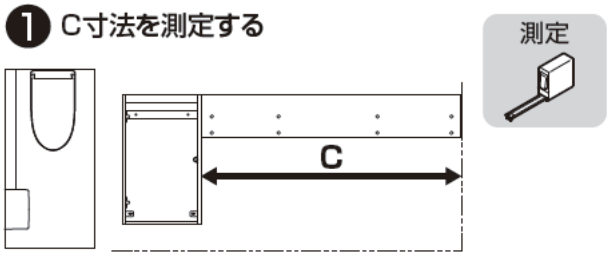


❷ 手洗器キャビネットの上下を固定する



5 カウンター類のカット

❶ C寸法を測定する



❷ 各部品の 形状を確認し カットする

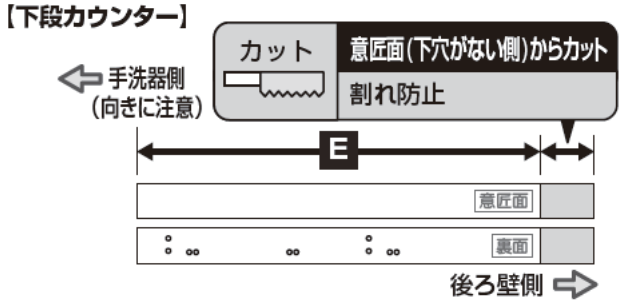
⚠注意

必ず守る

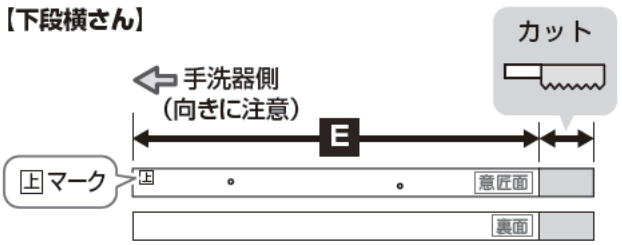
カット面は滑らかに仕上げる
お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

奥行寸法C	−	規定寸法	=	けがき寸法E
		4		

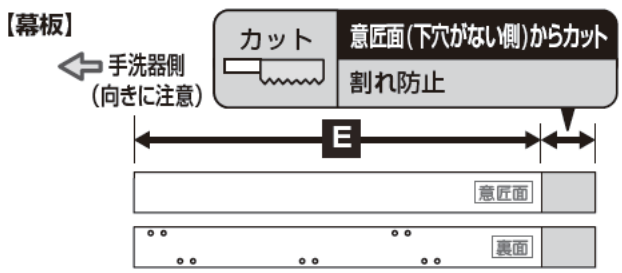
【下段カウンター】



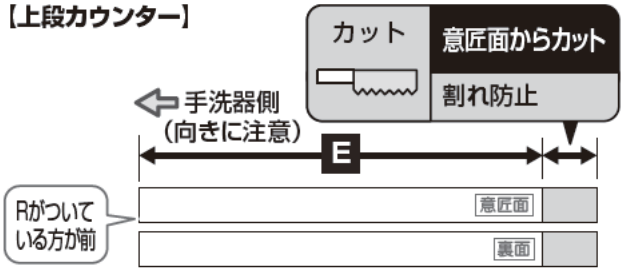
【下段横さん】



【幕板】

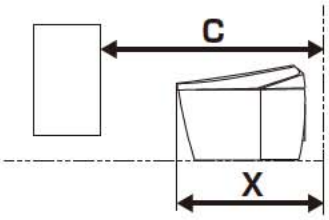


【上段カウンター】

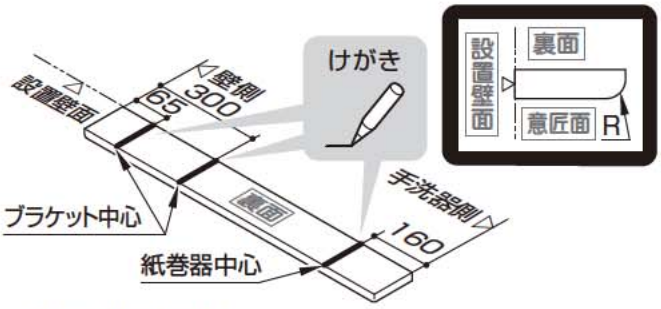


6 上段カウンター部材のけがき

❶ ブラケット、紙巻器の取付位置をけがく

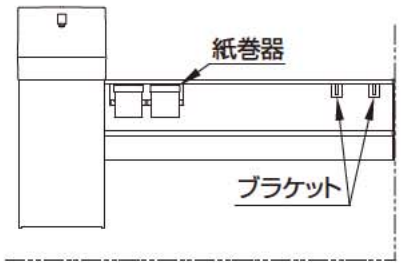


C-X寸法が320mm以下の場合

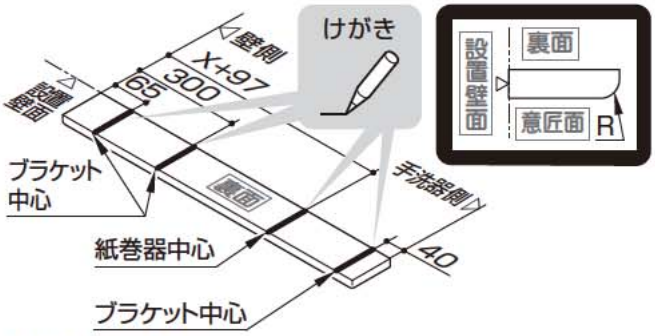


※図は左勝手の場合

取付イメージ

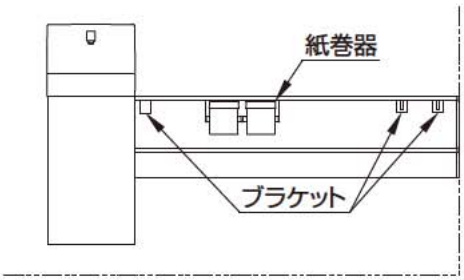


C-X寸法が320mmより大きい場合



※図は左勝手の場合

取付イメージ



MEMO

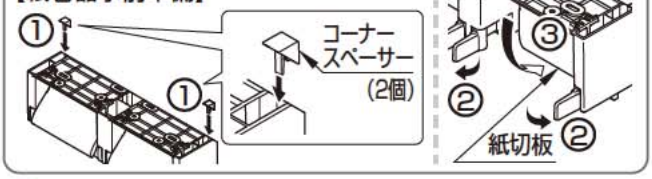
手洗器は共通

※紙巻器により手順が異なります

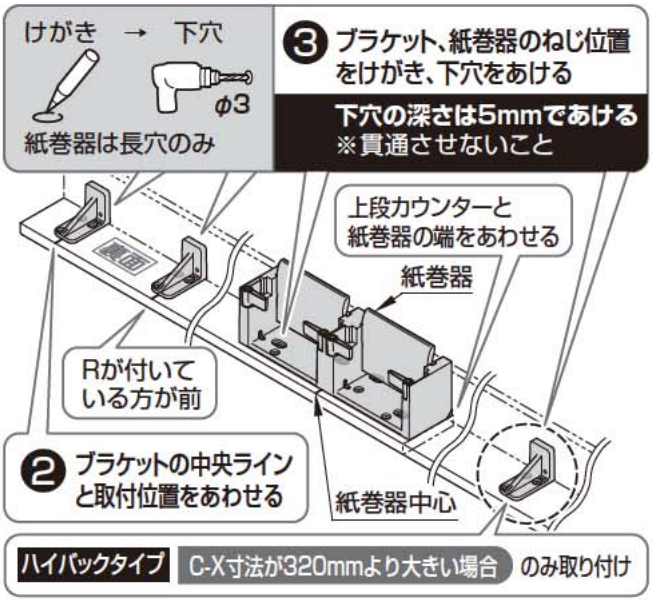
樹脂製紙巻器の場合

7 紙巻器・ブラケットの取り付け

【紙巻器事前準備】

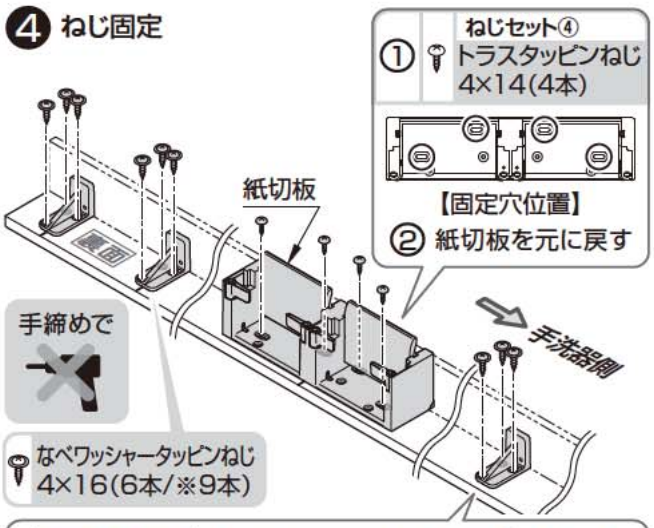


❶ ブラケットの裏面に下段横さんをあてがい、けがく



ハイバックタイプ C-X寸法が320mmより大きい場合 のみ取り付け

❹ ねじ固定



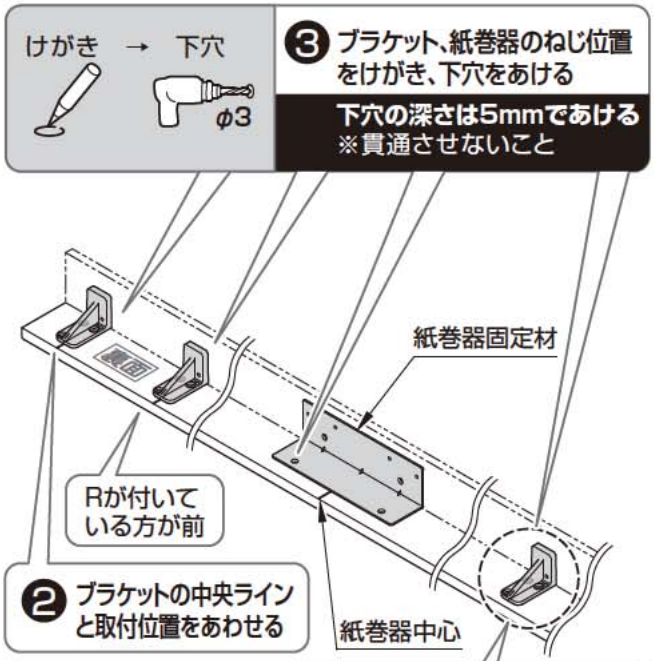
※ ハイバックタイプ C-X寸法が320mmより大きい場合 のみ取り付け

メタル製紙巻器の場合

7 固定材・ブラケットの取り付け

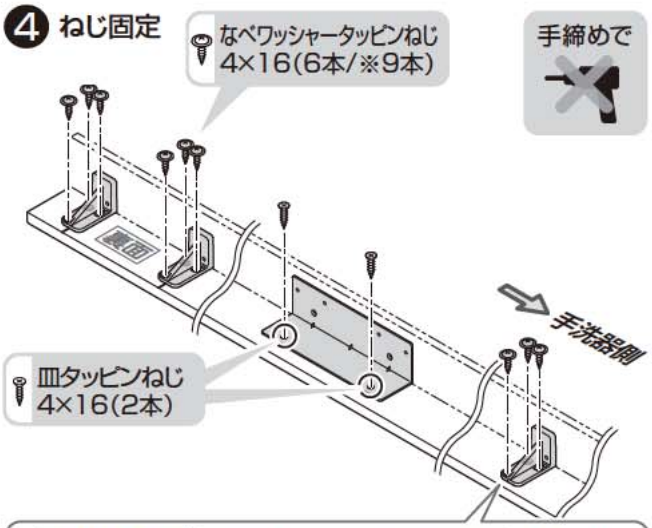
※紙巻器の取り付けは、「10. 確認・仕上げ」にて行います。
P.86 参照

❶ ブラケットの裏面に下段横さんをあてがい、けがく



ハイバックタイプ C-X寸法が320mmより大きい場合 のみ取り付け

❹ ねじ固定



※ ハイバックタイプ C-X寸法が320mmより大きい場合 のみ取り付け

※8 上段カウンターの取り付けは手洗器により手順が異なります

ベッセルタイプ（丸形/角形）の場合	▶P.53
ハイバックタイプの場合	▶P.54

ベッセルタイプ（丸形/角形）の場合

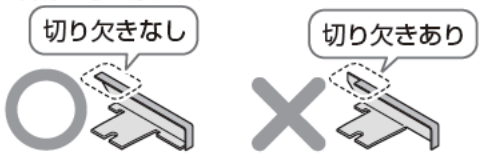
8 上段カウンターの取り付け

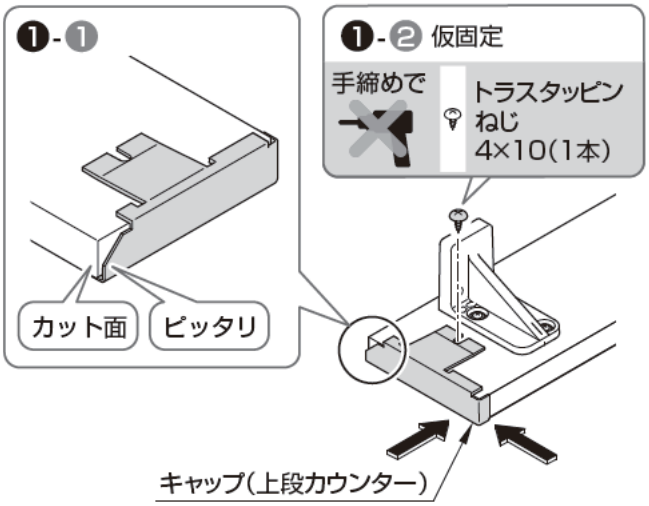
❶ キャップ（上段カウンター）の取り付け

⚠注意

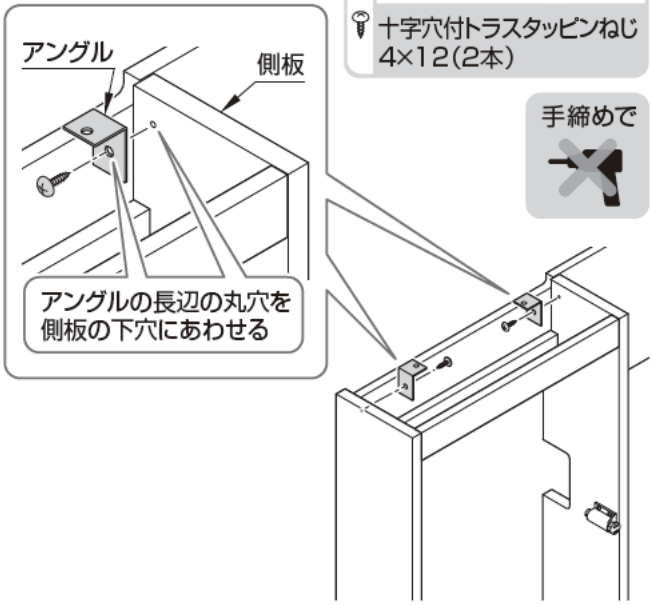
必ず守る

キャップ（上段カウンター）上部に切り欠きがないものを取り付けること
お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

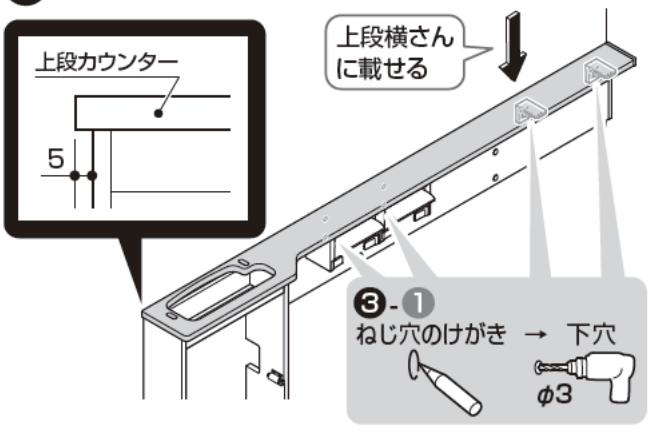


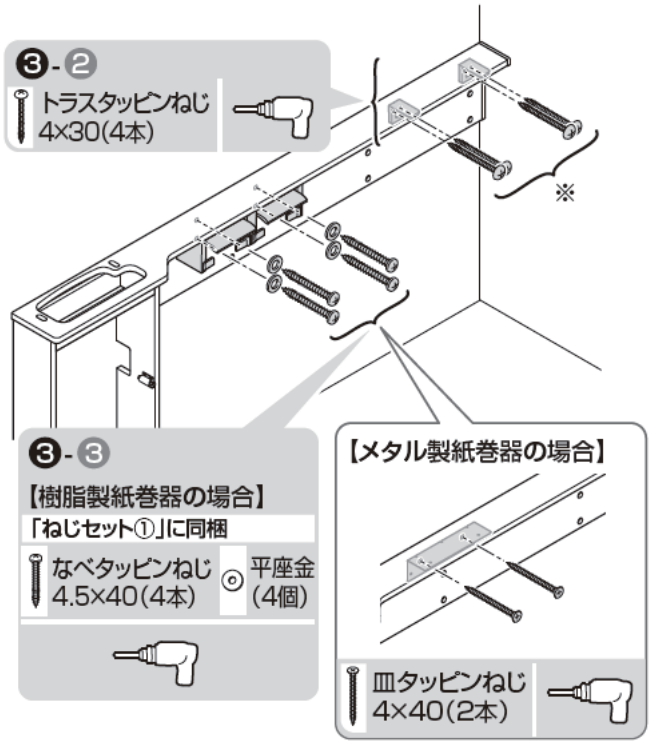


❷ アングルの取り付け

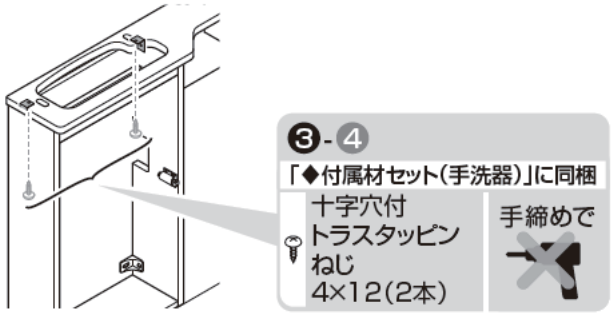


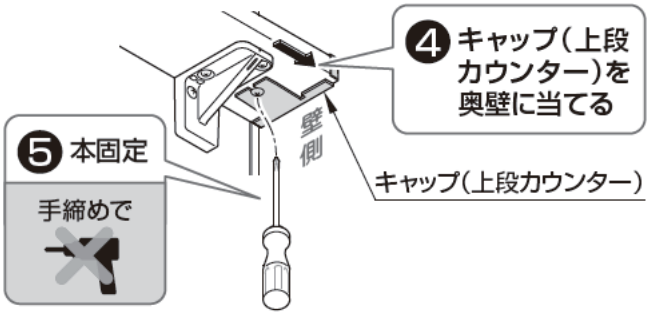
❸ 上段カウンターの取り付け





※止水栓・給水エルボに干渉する場合はロングビット（200mm）を使用する、または止水栓を一旦取り外して、ねじ固定をしてください。





下段カウンターの取り付け・・・P.55 9 へ

ハイバックタイプの場合

P.52 7 紙巻器・ブラケットの取り付け のつづき
P.52 7 固定材・ブラケットの取り付け のつづき

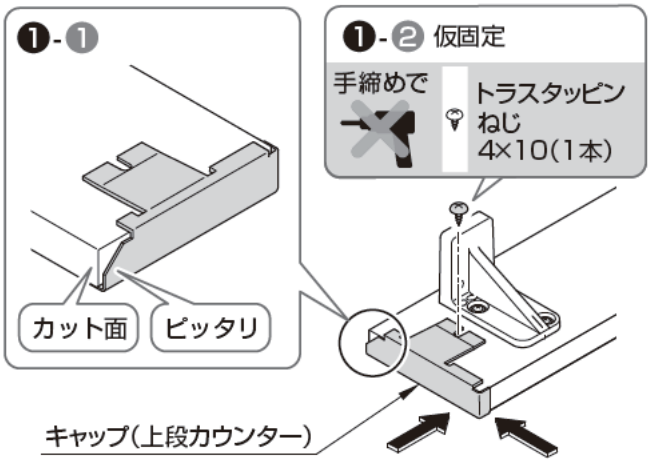
8 上段カウンターの取り付け

❶ キャップ（上段カウンター）の取り付け

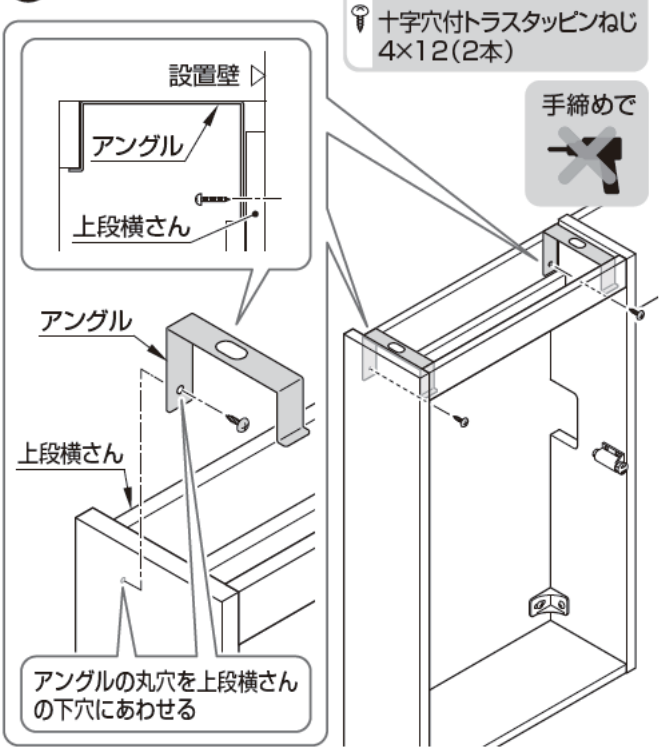
⚠注意

必ず守る

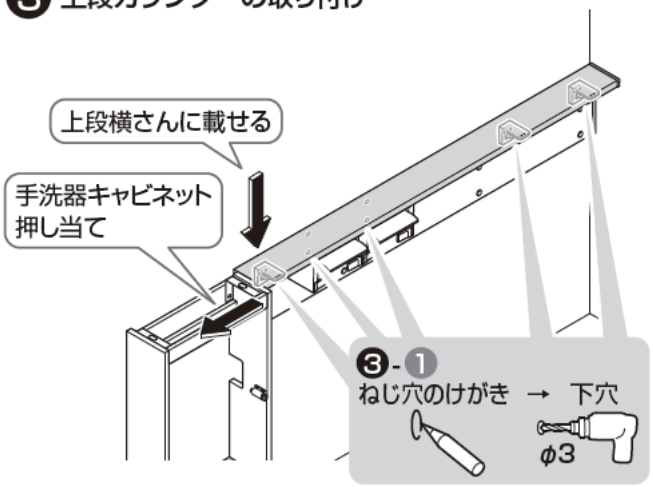
キャップ（上段カウンター）上部に切り欠きがないものを取り付けること
お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

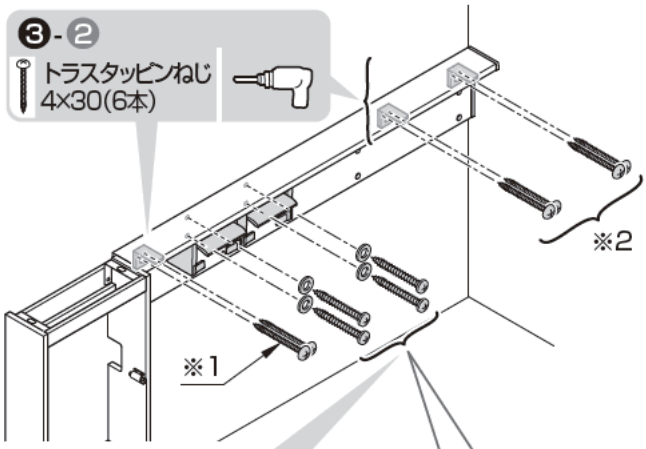


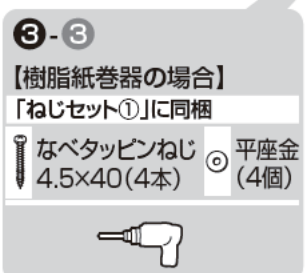
❷ アングルの取り付け



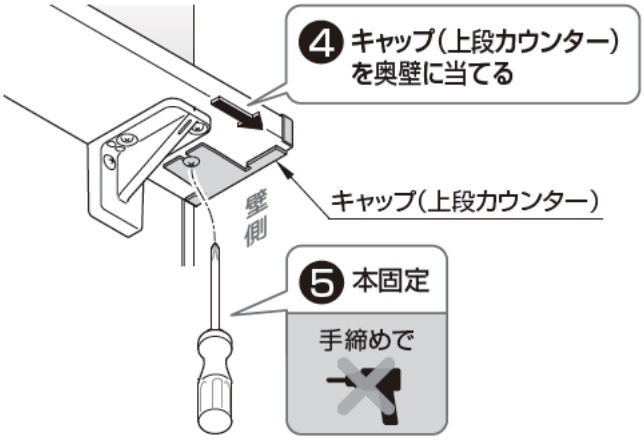
❸ 上段カウンターの取り付け







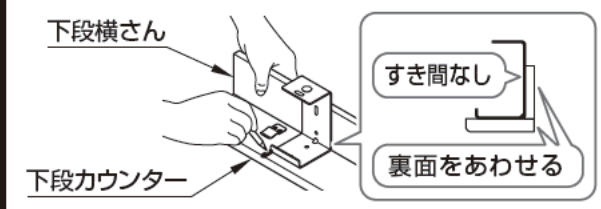
※1 C-X寸法が320mm以下の場合は手洗器側のブラケットなし
※2 止水栓・給水エルボに干渉する場合はロングビット（200mm）を使用する、または止水栓を一旦取り外して、ねじ固定をしてください。



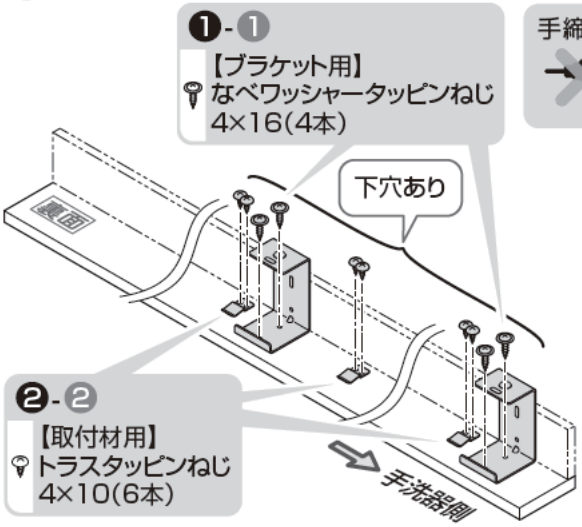
8 上段カウンターの取り付け のつづき

9 下段カウンターの取り付け

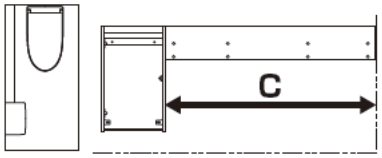
ブラケットの裏面に下段横さんをあてがう



❶ 下穴があいている箇所にブラケットと取付材をねじ固定

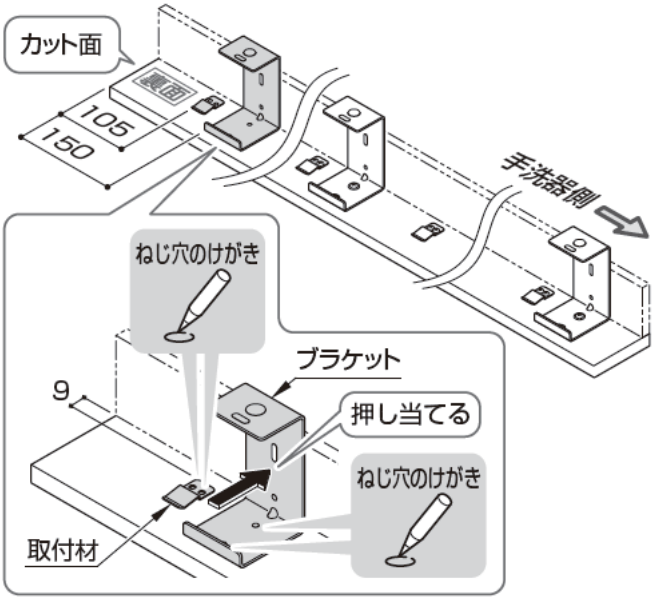


※C寸法を確認し、920mmより小さい場合は❷、❸の手順は不要です。

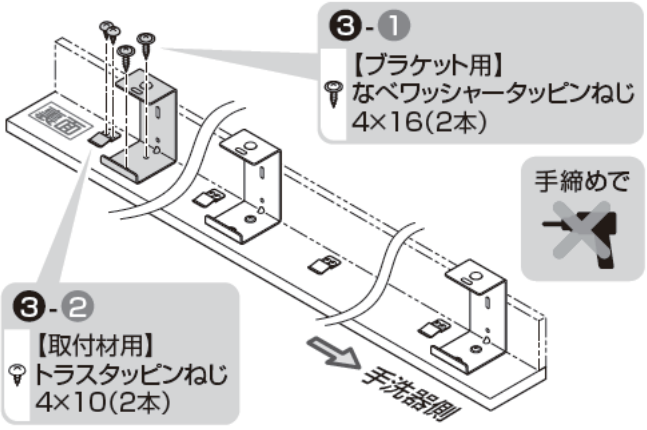


❷ ブラケット、取付材の取付位置をあわせてねじ位置をけがく

※取付寸法は図参照



❸ けがいた位置にブラケットと取付材を取り付ける



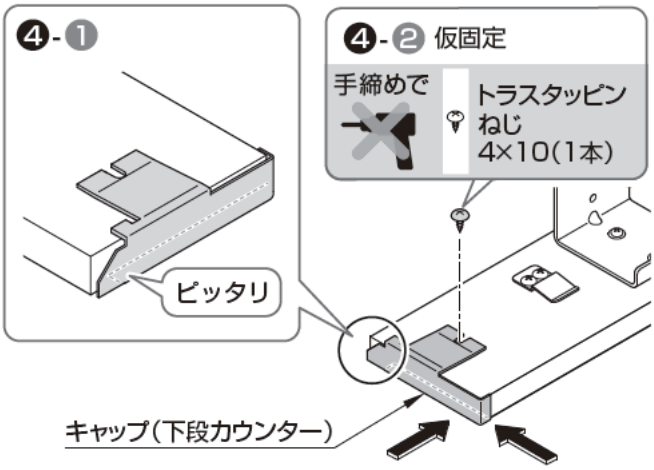
❹ キャップ(下段カウンター)の取り付け

⚠注意

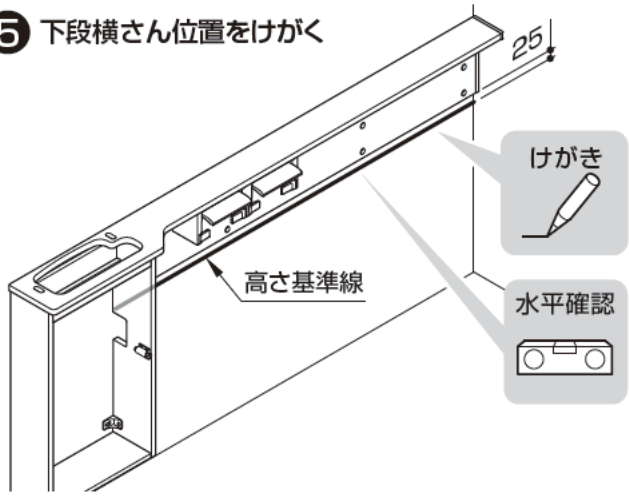
必ず守る

キャップ(下段カウンター)上部に切り欠きがあるものを取り付けること

お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

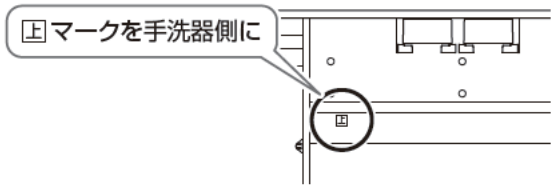


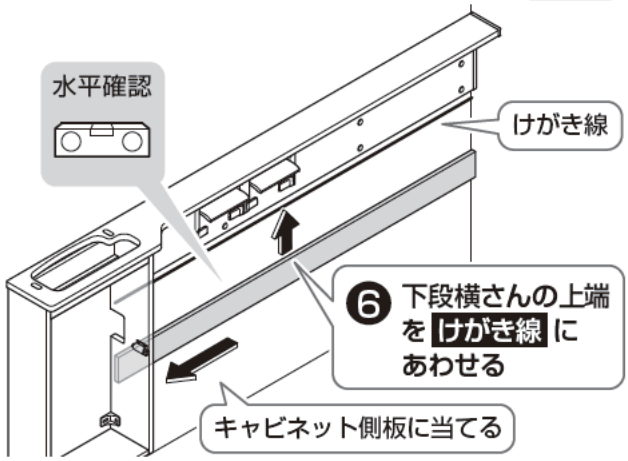
❺ 下段横さん位置をけがく



※図はベッセルタイプ(丸形/角形)の場合

向きに注意!





※図はベッセルタイプ（丸形/角形）の場合

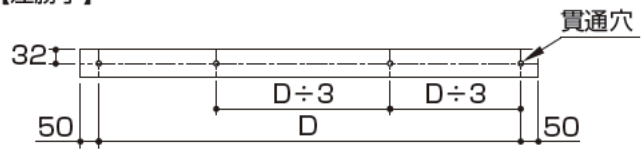
壁裏補強ありの場合

⑦ 下段横さんを壁に固定するための貫通穴（φ5）をあける

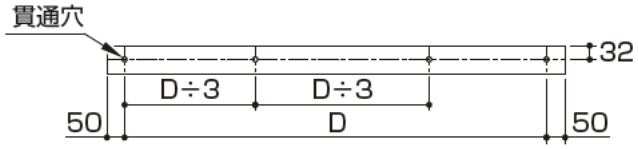
※寸法は図参照

貫通穴（壁にあけない）
φ5（4カ所）

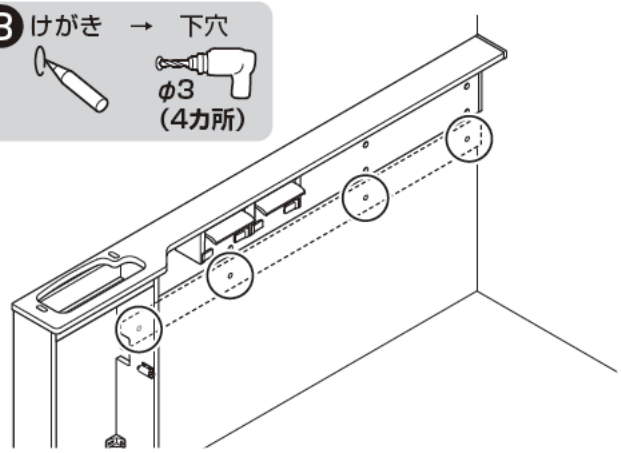
【左勝手】



【右勝手】



⑧ けがき → 下穴



※図はベッセルタイプ（丸形/角形）の場合

壁裏補強なしの場合

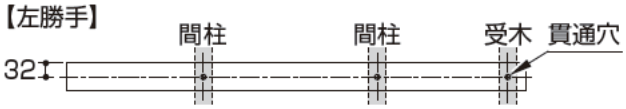
⑦ 下段横さんを壁に固定するための貫通穴（φ5）をあける

※寸法は図参照
※受木がある場合、受木中心にあける
（両端からの50mmの下穴を中心にあけない）
※右勝手の場合、反転した寸法となります。

貫通穴（壁にあけない）
φ5

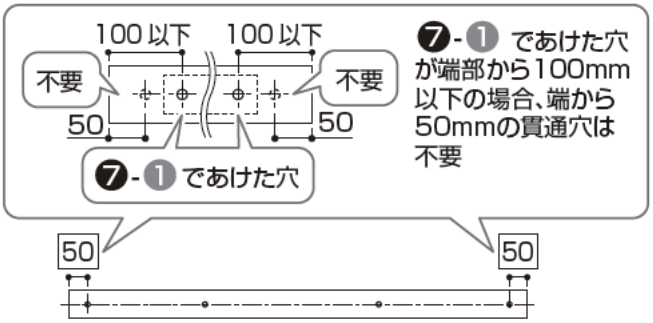
⑦-① 受木・間柱にあわせて貫通穴をあける

【左勝手】



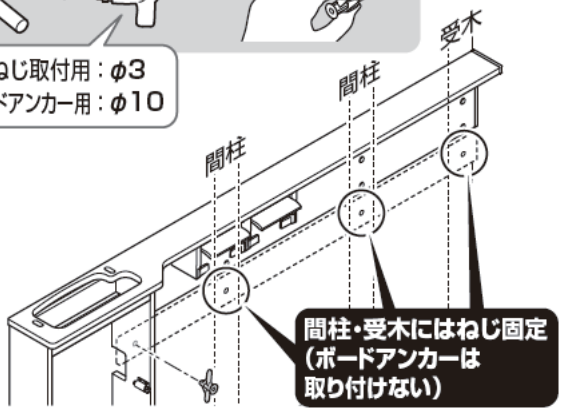
⑦-② 下記寸法箇所に追加で貫通穴をあける

※□寸法部は不要となる場合があります。



⑧ けがき → 下穴 → ボードアンカー（オプション）

ねじ取付用：φ3
両端ボードアンカー用：φ10



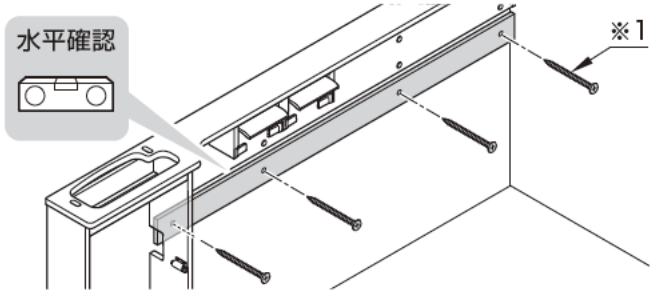
※図はベッセルタイプ（丸形/角形）の場合

共通

⑨ 下段横さんの取り付け

※1 止水栓・給水エルボに干渉する場合はロングビット（200mm）を使用する、または止水栓を一旦取り外して、ねじ固定をしてください。

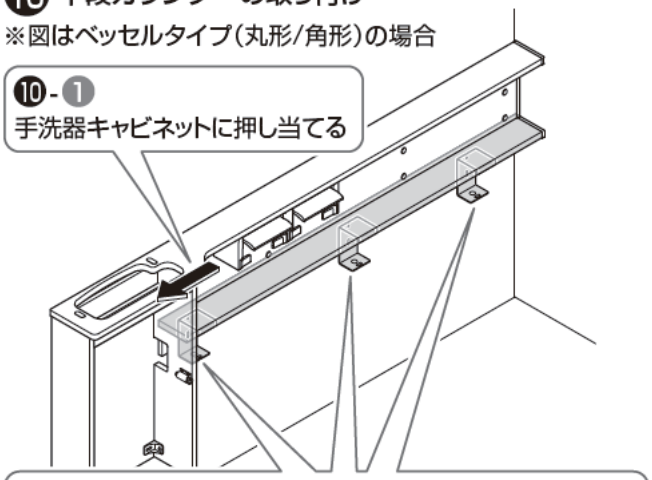
皿タッピンねじ 4×40	【壁裏補強ありの場合】	【壁裏補強なしの場合】
	4本	カウンターの長さ、間柱数により使用本数が異なる

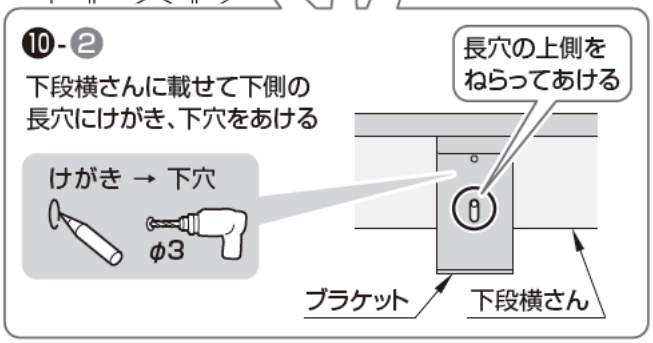


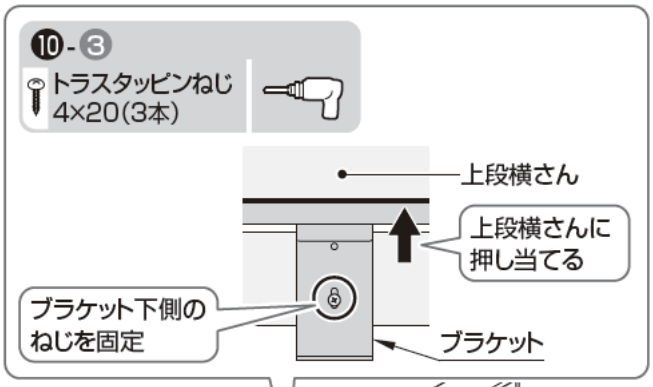
※図はベッセルタイプ（丸形/角形）の場合

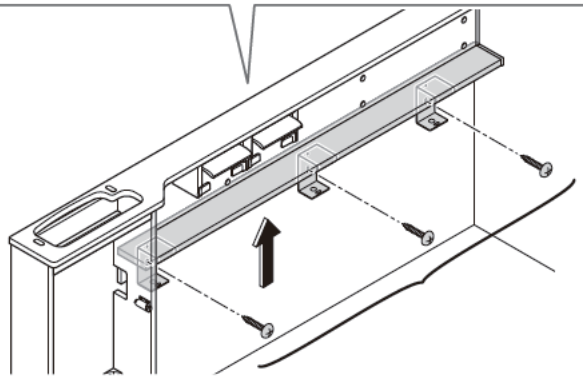
⑩ 下段カウンターの取り付け

※図はベッセルタイプ(丸形/角形)の場合

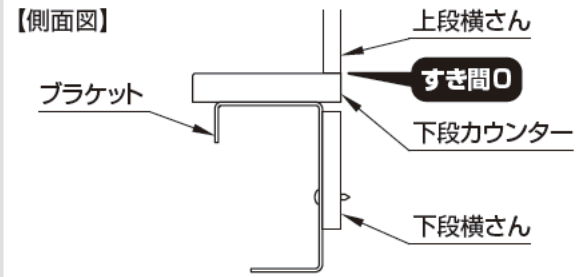


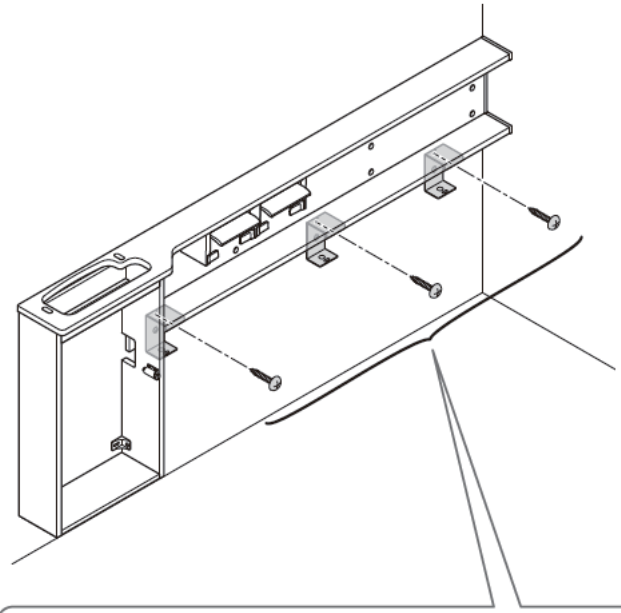


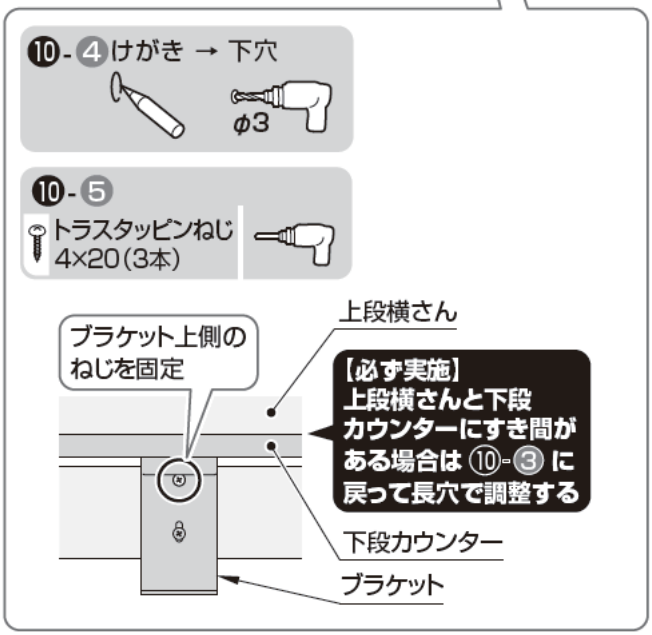


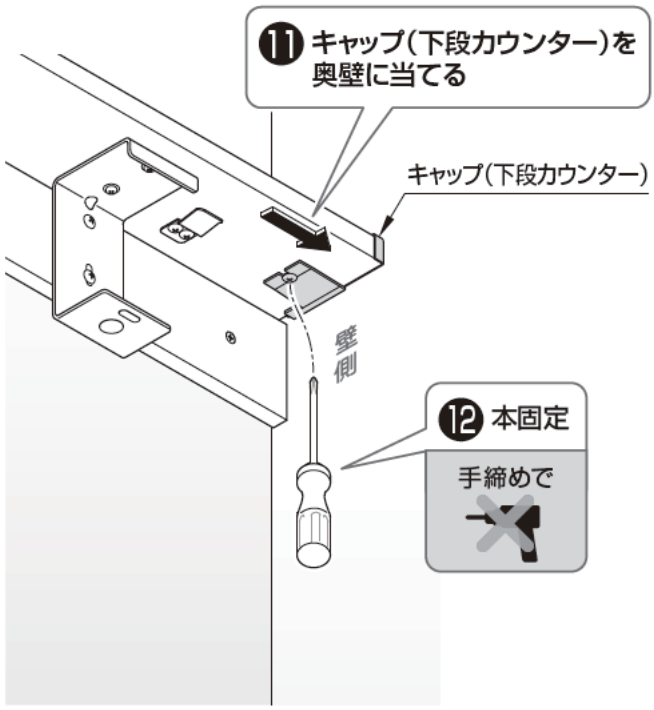


取付イメージ







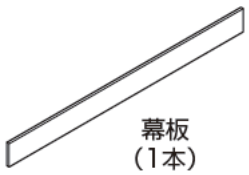


3. 幕板

使用部材 ※包装内に一部使用しない部材（■）がある場合のみ表記しています。

カウンターセット

幕板



幕板（1本）

取付材（4個）　座金組込化粧ねじ 4×12(3本)　アングル（7個）　トラスタッピンねじ 4×10(14本)

キャップセット

【上段カウンター】

キャップ（上段カウンター）（1個）
トラスタッピンねじ 4×10(1本)

【下段カウンター】

キャップ（下段カウンター）（1個）
トラスタッピンねじ 4×10(1本)

【上段横さん】

キャップ（上段横さん）（1個）
なべワッシャータッピンねじ 3×6(2本)

【幕板】

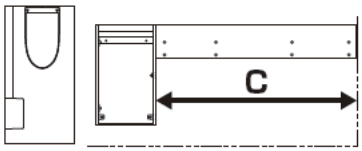
キャップ（幕板）（1個）

スペーサー t=0.5(4個)

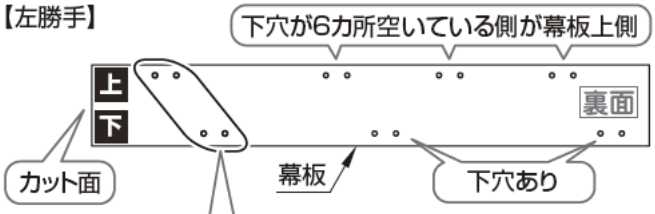
トラスタッピンねじ 4×10(2本)

1 幕板部材の取り付け

※C寸法が920mmより小さい場合は❶の手順は不要です。
※右勝手の場合、反転した形状となります。



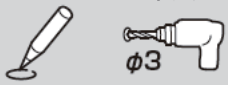
【左勝手】

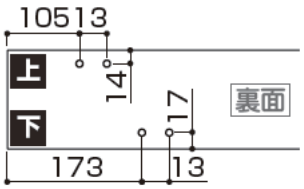


❶ アングルの取付位置をけがき、下穴をあける

下穴の深さは5mmであける
※貫通させないこと

けがき → 下穴

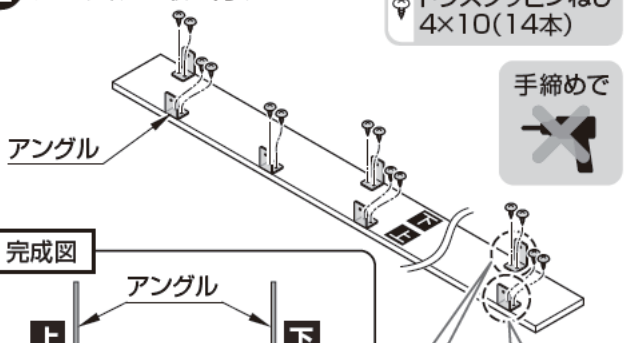




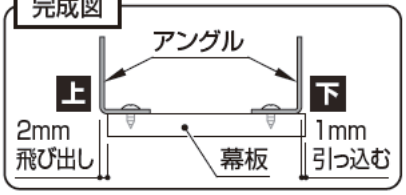
❷ アングルの取り付け

トラスタッピンねじ 4×10(14本)

手締めで

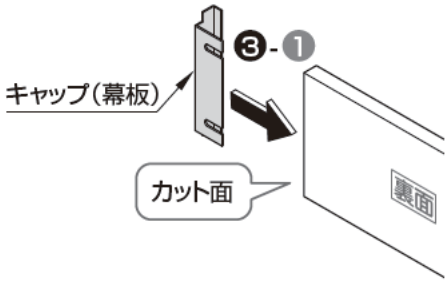


完成図

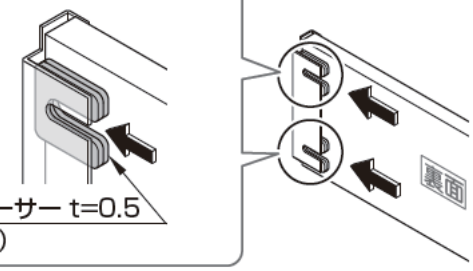


C寸法が920mmより小さい場合は不要

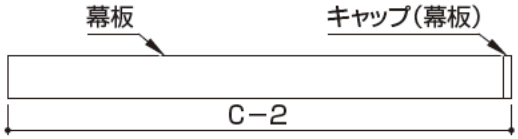
❸ 幕板にキャップ（幕板）の取り付け



❸-❷ スペーサーを差し込む



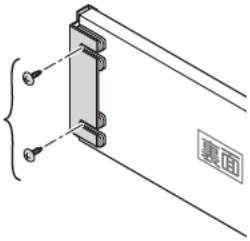
❸-❸ 左記のC寸法を確認し、C−2mmになるようにキャップの位置を調整する



❸-❹

トラスタッピンねじ 4×10(2本)

手締めで



4. 手洗給水・排水部

使用部材 ※包装内に一部使用しない部材(■)がある場合のみ表記しています。

カウンターセット

手洗器用排水ホース（1本）
クイックファスナー（1個）

◆施工説明書・取扱説明書セット

施工説明書
施工説明書（1冊）
ちらし（1枚）
型紙
※ベッセルタイプ(丸形/角形)の場合:1枚
ハイバックタイプの場合:1枚
クッション材（1枚）
ラベル（1枚）

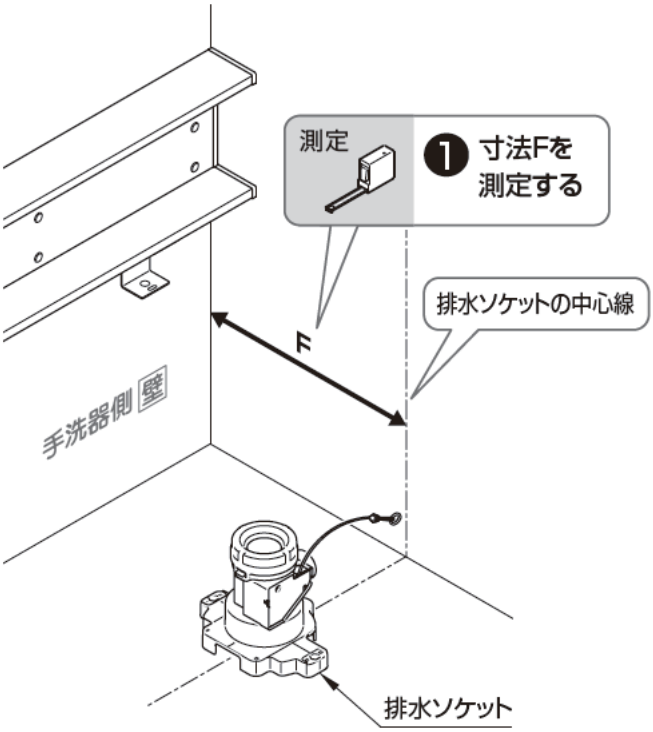
◆配管用カバー

【付属材セット】
支持アングル（2個）
取付材（1個）
結束バンド（3個）
ホースクランプ(大)（1個）
ホースクランプ(小)（2個）
取付材（1個）
皿タッピンねじ 4×16(1本)
トラスタッピンねじ 4×40(8本)
ボードアンカー（6個）
ボードアンカー（2個）
取付材（1個）

1 カバー(配管)の加工

⚠注意

必ず守る
カット面は滑らかに仕上げる
お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。



❷ カバー(配管)、取付材のカット代を計算し、カットする

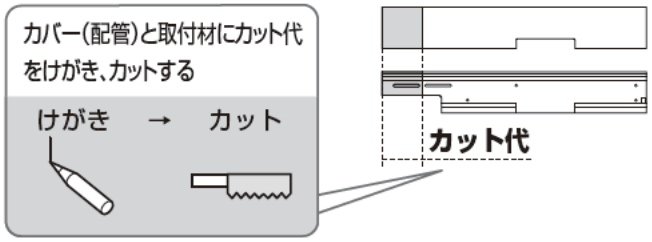
カバー(配管)、取付材の寸法が541mmの場合

規定寸法		寸法F		カット代
445	−		=	

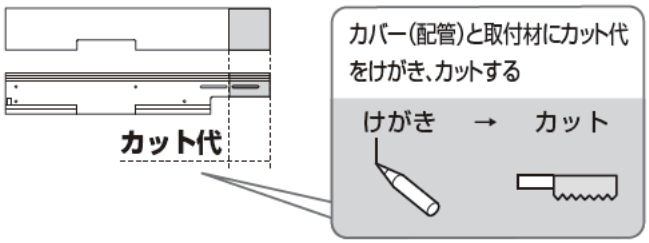
カバー(配管)、取付材の寸法が591mmの場合

規定寸法		寸法F		カット代
495	−		=	

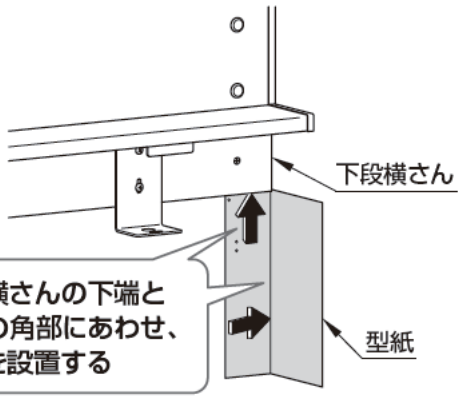
左勝手



右勝手

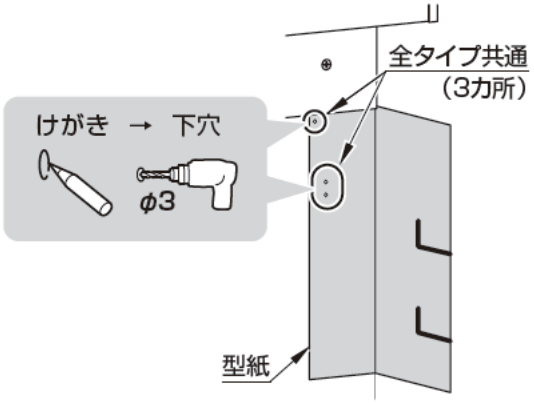


2 取付材の取り付け

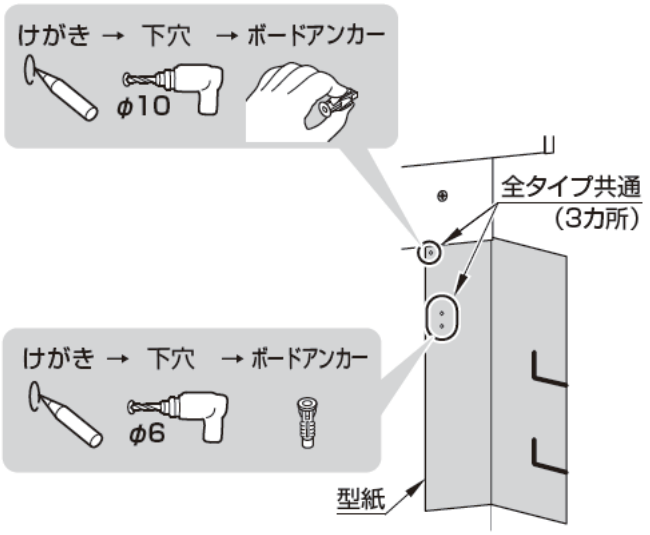


❷ 型紙に沿って取付位置をけがき、下穴をあける

壁裏補強ありの場合



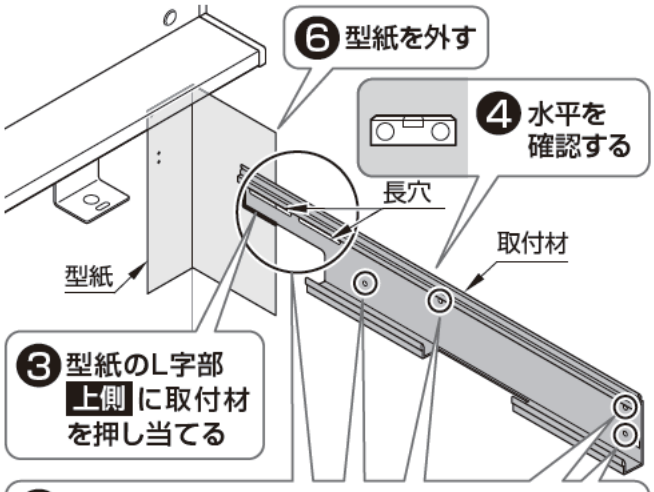
壁裏補強なしの場合



⚠注意

必ず守る

壁裏の給水管と干渉しない位置にねじ固定のこと
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



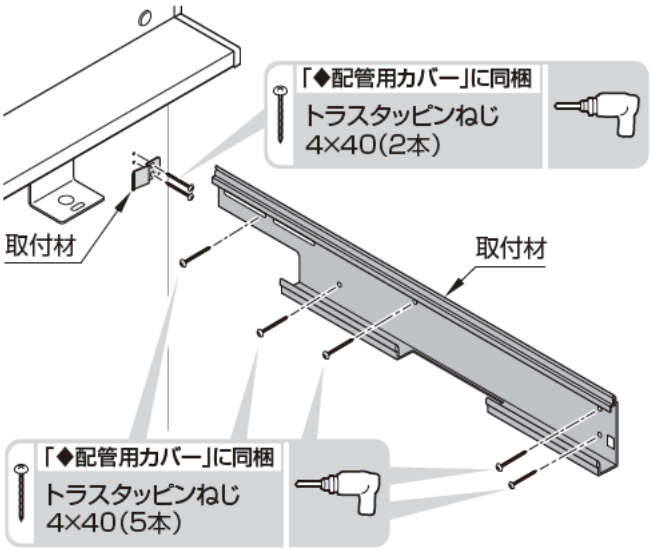
❺ 取付位置をけがき、下穴をあける

長穴箇所は壁裏の給水管と干渉しない位置に下穴をあける

【壁裏補強ありの場合】
けがき → 下穴
φ3

【壁裏補強なしの場合】
けがき → 下穴 → ボードアンカー
φ10

❼ 取付材2種類を取り付ける



3 手洗器用排水ホースの接続

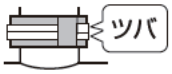
❶ 手洗器用排水ホースを排水ソケットに接続する

❷ クイックファスナーを取り付ける

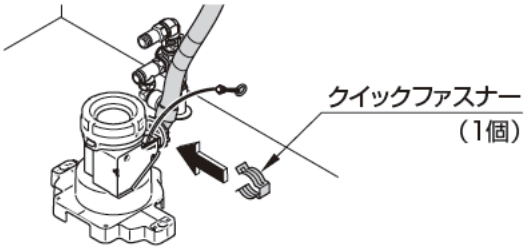
⚠注意

必ず守る

- クイックファスナーの全周にツバが掛かっていることを確認する



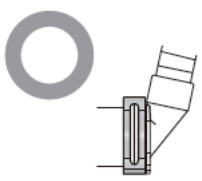
- クイックファスナーがスムーズに1回転することを確認する
  水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

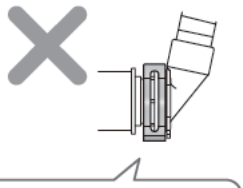


クイックファスナーの取り付けかた

クイックファスナーを正しくセットする
手洗器用排水ホースが抜けて水漏れのおそれがあります。

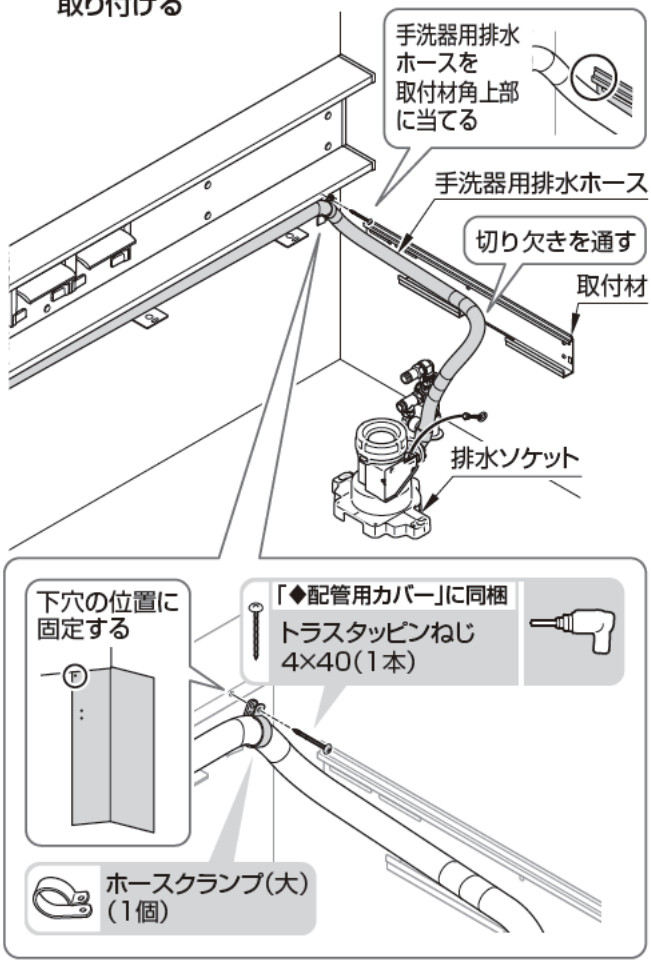
①クイックファスナーが正しくセットされているか確認してください。



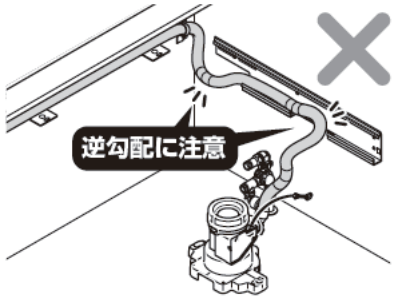


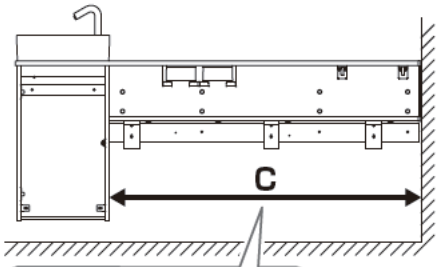
②手洗器用排水ホースを強く引っ張って抜けないことを確認してください。

❸ 手洗器用排水ホースを取り回し、ホースクランプを取り付ける



手洗器用排水ホースがたるまないようにする
※手洗器から異音発生のおそれがあります。



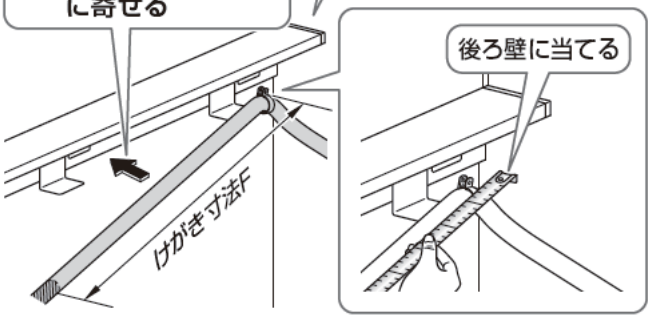


測定 ④ 寸法Cを測定する

⑤ けがき寸法Fを計算する

奥行寸法C		規定寸法		けがき寸法F
	−	180	=	

⑥ 上段カウンター側に寄せる



⚠注意

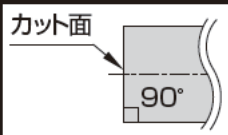
必ず守る

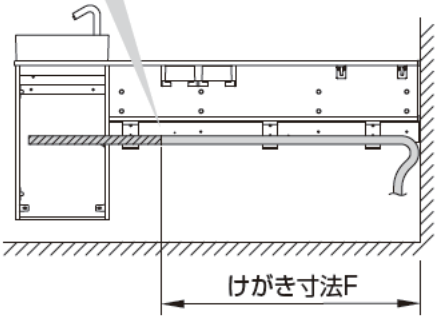
手洗器用排水ホースカット時、押切タイプのパイプカッターは使用しない

手洗器用排水ホースの断面が変形し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

⑦ けがき → カット

手洗器排水ホースは垂直にカットする





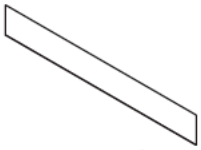
MEMO

5. アクセントパネル（選択商品）

アクセントパネルなしの場合は P.68 へ

使用部材

アクセントパネル



アクセントパネル
（1 枚）

フレーム
（アクセントパネル）
（2本）
※左右共通

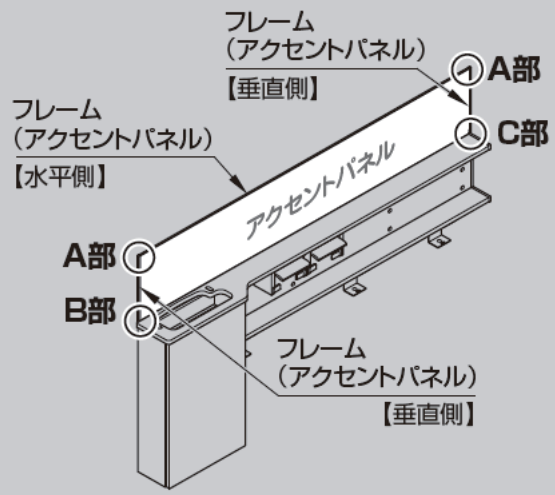
フレーム
（アクセントパネル）
（1本）

付属材セット（アクセントパネル）

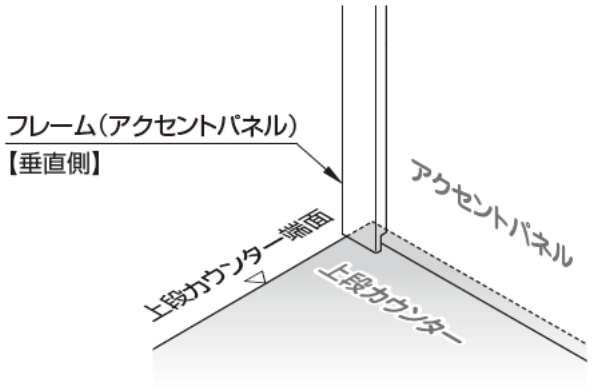
両面テープ
（1 個）

接着剤
（1 本）

完成イメージ

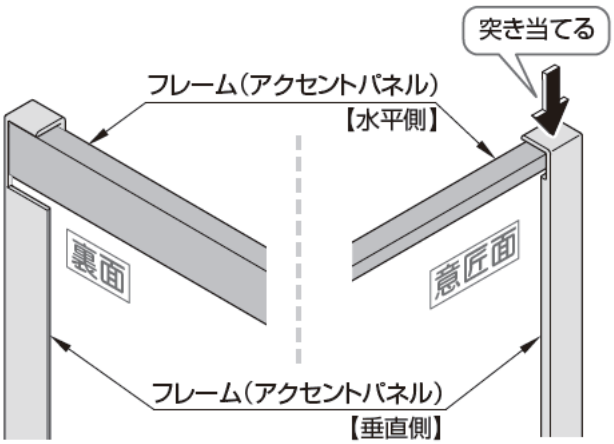


B部 手洗器側



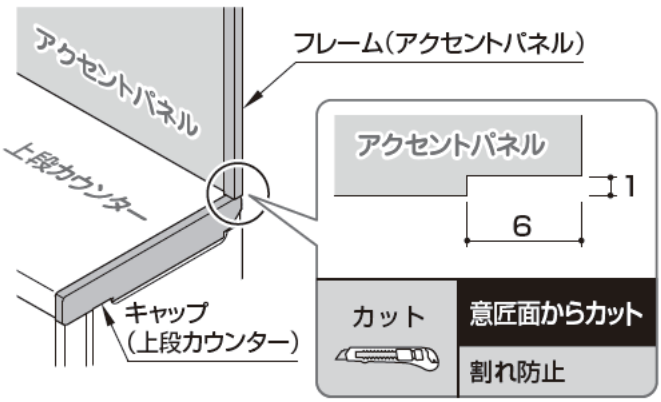
上段カウンター端面に垂直側のフレーム（アクセントパネル）外端をそろえる

A部



フレーム（アクセントパネル）は水平側が垂直側に飲み込まれること

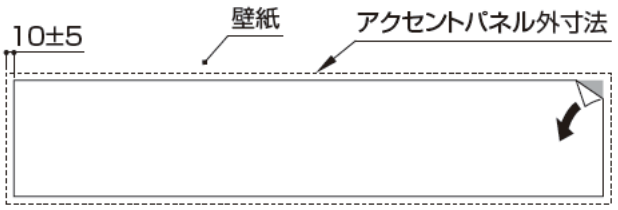
C部 大便器側



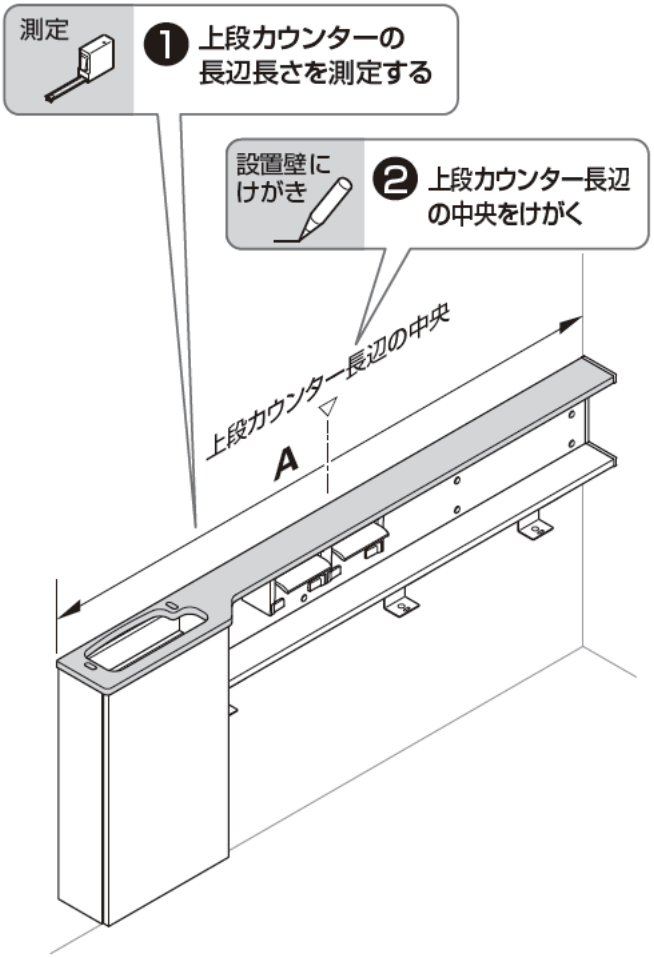
アクセントパネルとキャップ（上段カウンター）が干渉しないよう、アクセントパネルを切り欠き加工し、側面側に垂直側のフレーム（アクセントパネル）外端をそろえる

器具取付前に

壁紙が既にはられている場合には、
アクセントパネル外寸法より10±5mm内側の範囲を
はがしてください。

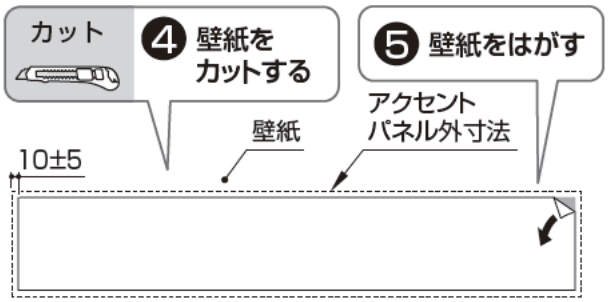


1 アクセントパネル設置の準備



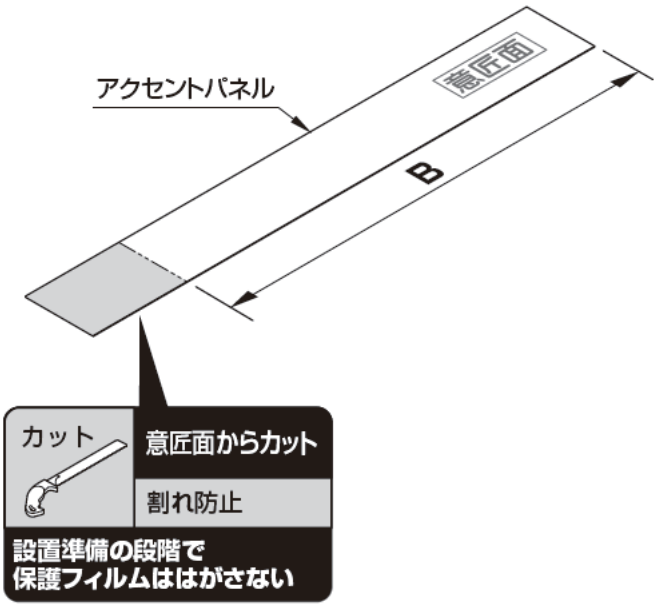
❸ アクセントパネルの長辺長さを計算する

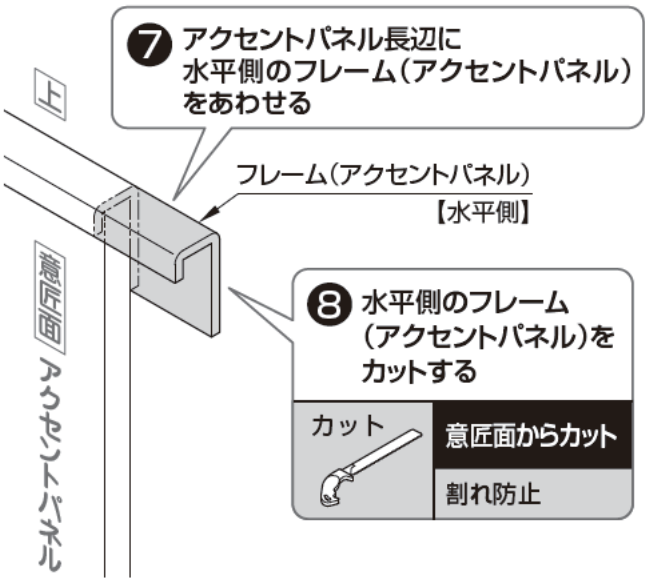
上段カウンター長辺長さ A	−	規定寸法	=	アクセントパネル長辺長さ B
		8		



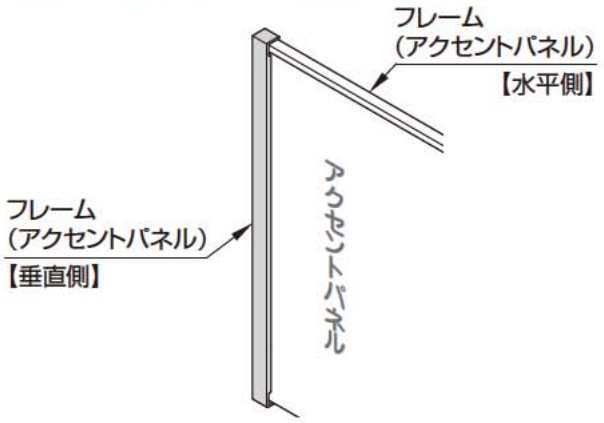
※壁紙の裏打ち紙は可能なかぎりはがしてください。

❻ ❸の長さにあわせてカットする



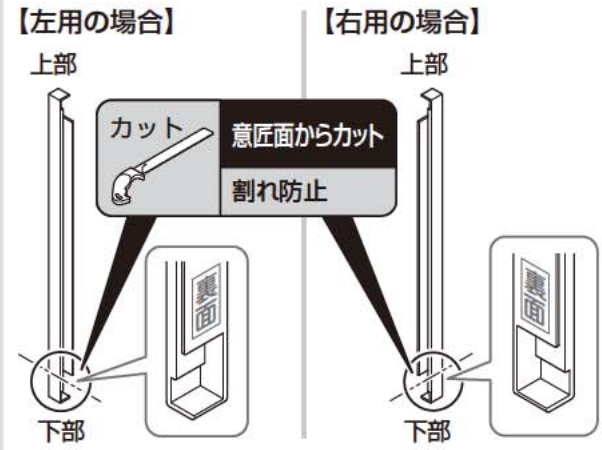


⑨ アクセントパネル短辺に垂直側のフレーム（アクセントパネル）をあわせる



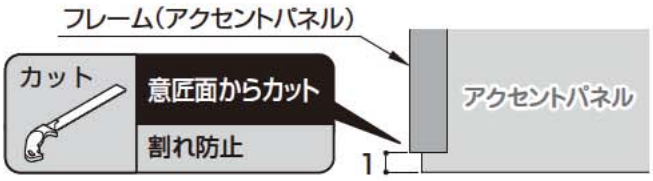
⑩ アクセントパネルをカットする

カット位置



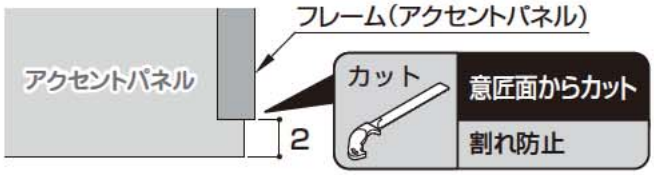
手洗器側

アクセントパネル下端より1mm短くカットする

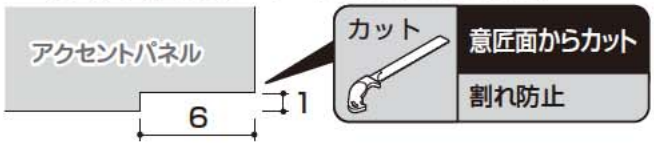


大便器側

① アクセントパネル下辺より2mm短くカットする
（キャップ（上段カウンター）との干渉を防ぐため）

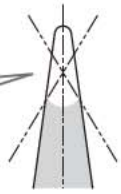


② アクセントパネルを1mm×6mmカットする
（キャップ（上段カウンター）との干渉を防ぐため）



⑪ 接着剤のノズル先端をカットする

ノズル先端を2方向からカットすると、
接着剤の塗布量が一定になる



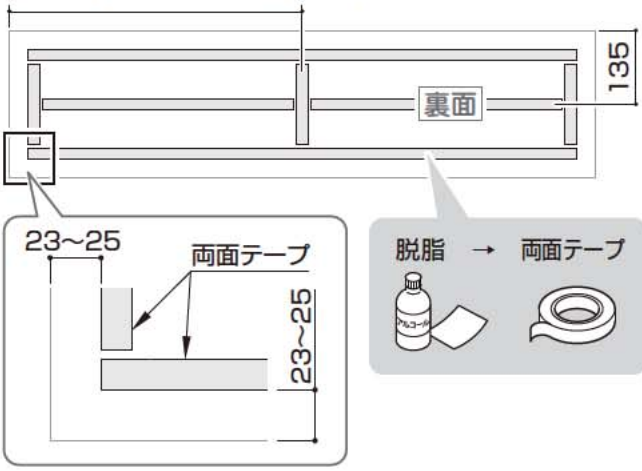
⑫ 両面テープをはり付ける

⚠注意

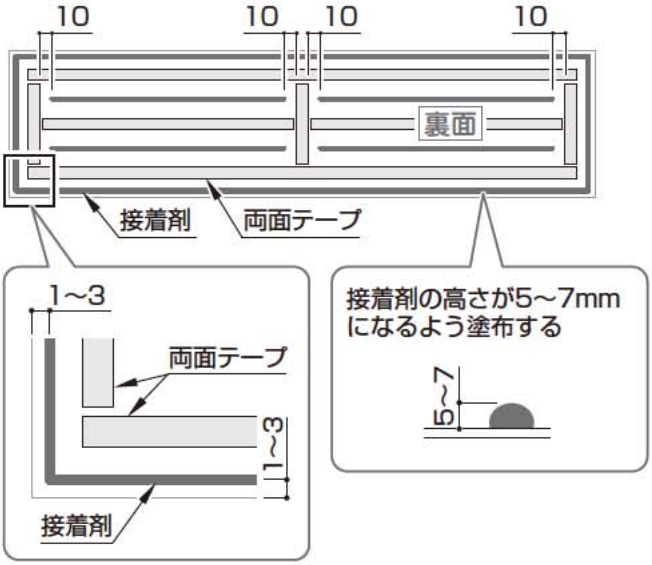
必ず守る

両面テープは重ならないようにはり付ける
両面テープが重なるとアクセントパネルが壁から浮き、外れるおそれがあります。

切断後のアクセントパネル本体の全長÷2



⑬ 接着剤を塗布する



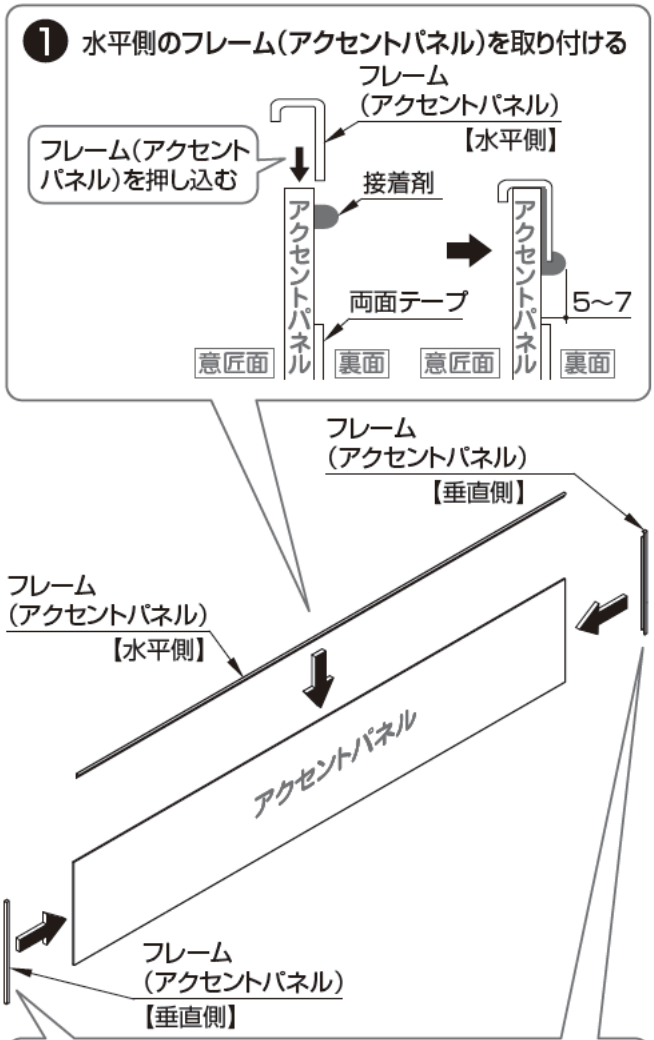
2 フレーム（アクセントパネル）の取り付け

⚠注意

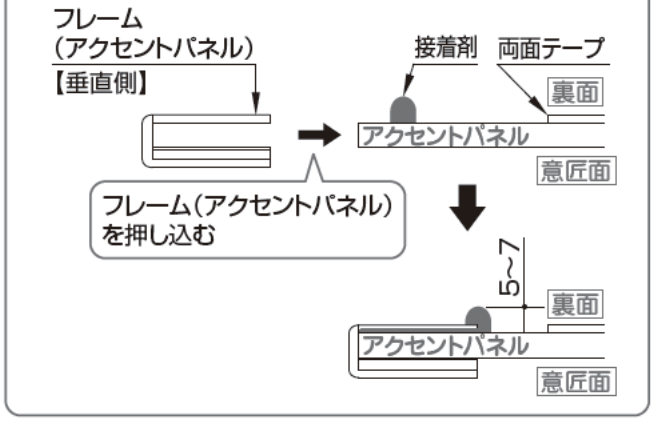
必ず守る

・フレーム（アクセントパネル）の押し込み後、接着剤の高さが５～7mmになっていない箇所は再度接着剤を塗布する
・接着剤が両面テープの上に乗らないようにする
アクセントパネルが壁からはがれるおそれがあります。

❶ 水平側のフレーム（アクセントパネル）を取り付ける



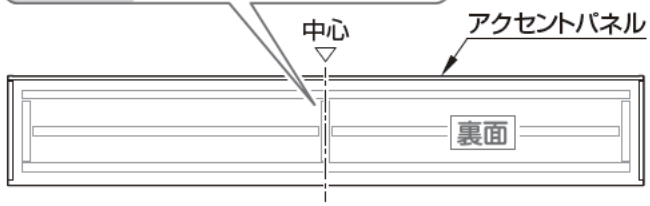
❷ 垂直側のフレーム（アクセントパネル）を取り付ける



3 アクセントパネルの取り付け

けがき

❶ アクセントパネルの中心をけがく



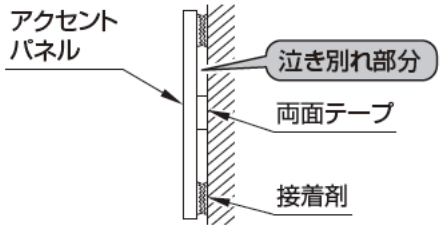
❷ 建築壁面のほこりを除去する

❸ アクセントパネル中心と❶でけがいた線を必ずあわせる

⚠注意

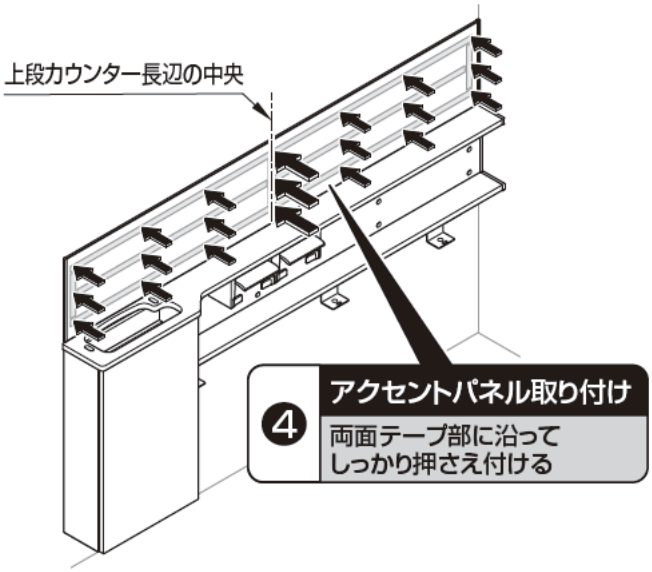
必ず守る

・接着剤部を押さない
接着剤の泣き別れによりアクセントパネルが壁からはがれるおそれがあります。



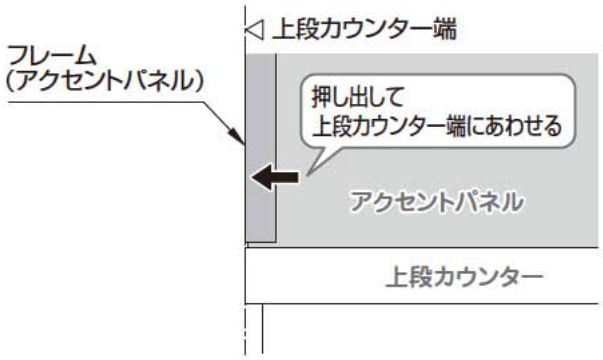
・接着剤塗布後、30分以内にはり付ける
アクセントパネルが壁からはがれるおそれがあります。

片側あわせしない
垂直側のフレーム（アクセントパネル）の両側（右側左側）で調整代が確保できず、垂直側のフレーム（アクセントパネル）と壁にすき間ができる、または、垂直側のフレーム（アクセントパネル）と上段カウンター端がそろわないおそれがあります。



❺ アクセントパネル意匠面の保護フィルムをはがす

❻ 垂直側のフレーム（アクセントパネル）を調整する



❼ フレーム（アクセントパネル）からはみ出した接着剤があればふき取る

MEMO

6. 手洗器・水栓金具

使用部材 ※包装内に一部使用しない部材（■）がある場合のみ表記しています。

手洗器

カウンターセット

取付材セット（排水ソケット）

排水ソケットセット

- 排水ソケット（1個）
- パッキン（排水口）（1個）
- 袋ナット（1個）
- パッキン（排水口）（1個）

フレキホース

◆水栓金具

◆付属材セット（手洗器）

【共通】

- クリップナット（2個）
- ばね座金 M6（2個）
- 寸切ボルト（2本）
  ベッセルタイプの場合:M6×65
  ハイバックタイプの場合:M6×40
- ローレットナット M6（2個）
- 平座金 M6（4個）
- クッション材（1個）

【ベッセルタイプ（丸形/角形）】

- アングル（2個）
- 十字穴付トラスタッピンねじ 4×12（4本）
- 十字穴付トラスタッピンねじ 4×50（4本）

【ハイバックタイプ】

- 取付材（2個）
- アングル（2個）
- 十字穴付トラスタッピンねじ 4×12（2本）
- 十字穴付トラスタッピンねじ 4×50（4本）

◆施工説明書・取扱説明書セット

施工説明書

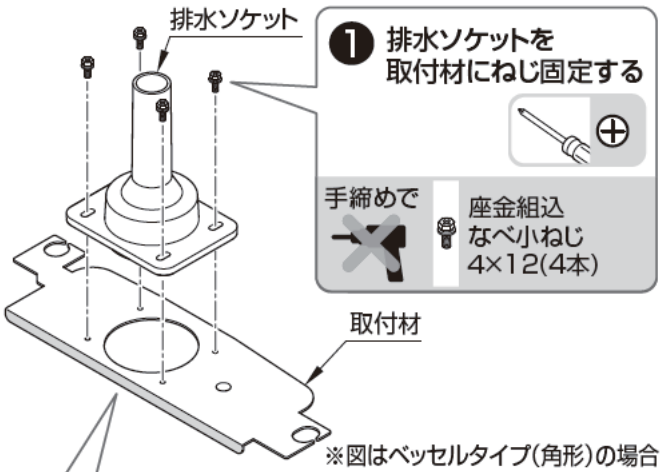
- 施工説明書（1冊）
- ちらし（1枚）
- 型紙 ※ハイバックタイプの場合:1枚
- クッション材（1枚）
- ラベル（1枚）

1 排水ソケットの組み付け

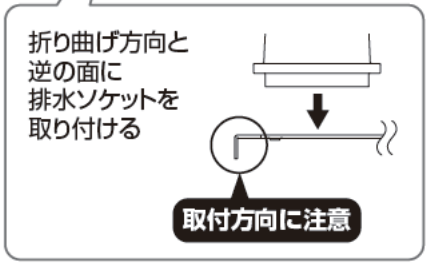
⚠注意

必ず守る

取付後、排水ソケットと取付材の間にすき間がないことを確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害の発生の原因になります。



※図はベッセルタイプ（角形）の場合



2 クッション材のはり付け

❶ はり付け面の汚れ・ホコリなど十分にふき取る

❷ クッション材のセパレータをはがしながら、下記の位置にクッション材をはり付ける

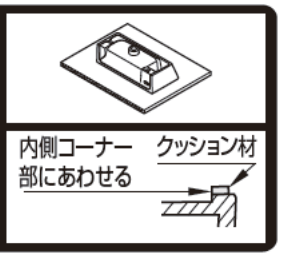
⚠警告

必ず守る

クッション材のはり付けは確実に行う
水などが浸入してコンセントにかかり、火災や感電の原因となります。

・手洗器上面を下側にする際は、ダンボールなどを敷く
手洗器に傷が付かないようにしてください。

・手洗器の内側コーナー部にあわせてはり付ける
設置後にクッション材がはみ出すことがあります。



ベッセルタイプ（丸形）の場合

ベッセルタイプ（角形）の場合

ハイバックタイプの場合

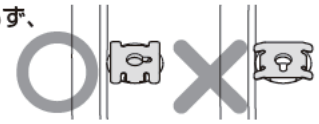
手洗器の取り付けの際に実施（▶P.72）

3 手洗器の組み立て

❶ クリップナットを取り付ける

平らな面に取り付ける

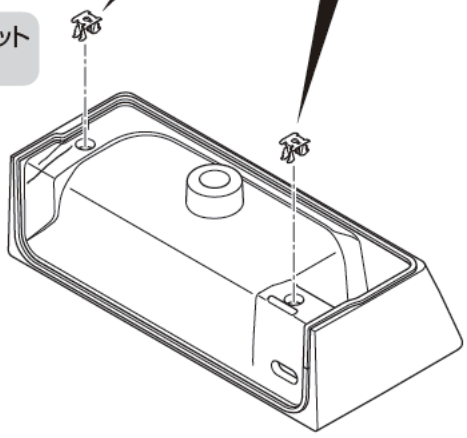
クリップナットが奥まで入らず、手洗器に勘合しません。



陶器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む

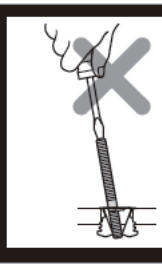
寸切ボルトが途中までしか入らず、手洗器が固定できません。

クリップナット（2個）

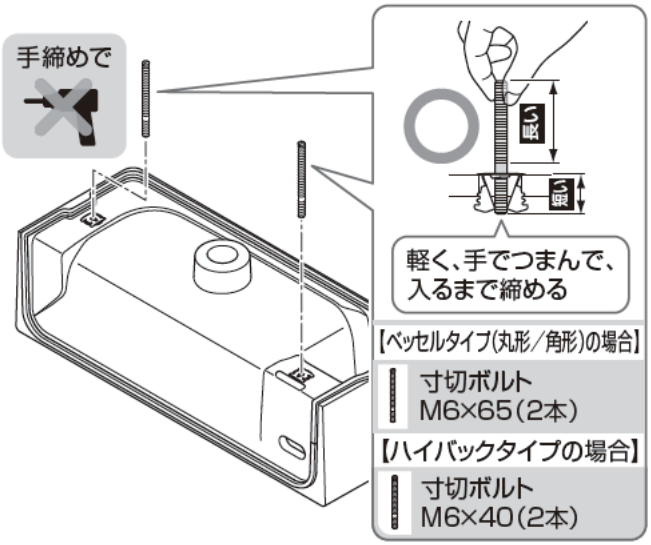


❷ 寸切ボルトをクリップナットに取り付ける

- **寸切ボルトをドライバーで深く締めない**
  寸切ボルトが斜めに入り、陶器が上段カウンターにおさまらないことがあります。
- **斜めに入ったねじを無理に真っすぐにしない**
  陶器やクリップナットが破損・変形するおそれがあります。



手締めで



軽く、手でつまんで、入るまで締める

【ベッセルタイプ（丸形／角形）の場合】
寸切ボルト M6×65（2本）

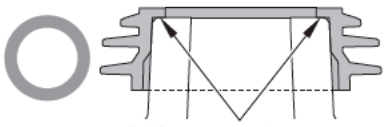
【ハイバックタイプの場合】
寸切ボルト M6×40（2本）

4 パッキン（排水口）の取り付け

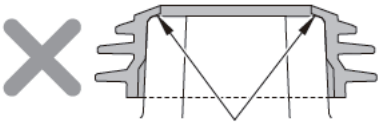
❶ パッキン（排水口）を排水口に取り付ける

⚠注意

禁止	**パッキン（排水口）にグリスを使用しない** 劣化し水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
必ず守る	**パッキン（排水口）は手洗器排水口に密着するまで押し込む** 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



密着するまで押し込む

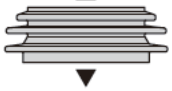


差し込みすぎ

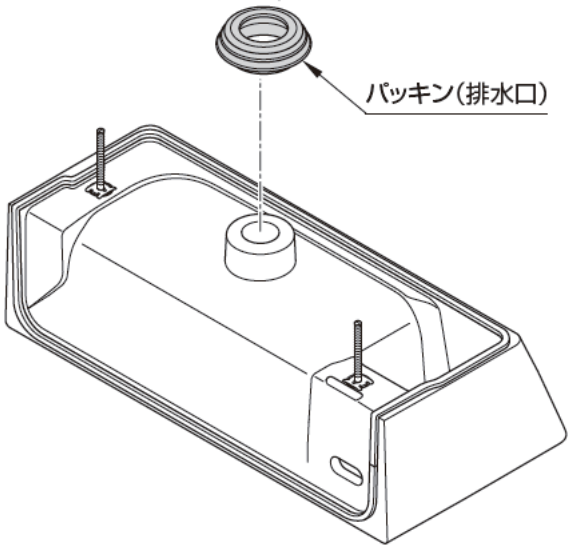
手洗器排水口外周の汚れを取り除き、装着する

取付方向に注意

排水ソケット側



手洗器排水口装着側



※手洗器により手順が異なります

ベッセルタイプ（丸形）の場合	▶P.70
ベッセルタイプ（角形）の場合	▶P.71
ハイバックタイプの場合	▶P.72

ベッセルタイプ（丸形）の場合

5 手洗器の取り付け

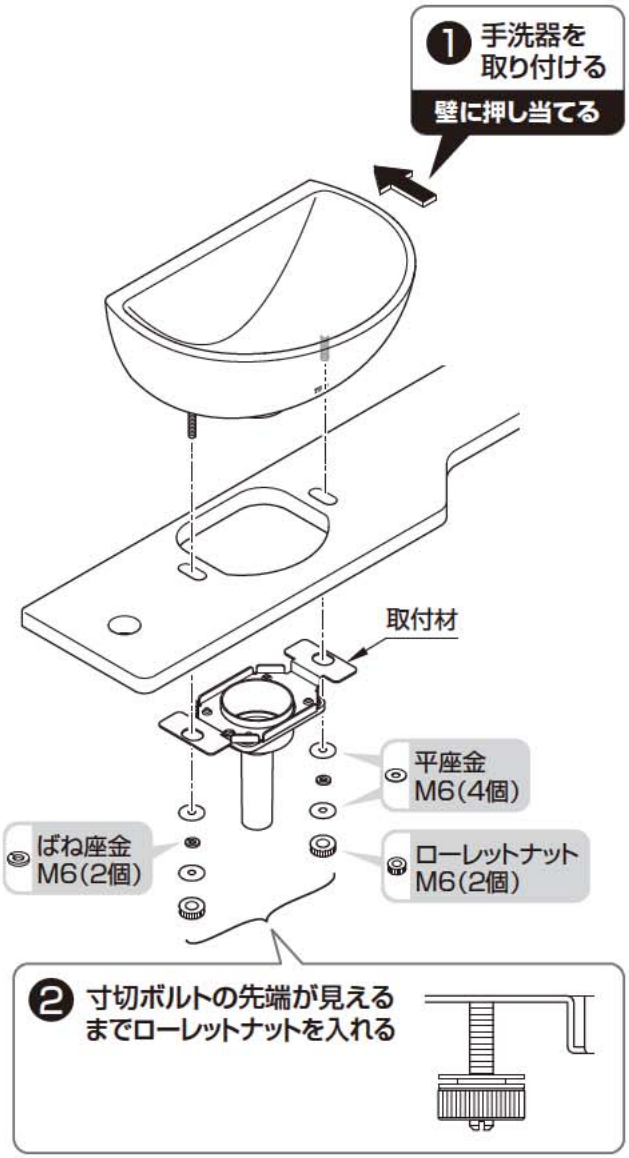
バックパネル（オプション）の取り付けは、手洗器固定前に行う

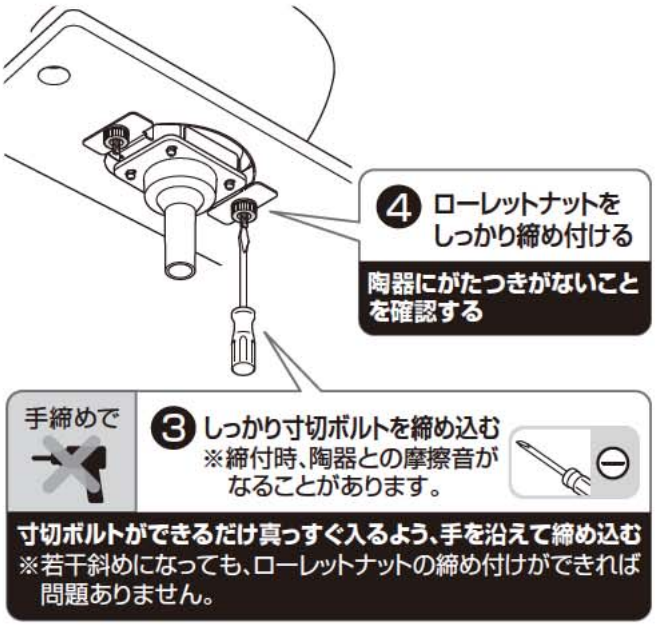
参照 バックパネルの施工説明書

⚠注意

必ず守る

パッキン（排水口）がセットされていることを確認する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



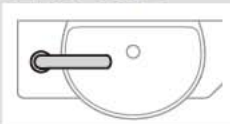


6 水栓金具の取り付け

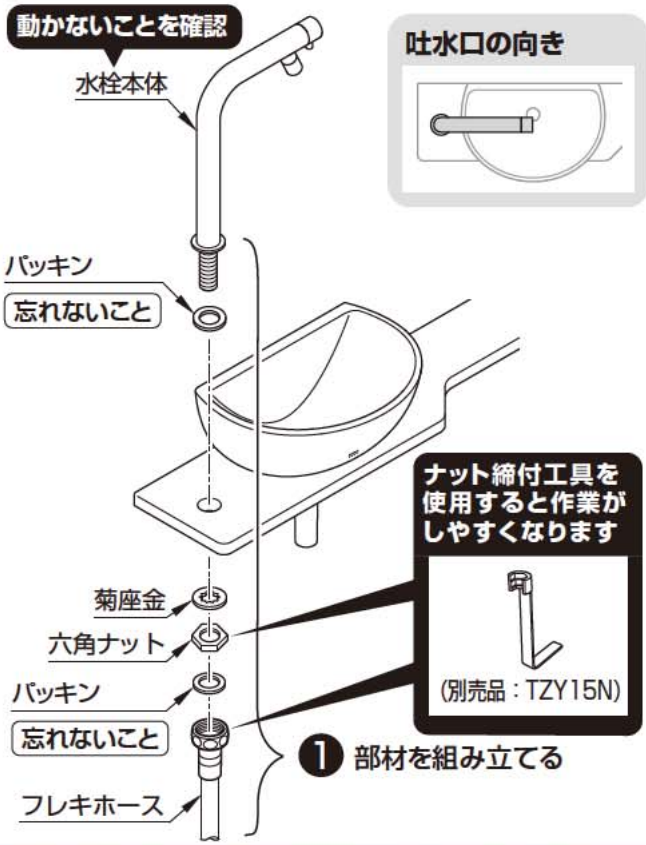
自動水栓の場合

参照 自動水栓の施工説明書

吐水口の向き



ハンドル式水栓の場合



7.フレキホース・コントローラ・電気温水器・・・P.73 へ

ベッセルタイプ（角形）の場合

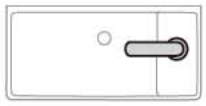
P.69 4 パッキン（排水口）の取り付け のつづき

5 水栓金具の取り付け

自動水栓の場合

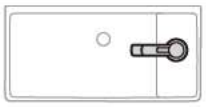
参照 自動水栓の施工説明書

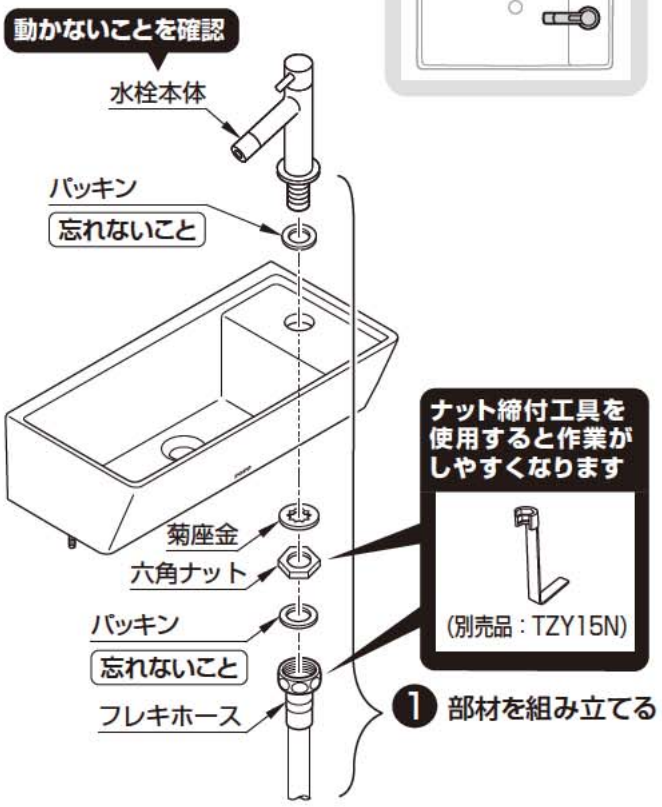
吐水口の向き



ハンドル式水栓の場合

吐水口の向き





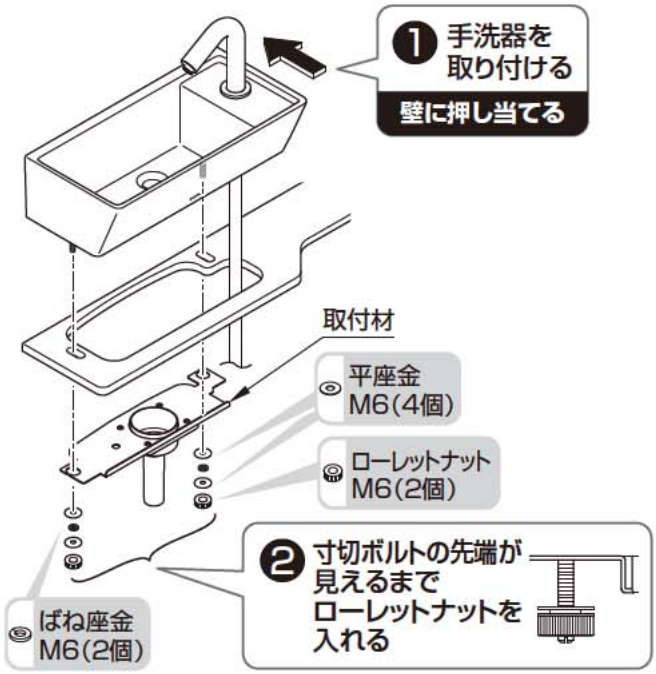
6 手洗器の取り付け

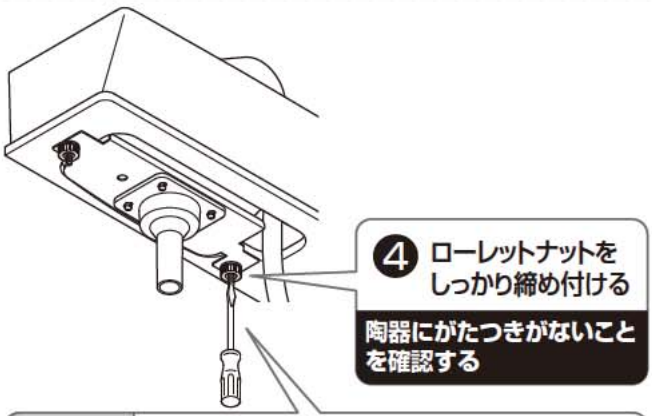
バックパネル（オプション）の取り付けは、手洗器固定後に行う

参照 バックパネルの施工説明書

⚠注意

禁止	水栓部分を持たない 給水金具が破損して水漏れし、財産損害発生の原因となります。
必ず守る	パッキン（排水口）がセットされていることを確認する 水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。





手締めで

❸ しっかり寸切ボルトを締め込む
※締付時、陶器との摩擦音がなることがあります。

寸切ボルトができるだけ真っすぐ入るよう、手を沿えて締め込む
※若干斜めになっても、ローレットナットの締め付けができれば問題ありません。

7.フレキホース・コントローラ・電気温水器･･･P.73 へ

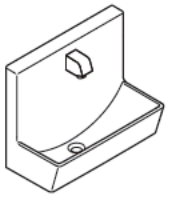
ハイバックタイプの場合

P.69 4 パッキン（排水口）の取り付け のつづき

5 水栓金具の取り付け

自動水栓の場合

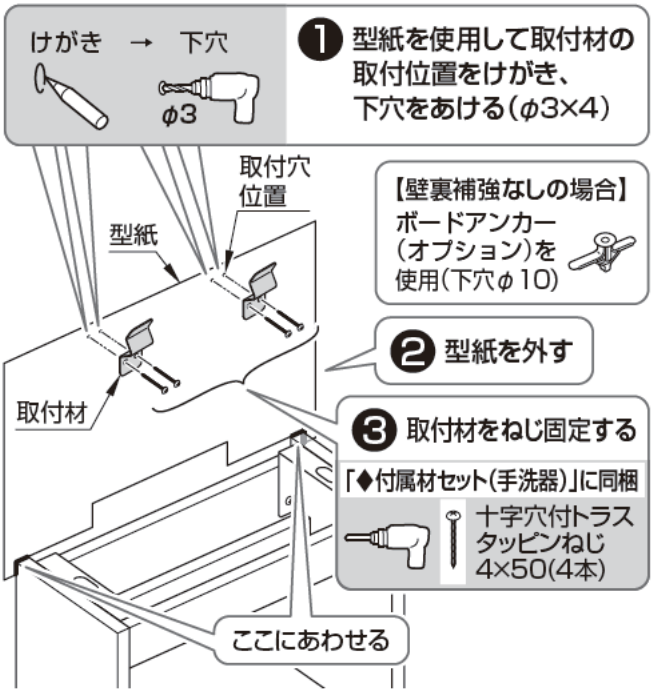
あらかじめ手洗器にセットされています。



ハンドル式水栓の場合

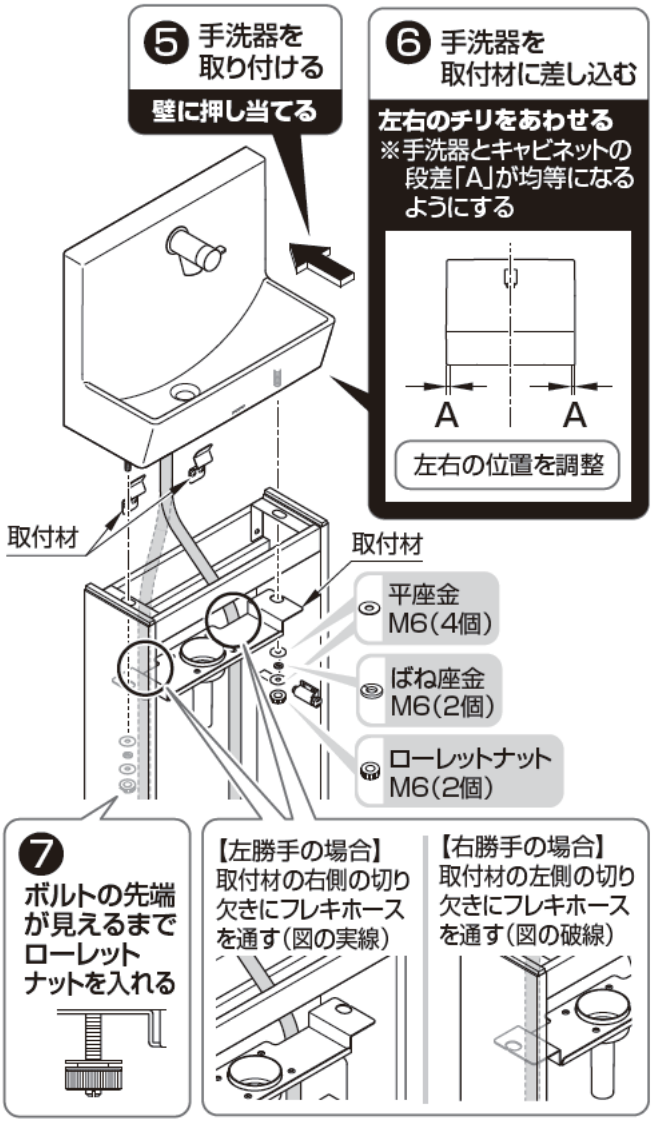
参照 ハンドル式水栓の施工説明書

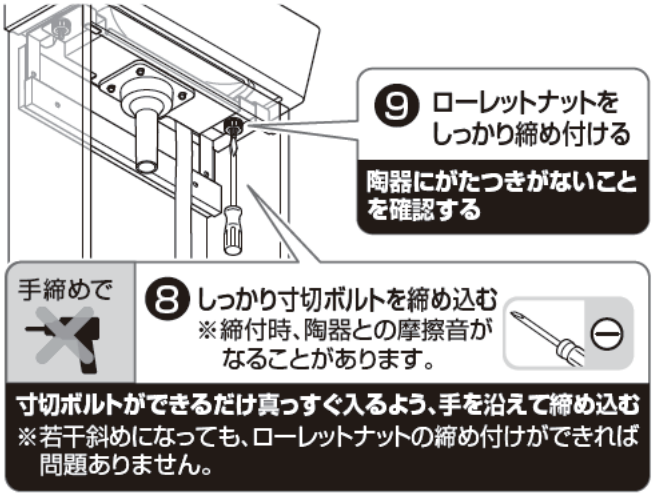
6 手洗器の取り付け



⚠注意

禁止	**水栓部分を持たない** 給水金具が破損して水漏れし、財産損害発生の原因となります。
必ず守る	**パッキン（排水口）がセットされていることを確認する** 水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



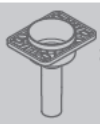


7. フレキホース・コントローラ・電気温水器

使用部材 ※包装内に一部使用しない部材(■)がある場合のみ表記しています。

カウンターセット

排水ソケットセット



排水ソケット（1個）　パッキン（排水口）（1個）

袋ナット（1個）　パッキン（排水口）（1個）

排水管組品（1本）

トラスタッピンねじ 4×12(2本)

ホースクランプ(大)(2個)

結束バンド（2個）

◆自動水栓※自動水栓の場合

◆配管用カバー

【付属材セット】

支持アングル（2個）

取付材（1個）

結束バンド（3個）

ホースクランプ(大)（1個）

ホースクランプ(小)（2個）

取付材（1個）

皿タッピンねじ 4×16(1本)

トラスタッピンねじ 4×40(7本)

ボードアンカー（2個）

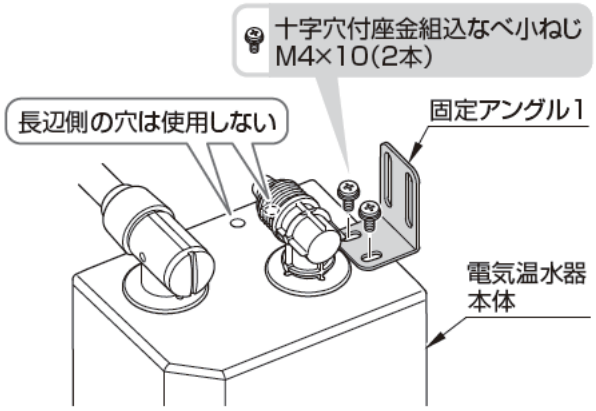
ボードアンカー（5個）

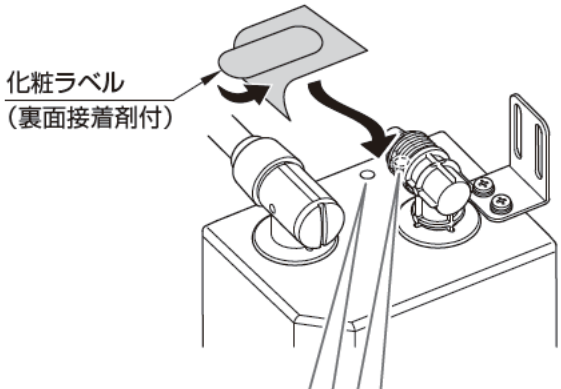
配管カバー（1個）

電気温水器セット※電気温水器付の場合

1 電気温水器の取り付け ※電気温水器設置の場合のみ

❶ 電気温水器に固定アングル1を取り付ける

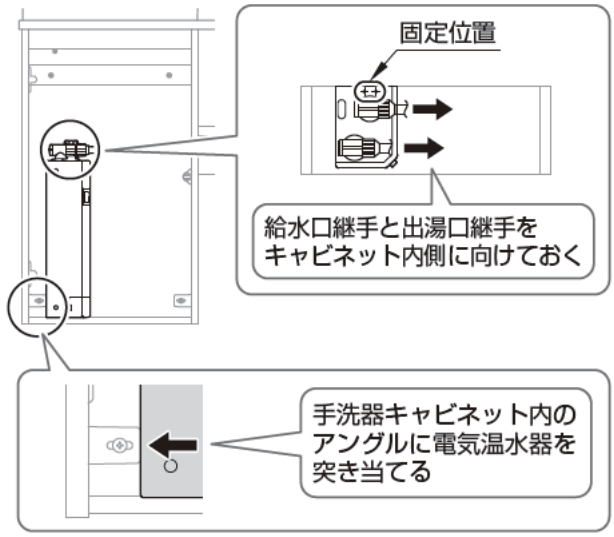




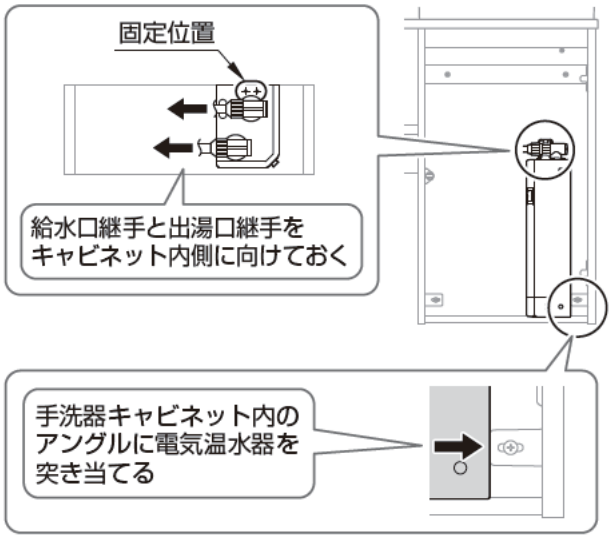
❷ 固定アングル1を取り付けない穴に化粧ラベルをはりふさぐ

❸ 電気温水器を設置する

左勝手の場合



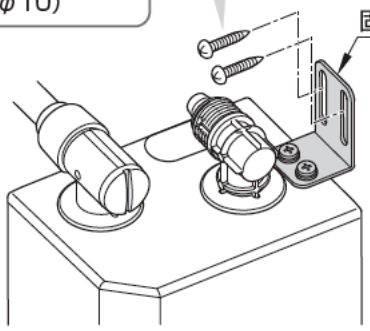
右勝手の場合



❹ 電気温水器を壁に固定する

【壁裏補強なしの場合】
ボードアンカー（オプション）を使用（下穴φ10）

十字穴付なべタッピンねじ 4×30（2本）



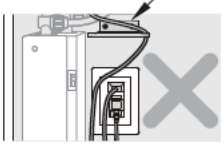
❺ コンセントプレートカバーを取り付ける

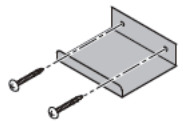
⚠警告

電源コード・アース線は、キャビネットと電気温水器との間や、扉に挟まない
コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

禁止

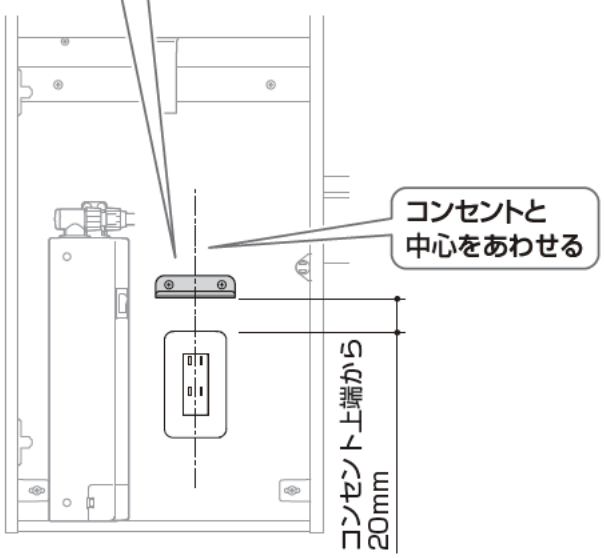
電源コードはコンセントプレートカバーの上を通さない
結露水がコードを伝わりコンセントにかかり、火災や感電のおそれがあります。





トラスタッピンねじ 4×30（2本）

【壁裏補強なしの場合】
ボードアンカー（オプション）を使用（下穴φ10）



2 ドラムトラップの取り付け

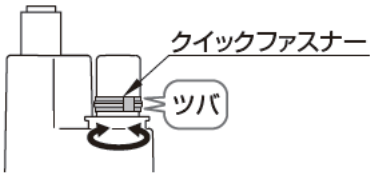
❶ ドラムトラップと排水管組品を接続する

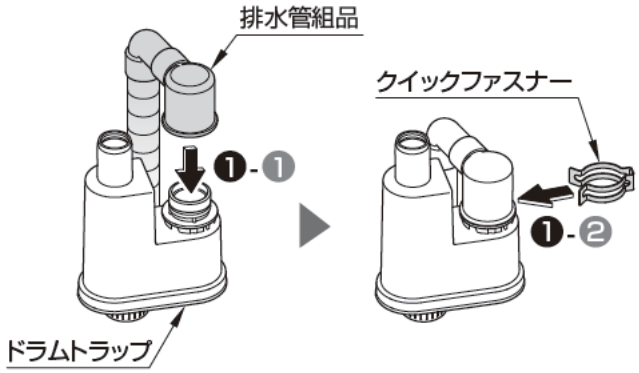
⚠注意

必ず守る

- クイックファスナーが正しく固定されていることを確認する
- 全周にツバがかかっていることを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

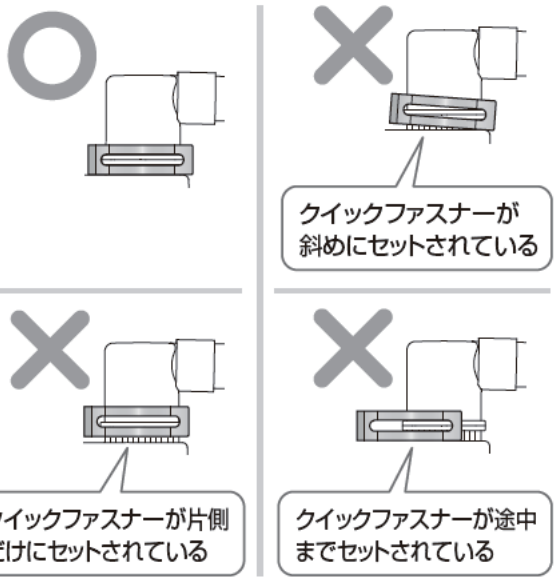




クイックファスナーの取り付けかた

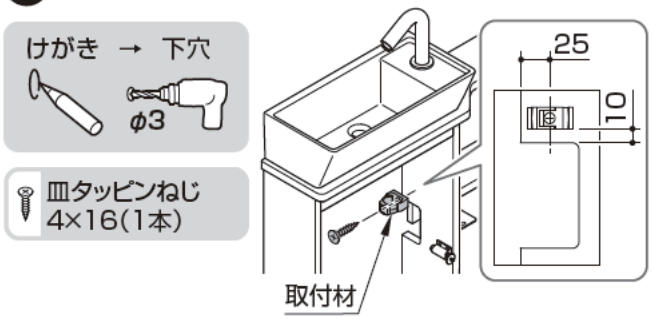
クイックファスナーを正しくセットする
排水管組品が抜けて水漏れのおそれがあります。

①クイックファスナーが正しくセットされているか確認してください。



②排水管組品を強く引っ張って抜けないことを確認してください。

❷ キャビネット内に取付材を取り付ける

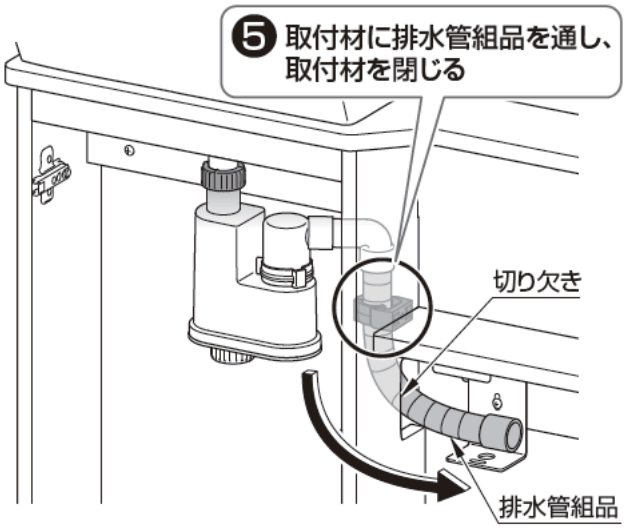


❸ ドラムトラップを排水ソケットに接続する

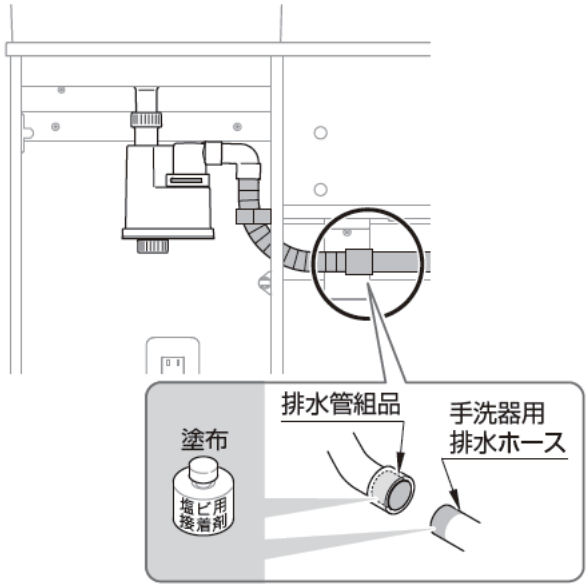
各部の袋ナットは手で確実に締める
※手で軽く抵抗があるところまで回し、さらに90度以上締め付けるのが目安です。

❹ 排水管組品をキャビネットの切り欠きに通す

❺ 取付材に排水管組品を通し、取付材を閉じる



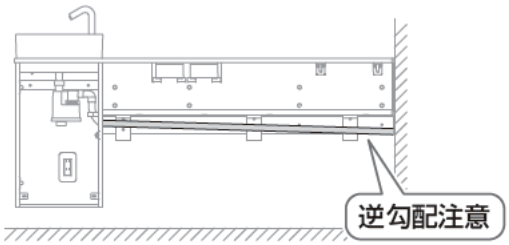
❻ 手洗器用排水ホースを接続する

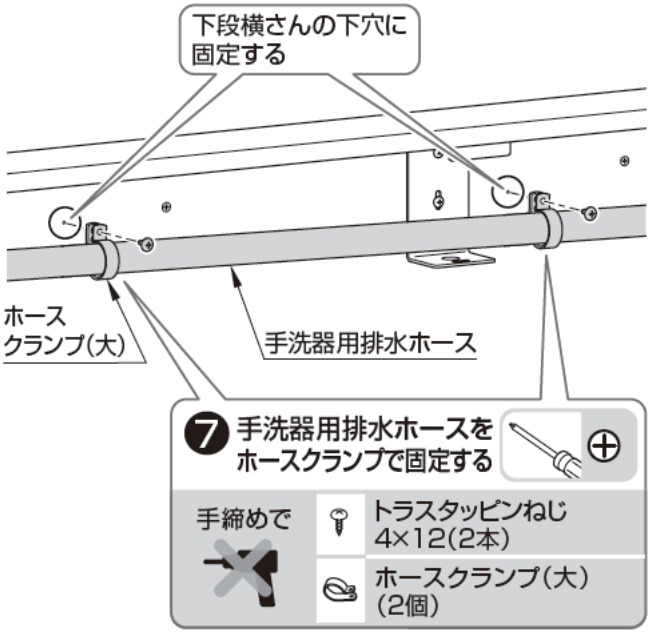


⚠注意

手洗器用排水ホースが逆勾配にならないように、必ず下段横さんの下穴に固定する
手洗器から異音発生のおそれがあります。

必ず守る





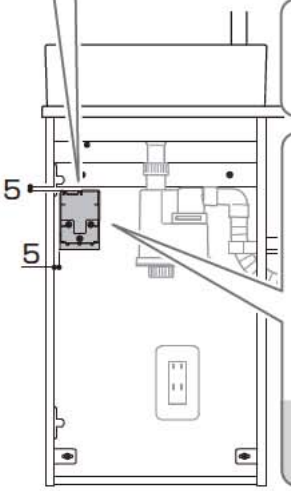
3 コントローラ・機能部の取り付け

左勝手の場合

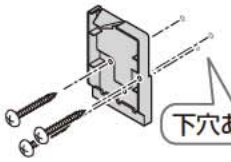
設置壁にけがき → 下穴 φ3

❶ コントローラー固定材の取付位置をけがき、下穴をあける（φ3×3）

【壁裏補強なしの場合】
ボードアンカー（オプション）を使用（下穴φ10）



❷ コントローラー固定材をねじ固定する

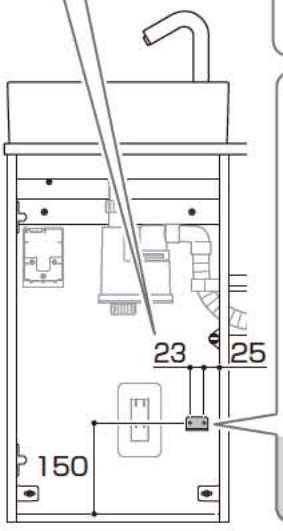


トラスタッピンねじ 4×30（3本）

設置壁にけがき → 下穴 φ3

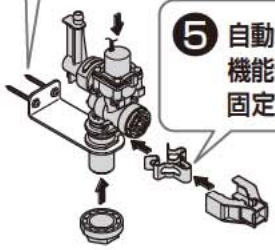
❸ 取付金具の取付位置をけがき、下穴をあける（φ3×2）

【壁裏補強なしの場合】
ボードアンカー（オプション）を使用（下穴φ10）



❹ 取付金具を固定する

❺ 自動水栓機能部を固定する



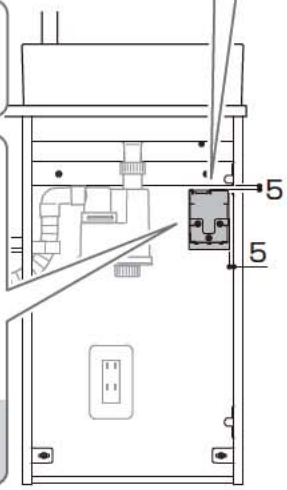
座付タッピンねじ 4.5×38（2本）

右勝手の場合

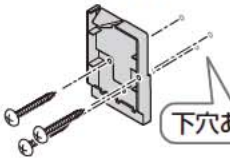
設置壁にけがき → 下穴 φ3

❶ コントローラー固定材の取付位置をけがき、下穴をあける（φ3×3）

【壁裏補強なしの場合】
ボードアンカー（オプション）を使用（下穴φ10）



❷ コントローラー固定材をねじ固定する

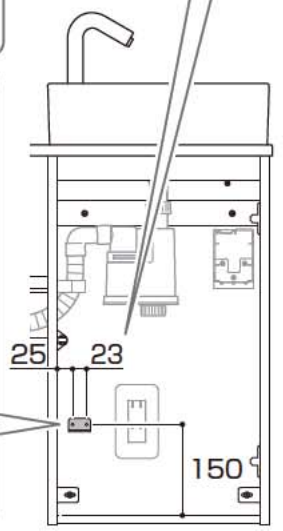


トラスタッピンねじ 4×30（3本）

設置壁にけがき → 下穴 φ3

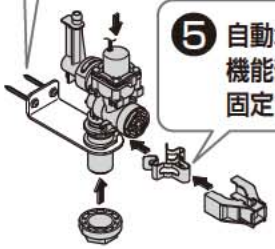
❸ 取付金具の取付位置をけがき、下穴をあける（φ3×2）

【壁裏補強なしの場合】
ボードアンカー（オプション）を使用（下穴φ10）



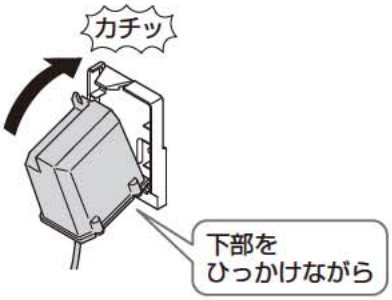
❹ 取付金具を固定する

❺ 自動水栓機能部を固定する



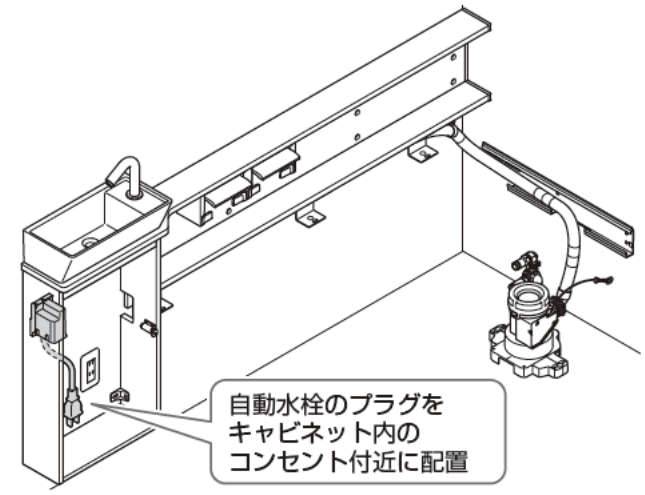
座付タッピンねじ 4.5×38（2本）

❻ コントローラーにコネクターを取り付ける

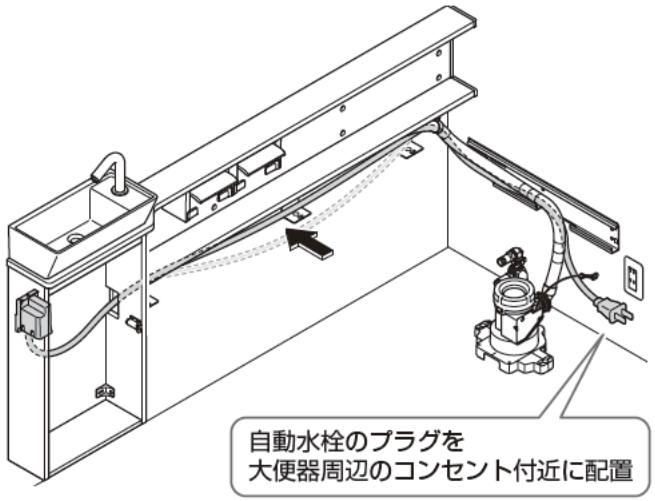


❼ 電源コードの配置 ※自動水栓の場合のみ

電気温水器ありの場合



電気温水器なしの場合



4 ホースの取り付け

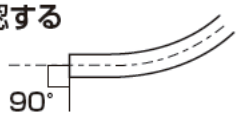
❶ ホースを取り付ける

⚠注意

必ず守る

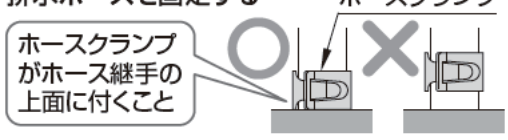
- スパウト連結ホースは、切断面が垂直になるようにカットする
- スパウト連結ホース接続後、確実に固定されていることを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



必ず守る

- ホースクランプは所定の位置にくるようにする
- 必ずホースクランプでスパウト連結ホース、排水ホースを固定する



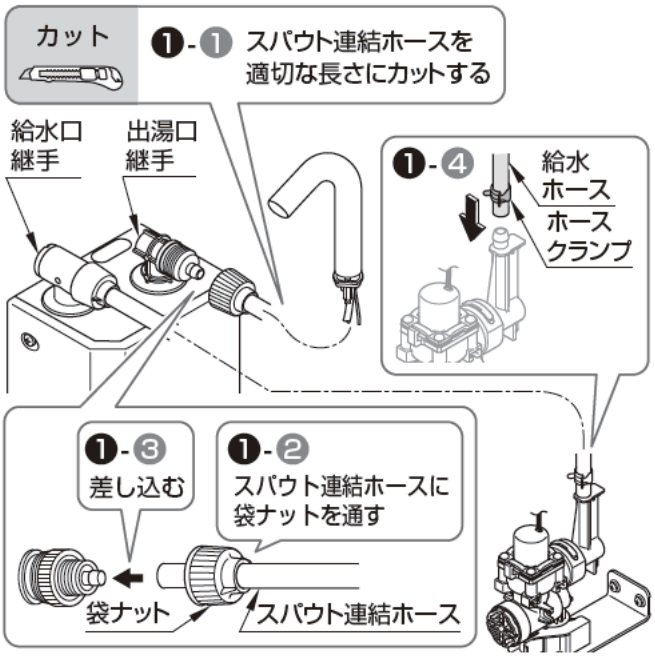
自動水栓(電気温水器あり)の場合

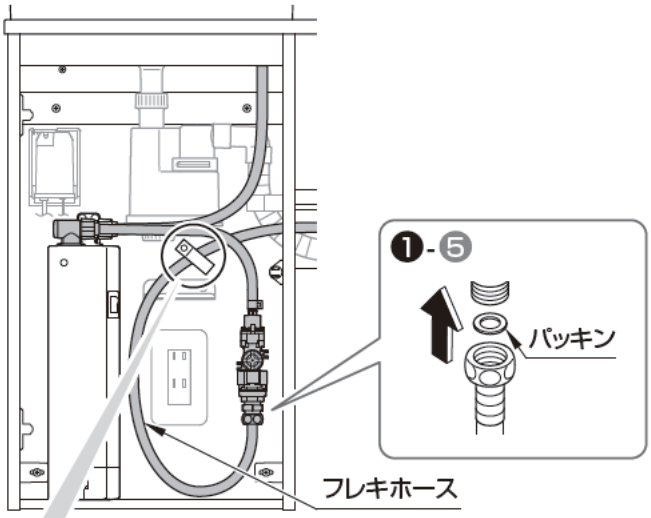
⚠注意

必ず守る

- スパウト連結ホースが確実に差し込まれているか確認する
- スパウト連結ホースが折れ曲がらないよう注意する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。





❶-❻

【壁裏補強ありの場合】 けがき → 下穴 φ3

【壁裏補強なしの場合】 けがき → 下穴 φ6 → ボードアンカー

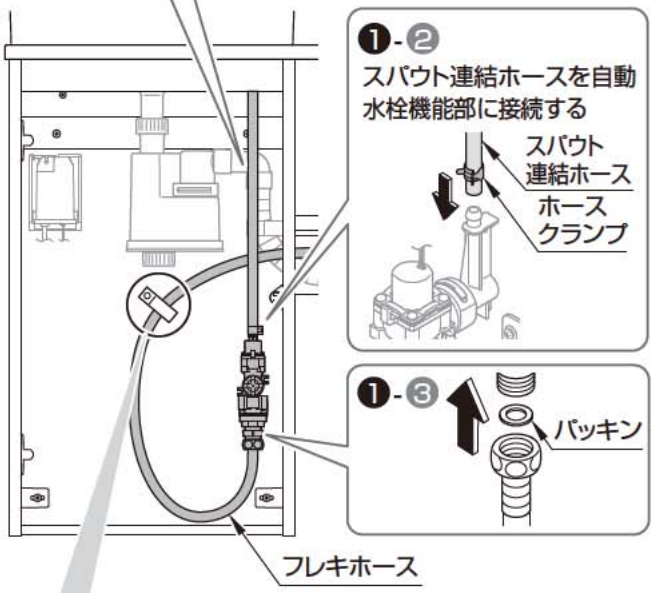
トラスタッピンねじ 4×40(1本)

「♦配管用カバー」に同梱 ホースクランプ(小)(1個)

自動水栓（電気温水器なし）の場合

カット

❶-① スパウト連結ホースを適切な長さにカットする



❶-④

【壁裏補強ありの場合】
けがき → 下穴
φ3

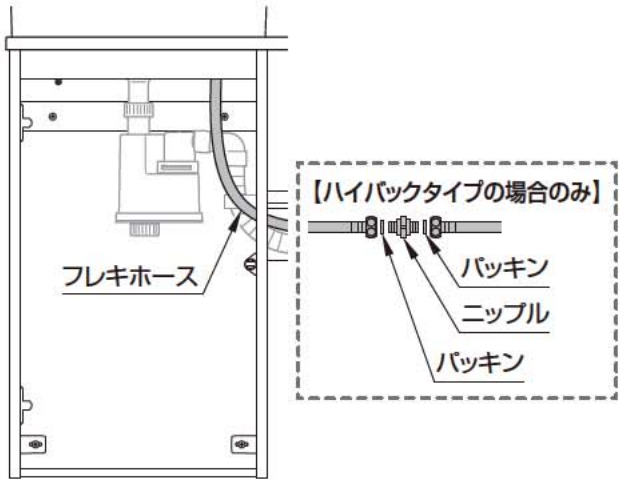
【壁裏補強なしの場合】
けがき → 下穴 → ボードアンカー
φ6

トラスタッピンねじ 4×40（1本）

「◆配管用カバー」に同梱
ホースクランプ（小）（1個）

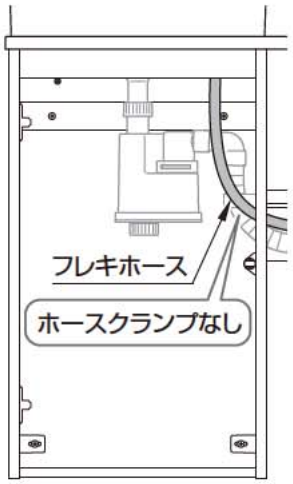
ハンドル式水栓の場合

【ベッセルタイプ（丸形）/ハイバックタイプの場合】

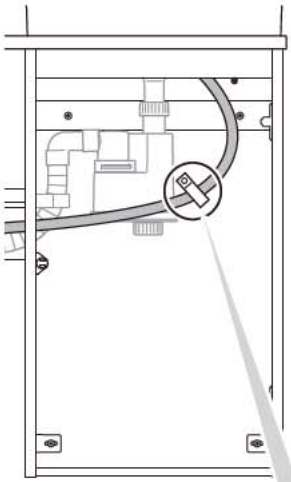


【ベッセルタイプ（角形）の場合】

左勝手



右勝手



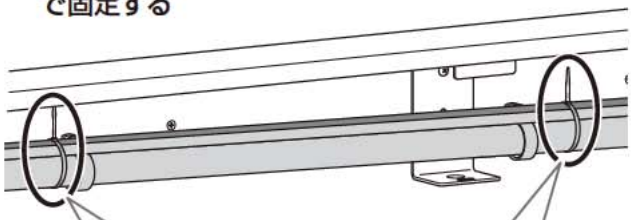
【壁裏補強ありの場合】
けがき → 下穴
φ3

【壁裏補強なしの場合】
けがき → 下穴 → ボードアンカー
φ6

トラスタッピンねじ 4×40（1本）

「◆配管用カバー」に同梱
ホースクランプ（小）（1個）

❷ フレキホースと手洗器用排水ホースを結束バンドで固定する



フレキホースを手洗器用排水ホースの上に載せ結束バンドで固定する
※自動水栓の電源コードがある場合は手洗器用排水ホースの上に載せる

❸ フレキホースを大便器裏に取り回し、分岐金具に接続する

・フレキホースを必要以上の力で曲げて折らないように注意する
フレキホースの最小曲げ半径は60mmです。それよりも小さく曲げて使用すると、フレキホースが折れ、十分な流量が出ない場合や破損・水漏れのおそれがあります。
・フレキホースを無理に引っ張らない
フレキホースが折れる可能性があります。

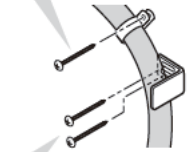
❸-❶ 指定の位置に支持アングルを取り付ける

「◆配管用カバー」に同梱
ホースクランプ(小)
(1個)

トラスタッピンねじ
4×40(1本)

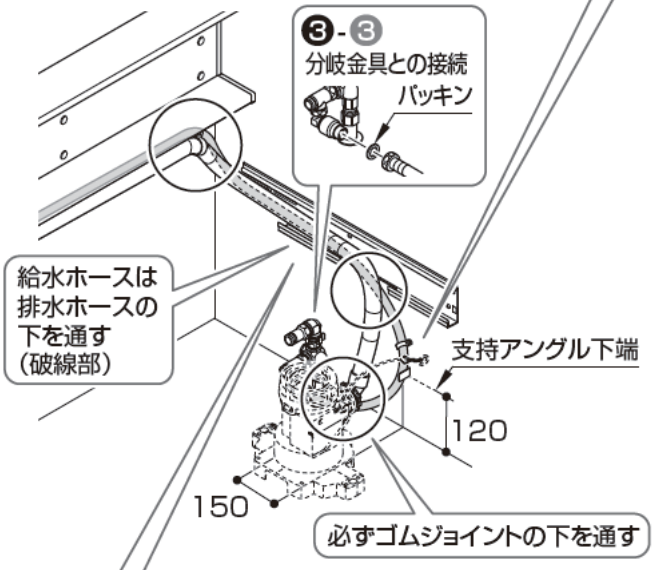
【壁裏補強ありの場合】
けがき → 下穴 φ3

【壁裏補強なしの場合】
けがき → 下穴 → ボードアンカー φ10



「◆配管用カバー」に同梱
トラス
タッピンねじ
4×40(2本)

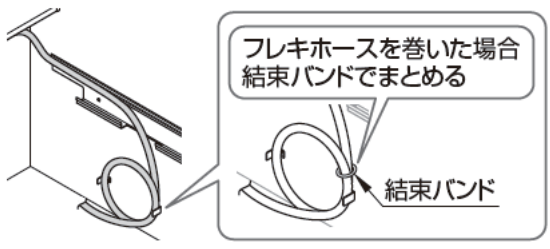
【壁裏補強なしの場合】
けがき → 下穴 → ボードアンカー φ6



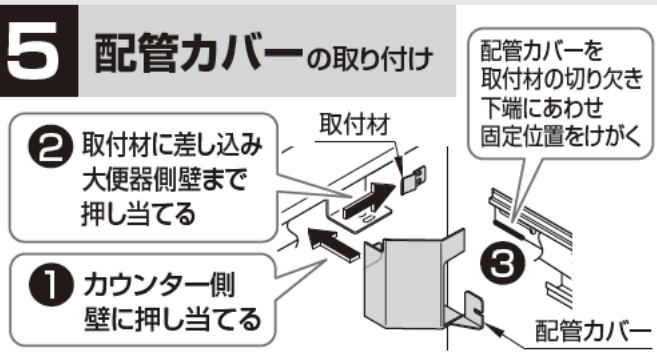
❸-❷ 給水ホースを支持アングルの内側で取り回す

※範囲をこえると給水ホースが大便器の外に出ます。

【フレキホースが長い場合】
支持アングルを大便器を挟んで反対側にも ❸-❶ 同様に取り付け、フレキホースを大便器裏で1周させる



5 配管カバーの取り付け

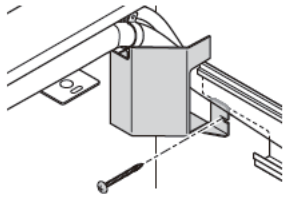


❹ ねじ固定する

【壁裏補強ありの場合】
けがき → 下穴 φ3

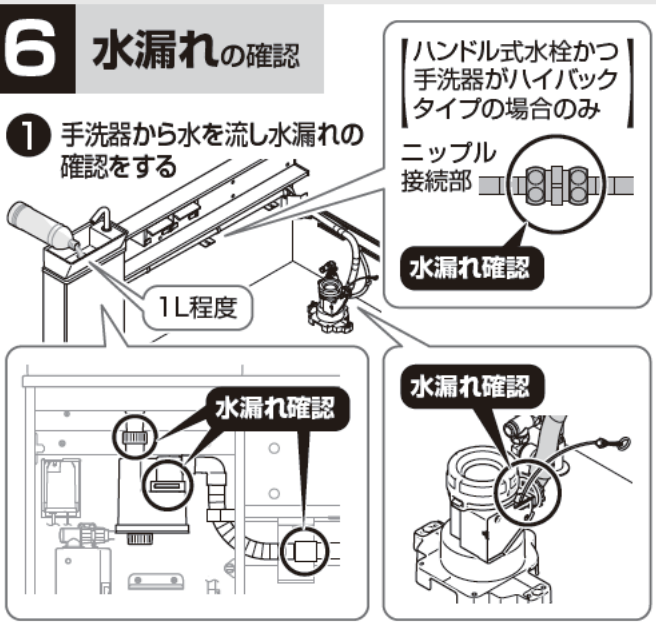
【壁裏補強なしの場合】
けがき → 下穴 → ボードアンカー φ10

「◆配管用カバー」に同梱
トラスタッピンねじ
4×40 (1本)

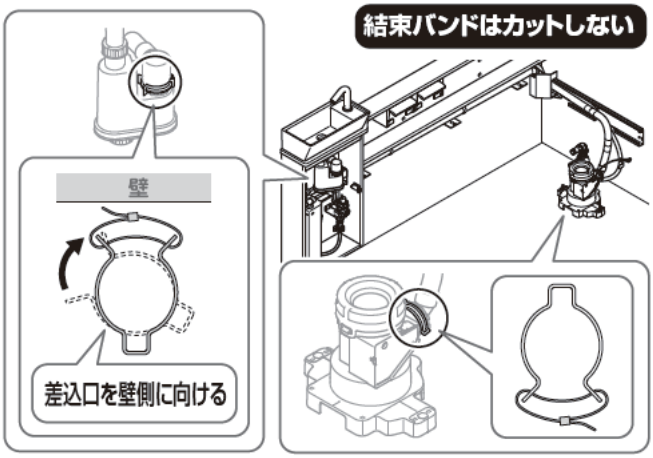


6 水漏れの確認

❶ 手洗器から水を流し水漏れの確認をする



❷ クイックファスナー接続部に結束バンドを取り付ける

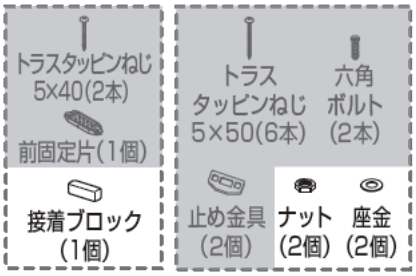


8. 大便器

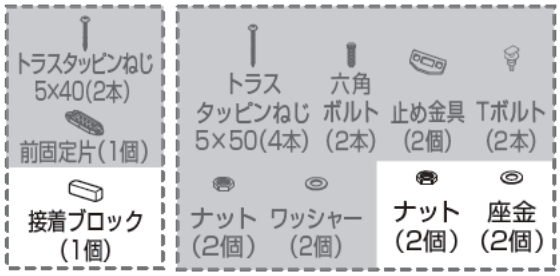
使用部材 ※包装内に一部使用しない部材（■）がある場合のみ表記しています。

◆排水ソケットセット

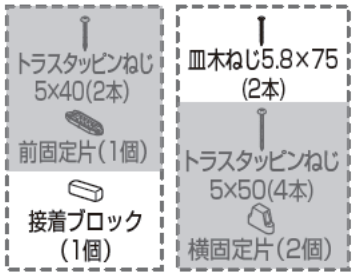
【AS/RSタイプ 床排水200mm/リモデル200mm】

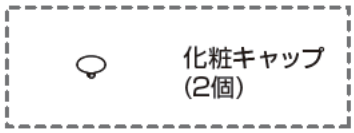


【AS/RSタイプ 床排水リモデル320～540mm】



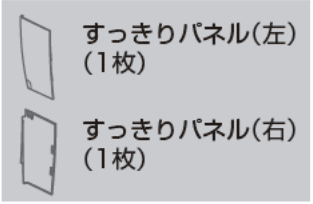
【LSタイプ】





大便器

【AS/RSタイプ】



【LSタイプ】

※大便器・ウォシュレットタイプにより手順が異なります

AS/RSタイプの場合	▶P.80
LSタイプの場合	▶P.82

AS/RSタイプの場合

1 水ためリング（白）の取り付け

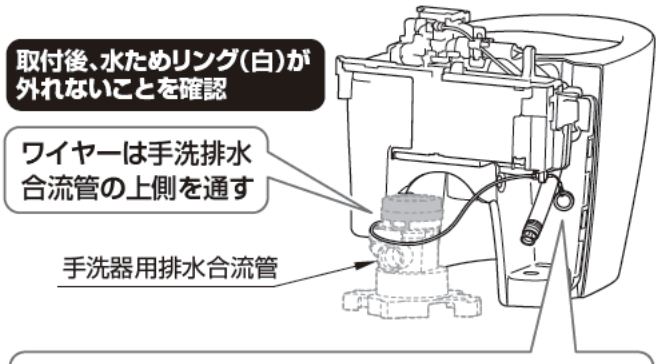
⚠注意

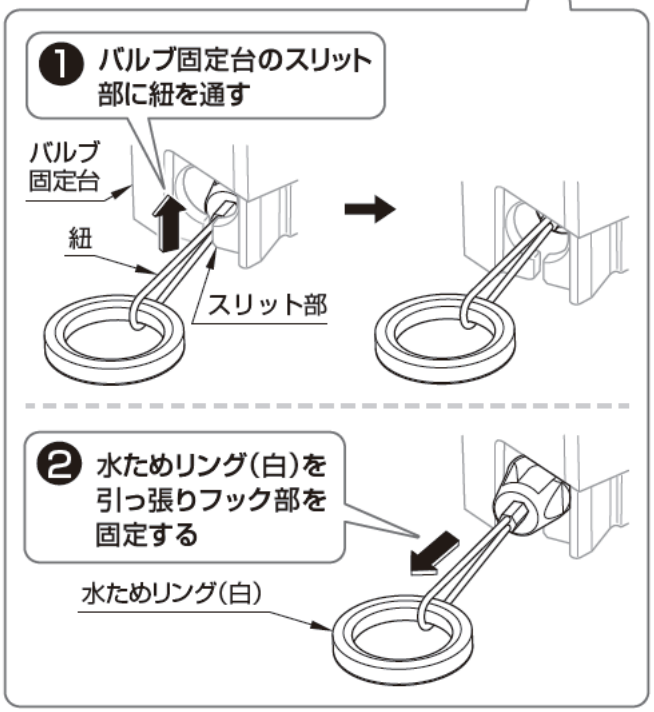
必ず守る

水ためリング（白）を必ず取り付ける
取り付けないと、停電時に大便器洗浄できなくなります。

施工時は給水リングにさわらない
停電時に使用する洗浄用のリングです。
試運転時、大便器に水が流れ続ける原因となります。

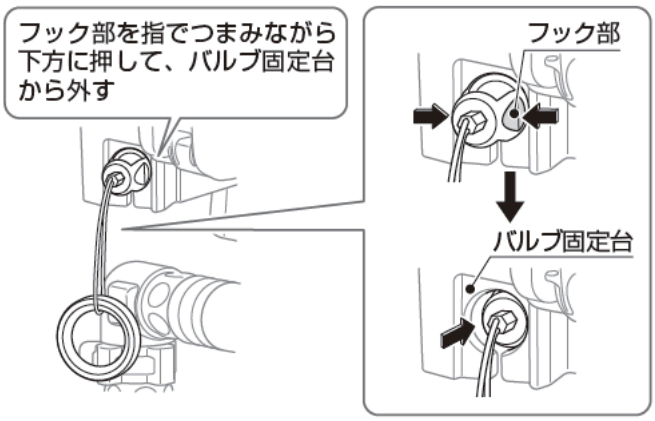
取付後、水ためリング（白）が外れないことを確認





水ためリング（白）を取り外す場合

フック部を指でつまみながら下方に押して、バルブ固定台から外す



2 大便器の固定

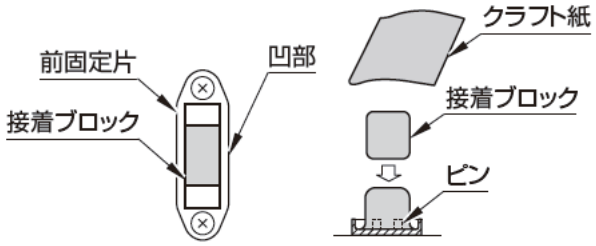
❶ 接着ブロックをセットする

※【施工直後にやり直す場合】
形状を図のように整える

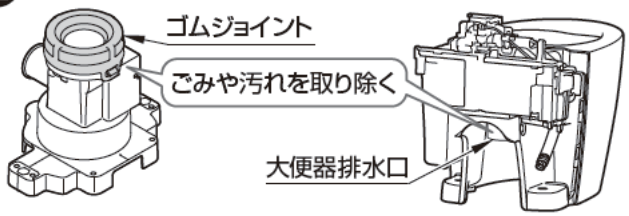
※接着ブロックの方向性は特になし

※【接着ブロックがかたくなった場合】
気温が下がるとかたくなる場合があるため、20~30℃のぬるま湯の中に、包装袋ごと入れて柔らかくして使用する

※詳細は、接着ブロックに付属の注意書を参照

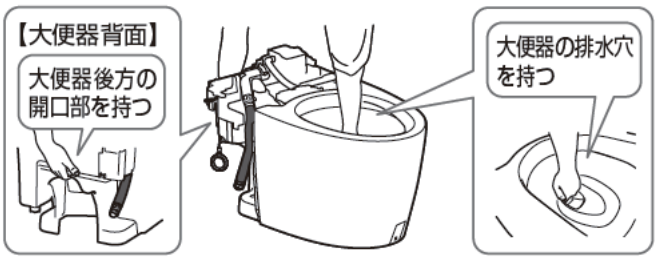


❷ 大便器排水口、排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れ除去



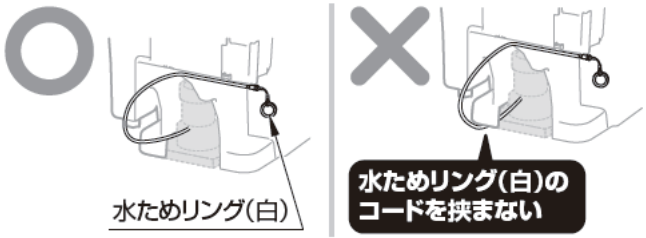
❸ 大便器を持つ

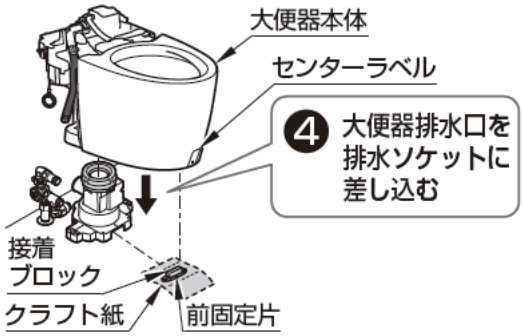
機能部を持たないこと
破損するおそれがあります。



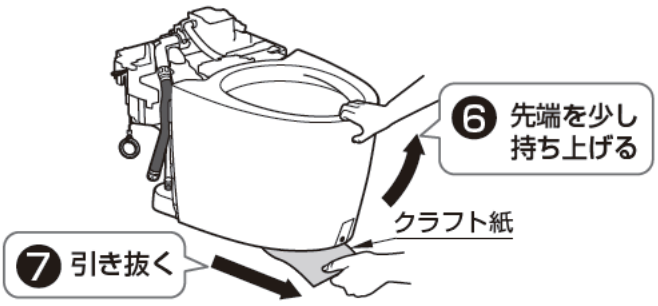
水ためリング（白）の取り回しかた

水ためリング（白）のコードを引っ張ったり、大便器に挟まない



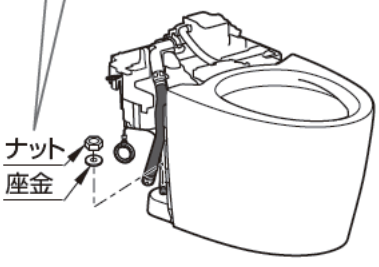


❺ センターラベルを基準に大便器の位置を微調整

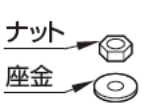


手締めで

❿ 大便器の取付穴（2カ所）を固定する



- **ナットを確実に締める**
  締め過ぎて大便器を割らないように注意してください。
- **最後の締め増しは、手締めにより行い、大便器を割らないように注意すること**



LSタイプの場合

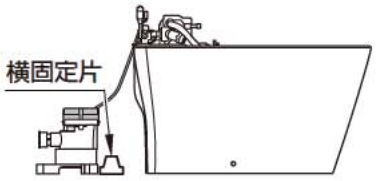
1 水ためリング（白）の取り付け

⚠注意

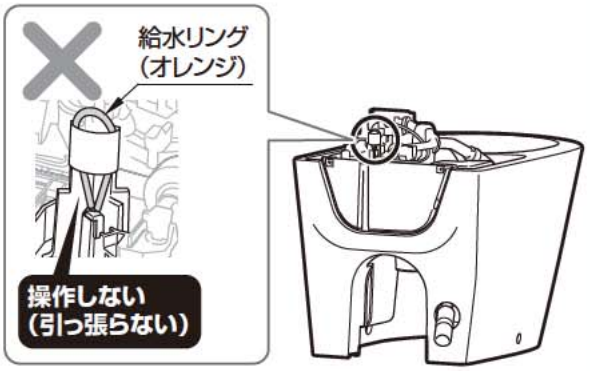
必ず守る

水ためリング（白）を必ず取り付ける
取り付けないと、停電時に大便器洗浄できなくなります。

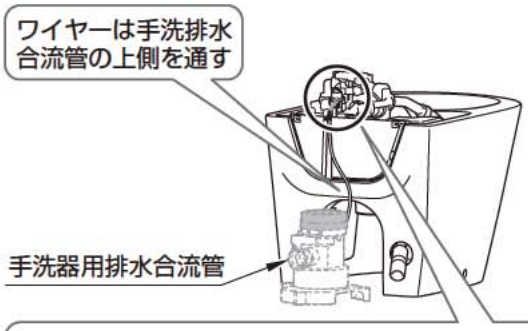
横固定片を基準に陶器を仮置きし、水ためリングを固定する

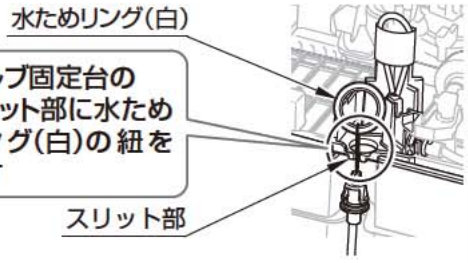


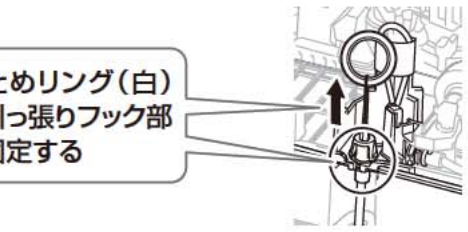
施工時は給水リングにさわらない
停電時に使用する洗浄用のリングです。
試運転時、大便器に水が流れ続ける原因となります。

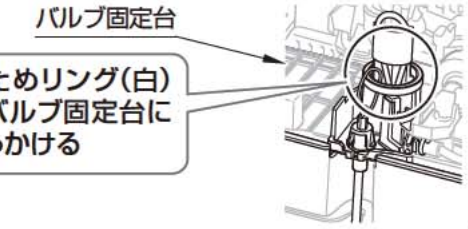


給水リング（オレンジ）を止まる位置まで引くことで、
大便器に水を「流す」と「止める」を切り替えています。

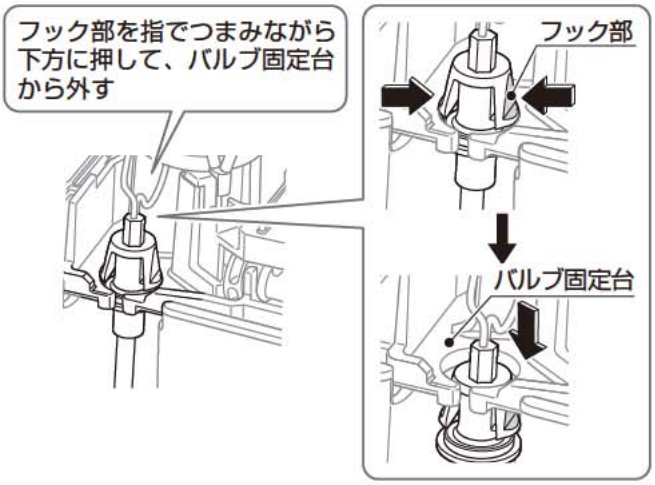








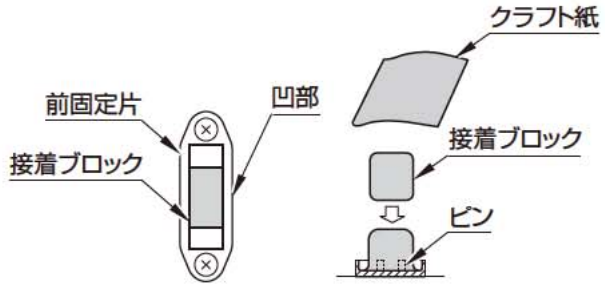
水ためリング（白）を取り外す場合



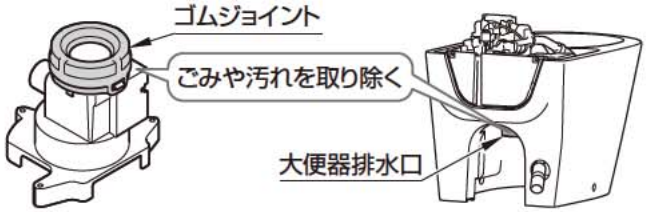
2 大便器の固定

❶ 接着ブロックをセットする

※【施工直後にやり直す場合】
形状を図のように整える
※接着ブロックの方向性は特になし
※【接着ブロックがかたくなった場合】
気温が下がるとかたくなる場合があるため、20~30℃のぬるま湯の中に、包装袋ごと入れて柔らかくして使用する
※詳細は、接着ブロックに付属の注意書を参照

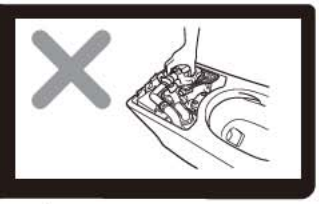


❷ 大便器排水口、排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れ除去



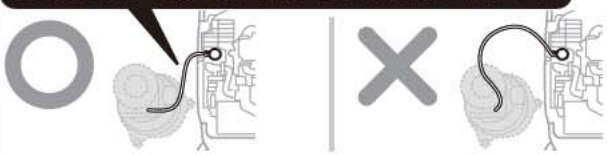
❸ 大便器を持つ

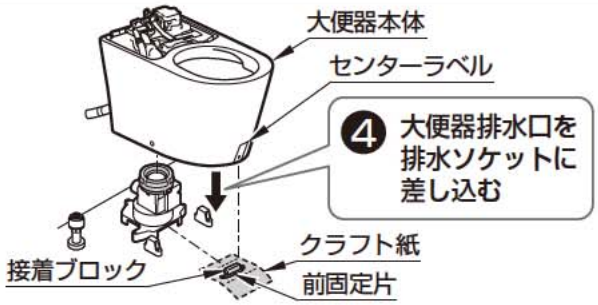
機能部を持たないこと
破損するおそれがあります。



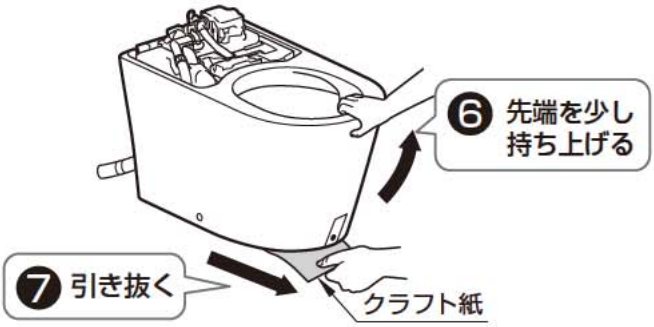
水ためリング(白)の取り回しかた

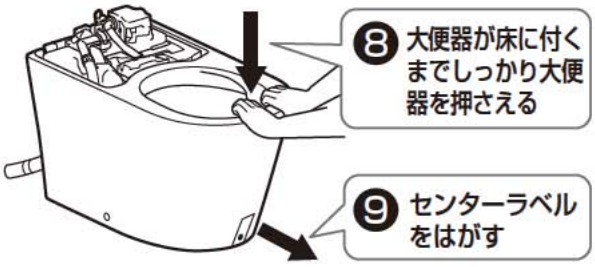
水ためリング(白)を引っ張ったり、大便器に挟まない





❺ センターラベルを基準に大便器の位置を微調整



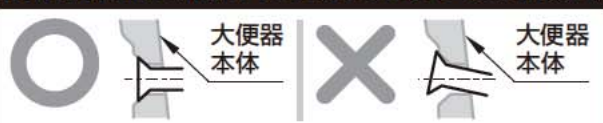


手締めで

❿ 大便器の取付穴(2カ所)をねじで固定し、化粧キャップを取り付ける

ねじを確実に締める
締め過ぎて大便器を割らないように注意してください。

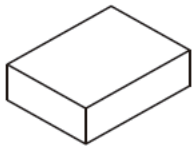
ねじは床面と平行に締める
斜めに締め込むと、化粧キャップが浮き上がってしまいます。



9. ウォシュレット

使用部材

ウォシュレット



（1箱）

1 ウォシュレットの設置

大便器の接続はウォシュレット施工時に接続します。
【LS大便器の場合】
・給水ホースが折れないように止水栓の角度を調節してください。
・ネオレスト手洗器付は試運転後の止水栓カバーはありません。

参照 ウォシュレットの施工説明書

【アクセントパネルを選択している場合】
リモコン取り付けの下穴はP.88を参照のこと

MEMO

10.確認・仕上げ

3 手洗器キャビネット扉の調整 については下記URL内の「扉の調整」をご覧ください。
【URL】https://jp.toto.com/support/repair/solution_t/08_02.htm

使用部材

※包装内に一部使用しない部材(■)がある場合のみ表記しています。

カウンターセット

幕板

- 取付材(4個)
- アングル(7個)
- 座金組込化粧ねじ 4×12(3本)
- トラスタッピンねじ 4×10(22本)

◆配管用カバー

- キャップ(1個)
- カバー(配管)(1個)

◆紙巻器

【メタル製】

- 紙巻器本体(1個)
- なべタッピンねじ 4×40(4本)

大便器

【AS/RSタイプ】

- 大便器本体(1台)
- すっきりパネル(左)(1枚)
- すっきりパネル(右)(1枚)

選択商品

手すり

◆施工説明書・取扱説明書セット

施工説明書

- クッション材(1枚)

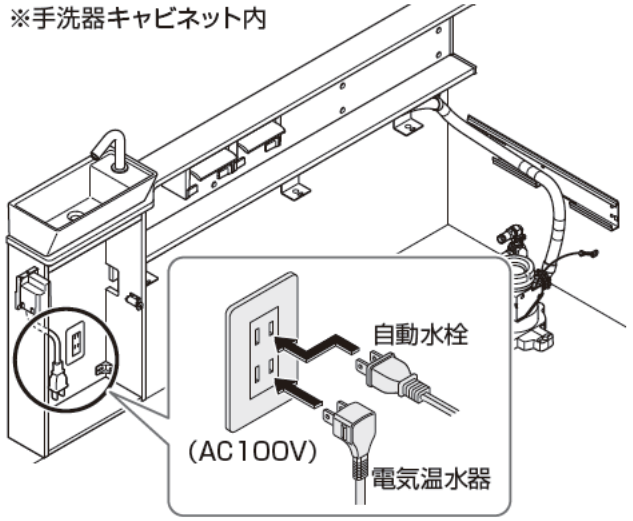
1 電源プラグの接続

※ハンドル水栓の場合は「2 通水・水漏れの確認」へ

下図を参考に電源プラグを根本まで確実に差し込んでください。

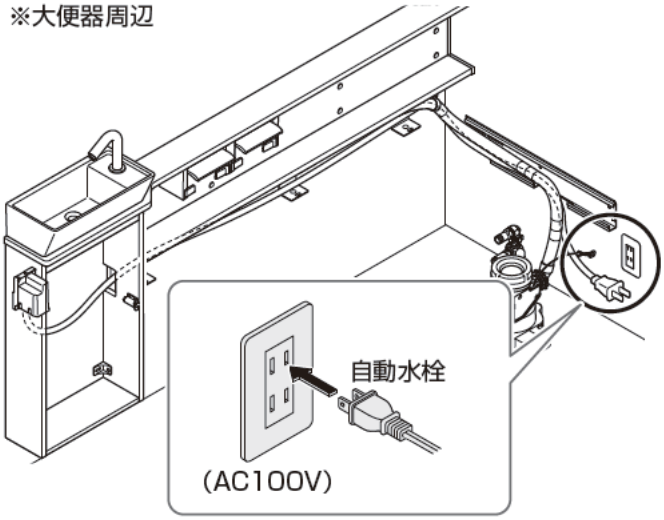
電気温水器ありの場合

※手洗器キャビネット内



電気温水器なしの場合

※大便器周辺



2 通水・水漏れの確認

❶ ウォシュレットの施工説明書に従い、吐水確認(試運転)を行う

【確認のポイント】

□給水接続部・ニップル接続部からの水漏れがないか

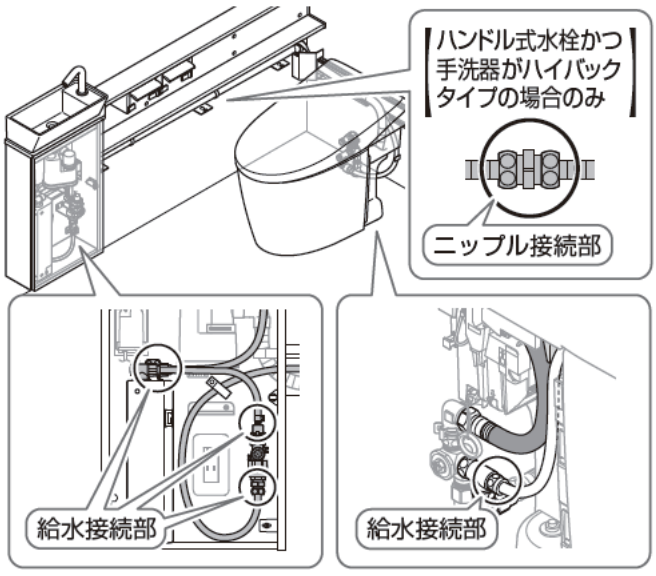
□流量は少なくないか

※流量が少ない場合は、止水栓を閉めて、フィルターを掃除してください。止水栓に定流量弁が内蔵されているため、流量の調整は不要です。

⚠注意

必ず守る

運転(洗浄)後、大便器ボウル内に配管の切粉など異物がないことを確認する
もらいさびなど異物付着の原因となるおそれがあります。



❷ 手洗器側の水漏れの確認を行う

自動水栓の光電センサーLEDは、電源を入れてから約10分間は点滅もしくは感知のたびに点滅しますが、その後は点滅は消え、正常に作動します。

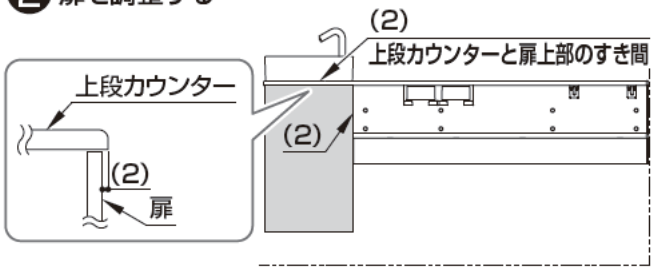
3 手洗器キャビネット扉の調整

【扉を開けた時、壁などに当たる場合】

❶ クッション材をはり付ける

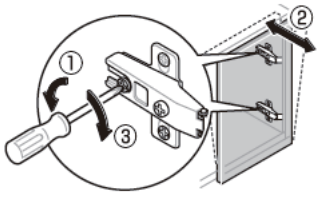
※はり付け面を水ぶきし、乾燥後はり付けてください。
※お使いにならない場合は、取扱説明書と一緒にお客様に渡してください。

❷ 扉を調整する



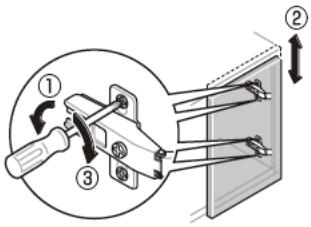
前後を調整（右開き）

①ゆるめる（左回し）
②扉を動かす
③締める（右回し）
※左開きも同様です。



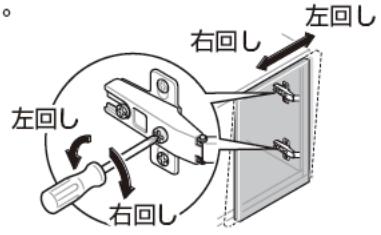
上下を調整（右開き）

①ゆるめる（左回し）
②扉を動かす
③締める（右回し）
※左開きも同様です。



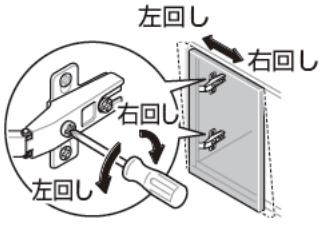
左右を調整（右開き）

ねじを回すと、扉が動く。

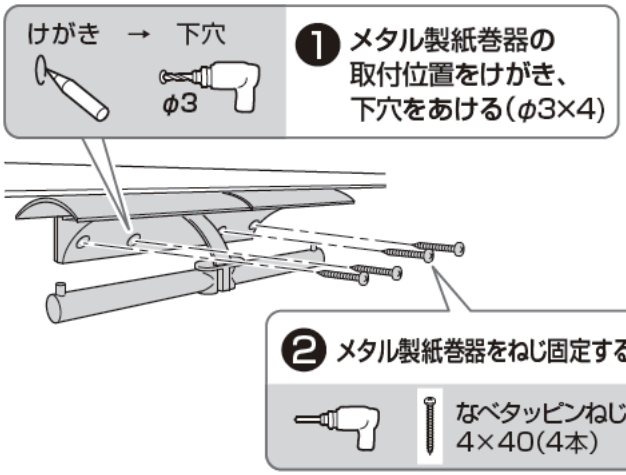


左右を調整（左開き）

ねじを回すと、扉が動く。

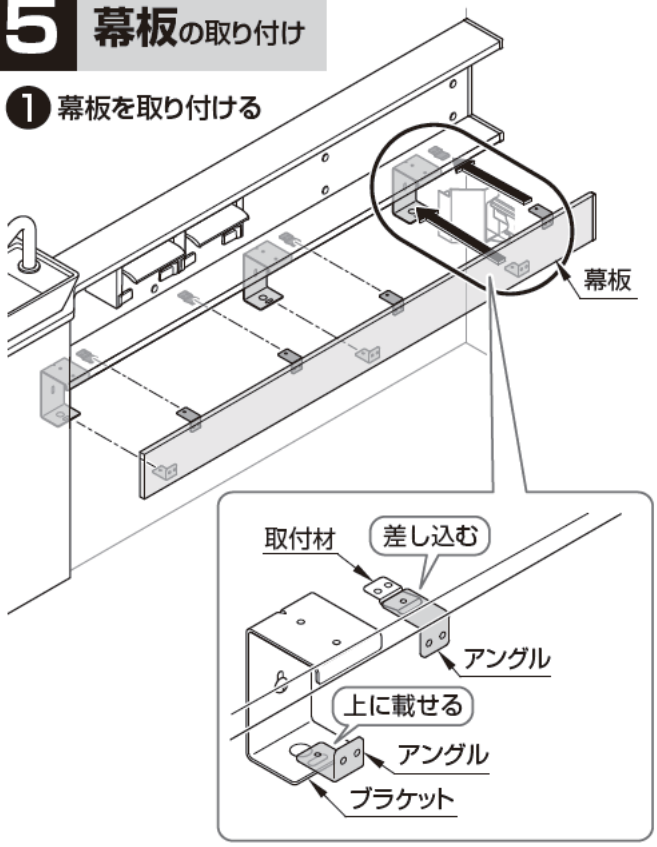


4 紙巻器の取り付け（メタル製紙巻器）

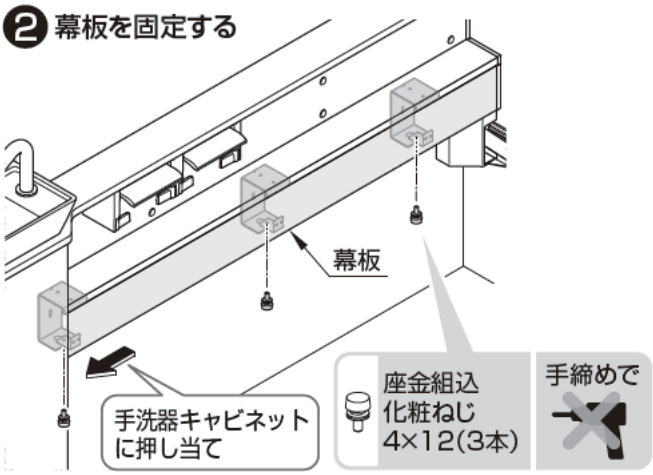


5 幕板の取り付け

❶ 幕板を取り付ける

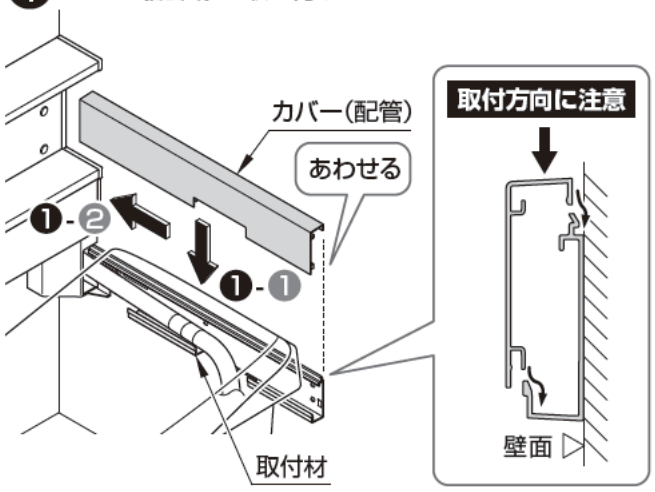


❷ 幕板を固定する

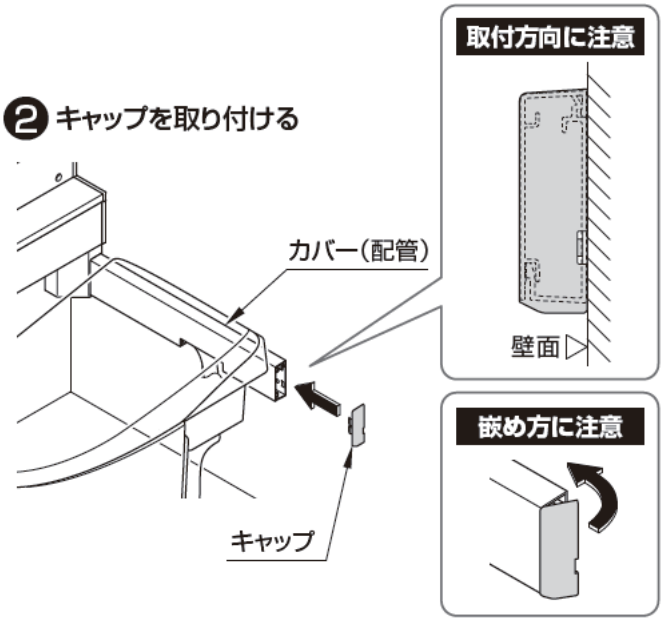


6 カバー(配管)の取り付け

❶ カバー(配管)を取り付ける



❷ キャップを取り付ける



※大便器・ウォシュレットタイプにより手順が異なります

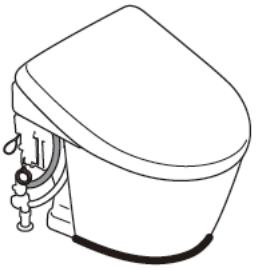
AS/RSタイプの場合 ▶P.87
LSタイプの場合は 8 へ ▶P.88

AS/RSタイプの場合

7 すっきりパネルの取り付け

❶ 大便器ハカマ下部周囲に防カビ性のシリコーン系シール材(メジシール)を図の太線の範囲を参考にして塗布する

※トイレ床材に防水加工がされていないフローリング(木質系)を使用すると、こぼれた小水や結露水などが大便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。
※フローリング(木質系)を使用される場合は、大便器ハカマ下部周囲に防カビ性のシリコーン系シール材(メジシール)を塗布することをおすすめします。



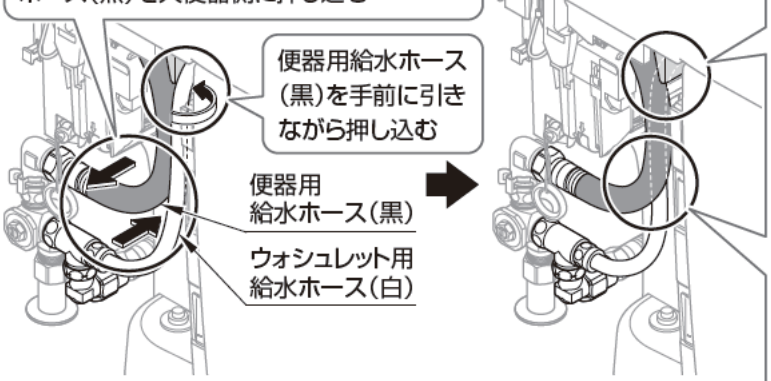
❷ 便器用給水ホース(黒)の奥側にウォシュレット用給水ホース(白)が納められているか確認する

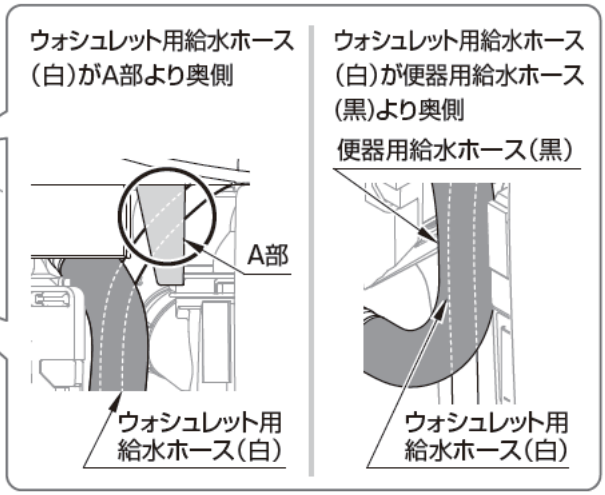
動画を見る
給水ホースの収納方法

⚠注意

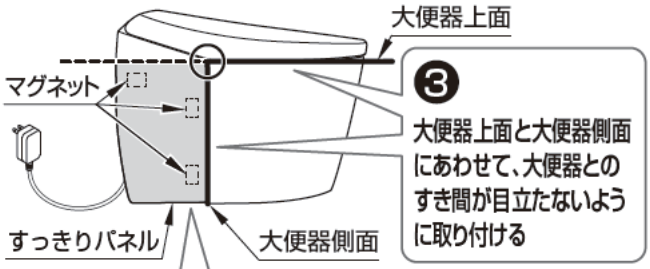
必ず守る
ホース類がすっきりパネルに当たらないことを確認する
すっきりパネルが外れる原因になります。

ウォシュレット給水ホース(白)を便器用給水ホース(黒)の奥側に押し込み、便器用給水ホース(黒)を大便器側に押し込む





※図は床排水200mm 床給水の場合



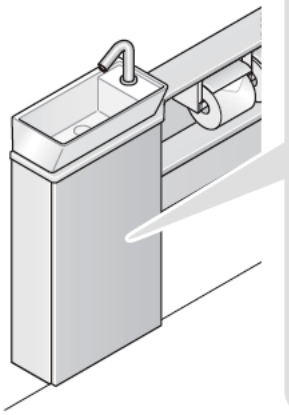
❸ 大便器上面と大便器側面にあわせて、大便器とのすき間が目立たないように取り付ける

リモデル200mm、リモデル320～540mmの左給水の場合

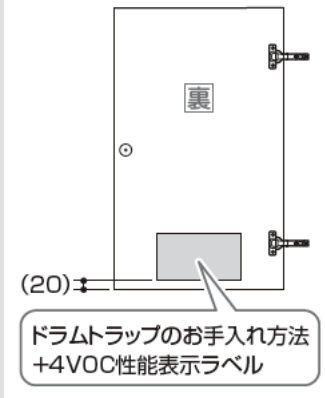
・マグネット部（3カ所）をしっかり押さえて、すっきりパネルが外れないことを確認する
・すっきりパネルにすき間や浮きがある場合は、❷を参考に給水ホースの収納方法を確認する
すき間や浮き上がりがある場合、陶器からすっきりパネルや板金が外れ、取り付けができなくなるおそれがあります。

8 ラベルのはり付け

❶ 扉裏面にラベルをはり付ける



ラベルはり付け位置
図の位置（扉中央下部）にラベルをはり付ける

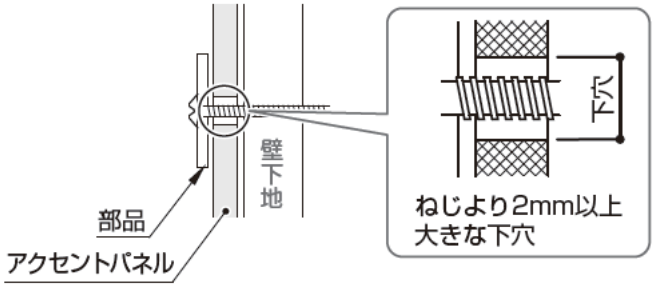


9 器具類の取り付け

【タオル掛け、化粧鏡、手すり、ハンドグリップを選択している場合】
各商品に同梱されている施工説明書を参照してください。

【上記商品とあわせてアクセントパネルを選択している場合】
下記を参照してください。

❶ リモコンハンガー、手すり、ハンドグリップ用の穴をあける



・下穴は固定ねじ径より大きくあける
ねじ締め時にアクセントパネル意匠面にひびが入るおそれがあります。
・下穴は壁下地まで貫通させない
ねじがきかなくなり、取り付けた部材が落下するおそれがあります。

❷ リモコンハンガー、手すり、ハンドグリップを取り付ける

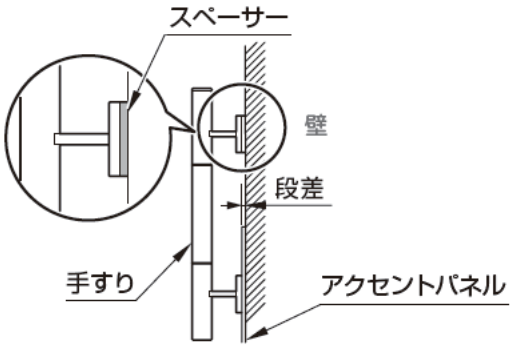
リモコンハンガー

参照 ウォシュレットの施工説明書

アクセントパネル本体内部にリモコン本体が収まるよう設置する
アクセントパネルをまたぐようにリモコン本体を設置すると、リモコン本体が外れるおそれがあります。

手すり

参照 手すり、スペーサーの施工説明書



段差を解消するため、スペーサーを必ず入れる
アクセントパネルの厚み分の段差が生じ、手すりが外れるおそれがあります。

ハンドグリップ

参照 ハンドグリップの施工説明書

MEMO

11. シリコーン系シール剤

1 シリコーン系シール剤の塗布

⚠警告

必ず守る

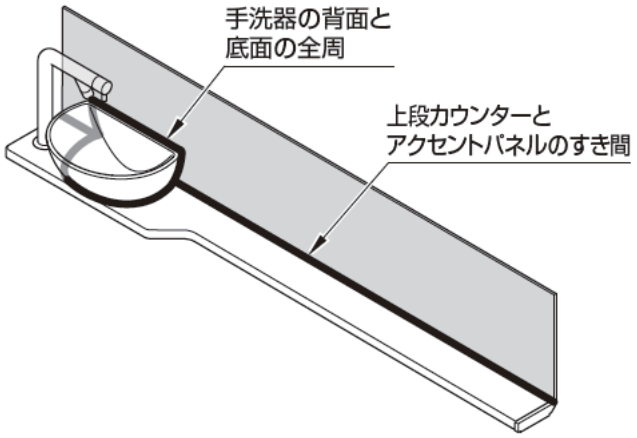
シリコーン系シール剤の塗布（コーキング）は確実に行う
水などがキャビネット内に浸入してコンセントにかかり、火災や感電の原因となります。

※ジョイントコークなどの水溶性のコーキングは使用しないでください。
※TOTOおすすめシリコーン系シール剤（別途手配）
メジシール（クリア）：YG903S

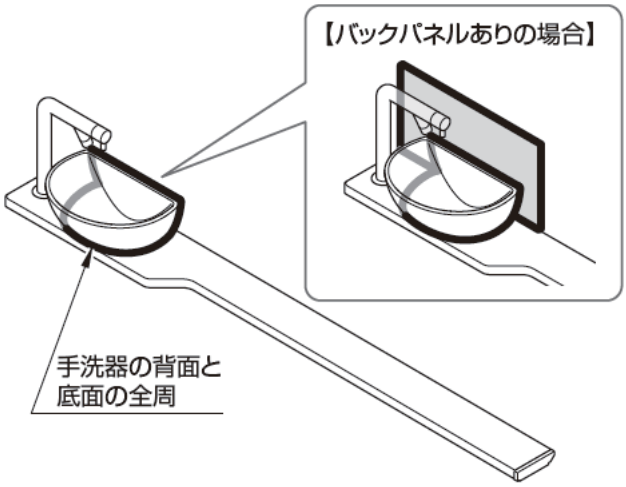
❶ 手洗器と大便器のコーキング位置について図の太線の範囲を参考にする

ベッセルタイプ（丸形）の場合

アクセントパネルありの場合

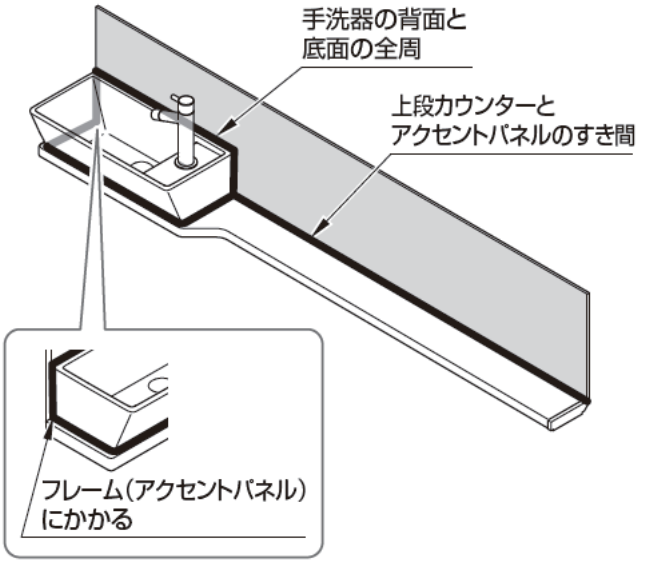


アクセントパネルなしの場合

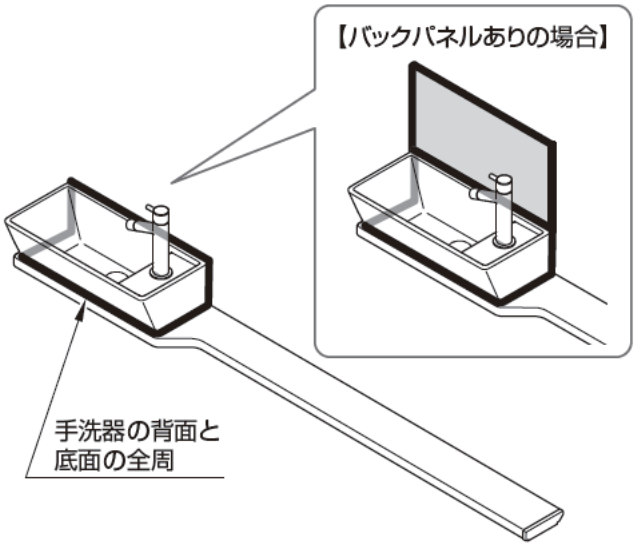


ベッセルタイプ（角形）の場合

アクセントパネルありの場合



アクセントパネルなしの場合



ハイバックタイプの場合

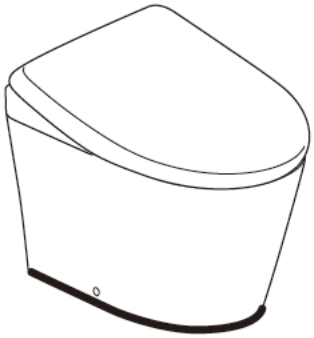
※手洗器・キャビネット周辺のシリコーン系シール剤は不要です。

AR/RSタイプの場合

※AS/RS タイプの塗布は、「10. 確認・仕上げ」にて行います。
P.87 7 ❶ 参照

LSタイプの場合

※トイレ床材に防水加工がされていないフローリング（木質系）を使用すると、こぼれた小水や結露水などが大便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。
※フローリング（木質系）を使用される場合は、大便器ハカマ下部周囲に防カビ性のシリコーン系シール材（メジシール）を塗布することをおすすめします。



MEMO